

研究について、研究者と語り合いませんか？

Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?

Kyoto University
Academic Day 2017

京都大学
アカデミックデイ
2017

報告書



2017 年 9 月 30 日 (土) 10:00 - 16:00 | 京都大学百周年時計台記念館

開催日時 2017 年 9 月 30 日（土）10 時 00 分から 16 時 00 分 ※但し、一部プログラムについては 17 時 00 分まで実施

会場 百周年時計台記念館 2 階

目次 1. 概要

1-1. イベント概要

1-2. 山極総長からのメッセージ

1-3. 会場配置図

2. プログラム

2-1. 研究者と立ち話

2-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

2-3. お茶を片手に座談会

2-4. 研究者の本棚

2-5. 対話マラソンのための給水ポイント

3. アンケート

3-1. 来場者アンケート

3-2. 出展者アンケート

3-3. 京都大学アカデミックデイ賞

4. 出展者情報

4-1. 研究者と立ち話

4-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

4-3. 出展参加者一覧

5. その他

5-1. 出展者向け事前説明会

5-2. イベント終了後の学内限定タイム（出展者交流）

5-3. 広報物

6. 支援体制・準備スケジュール

6-1. 支援体制

6-2. スタッフリスト

6-3. 準備スケジュール

6-4. デザイン・制作物スケジュール

7. （資料）ブックリスト

1. 概要

1-1. イベント概要

2017年9月30日、百周年時計台記念館で「京都大学アカデミックデイ 2017」を開催しました。第7回目となる今年は、学部生・大学院生を含む212人が58組（高校からの出展1組を含む）の研究プロジェクトにおいて発表しました。また来場者は408人に上りました。

「京都大学アカデミックデイ」は、市民や研究者、文系、理系を問わず、誰もが学問の楽しさ・魅力に気付くことができる「対話」の場となることを目的として、「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。本学の研究者が来場者と直接対話することで、本学の研究活動を分かりやすく説明するとともに、本学における研究活動に国民の声を反映させることを目指しています。

企画のデザインや運営は学術研究支援室（KURA）、研究推進部研究推進課及び「国民との科学・技術対話」ワーキンググループが協働し、対話が促進されるプログラム4つを用意しました。

様々な分野の研究に触れられるポスター展示の「研究者と立ち話」、研究者とじっくり対話できる「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、テーマに沿って研究者と来場者が議論する「お茶を片手に座談会」、そして参加研究者のお勧め図書を紹介する「研究者の本棚」です。会場のあちこちで、研究者と来場者の対話が生まれました。また、会場内には、「対話マラソンのための給水ポイント」を設置し、飲み物を無料で提供しました。

また、来場者にはアンケート調査への協力を依頼しました。寄せられた回答の中から、企画や出展に関する意見やコメントを出展者にフィードバックすることで、今後の対話活動をさらに発展させていきます。



会場（百周年時計台記念館）

1-2. 山極総長からのメッセージ

京都大学アカデミックデイにご来場のみなさまへ

京都大学は創立以来、対話を根幹とした自由の学風のもと創造の精神を涵養し、高等教育と先端的学術研究を推進してまいりました。情報技術が目覚しく発展し、世界の情勢が急激に激動するなか、京都大学は地球社会の調和ある共存を目標にして多元的な課題の解決に果敢に挑戦しております。そのために私は、京都大学を世界や社会へ通じるための「窓」として位置づけ、新しい時代の要請に応えていこうと思います。窓、すなわち WINDOW にちなんで、次のような方針を掲げています。Wild and Wise（野生的で賢い学生を育てる）、International and Innovative（国際的で革新的な能力を重視する）、Natural and Noble（自然に学び、高潔な人格を育てる）、Diverse and Dynamic（多様で変化に満ちた世界を理解する）、Original and Optimistic（独創性を明るいきもちとともに育てる）、Women and Wish（女性が輝く、希望に満ちた環境を作る）、という計画です。そして、京都大学の学術研究の成果を市民に還元するとともに、市民の理解と支持を得て、共に学術研究を推進していこうと考えています。



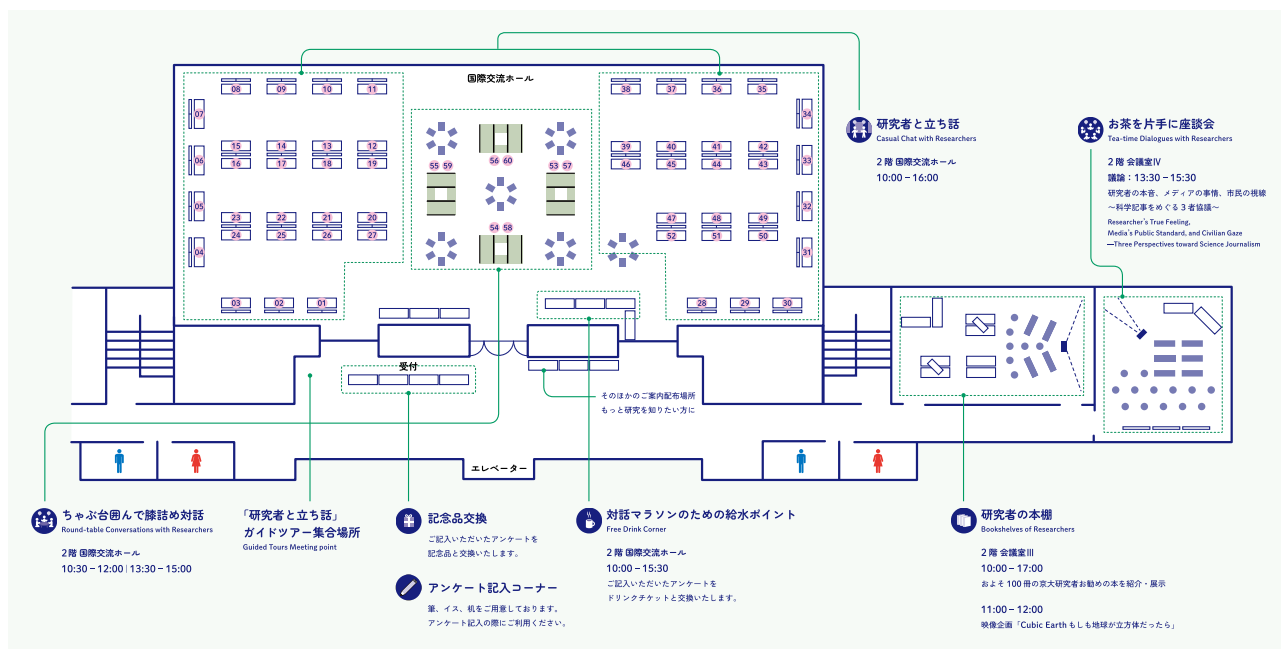
京都大学アカデミックデイは、みなさまと京都大学の研究者とが直接対話をする場として企画したものです。学術研究の成果だけでなく、研究が営まれているさまや、同じ1人の人間としての研究者を知っていただく機会になればと思っています。そしてこの機会に是非、研究者に疑問を投げかけてください。みなさまとの対話は、研究者にとって自らの研究の社会の中の位置づけや課題を捉え直す機会となります。そして、成果還元の可能性や新たな活躍の場が広がって行きます。

この対話の場である京都大学アカデミックデイが、みなさまと共に我が国の学術研究を育む場になることを期待しています。

京都大学総長 山極壽一

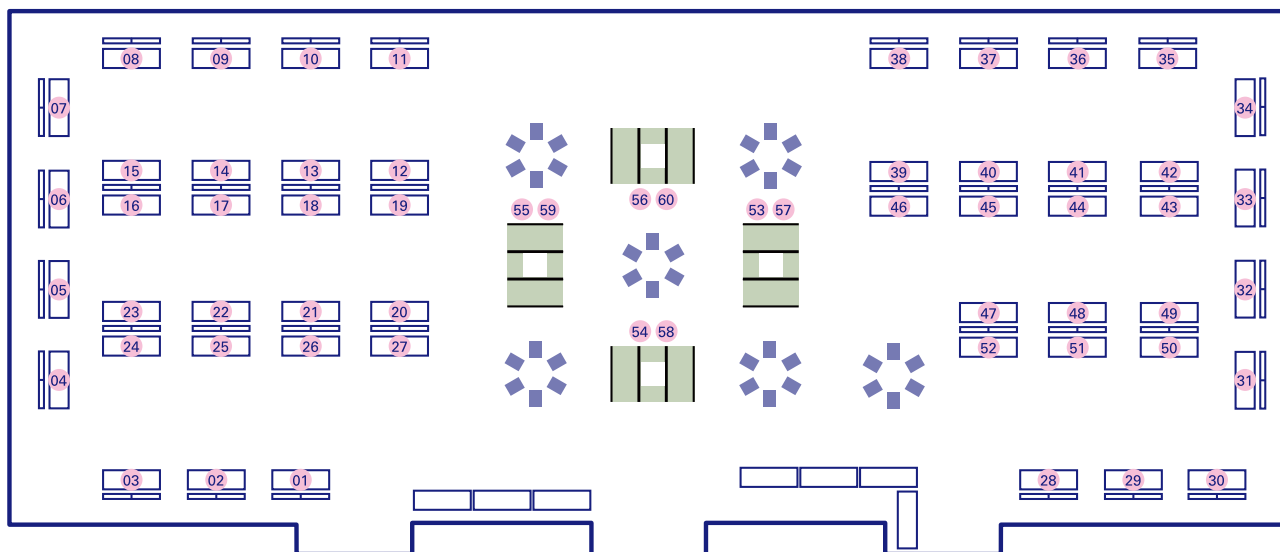
1-3. 会場配置図

1-3-1. 「京都大学アカデミックデイ」配置図

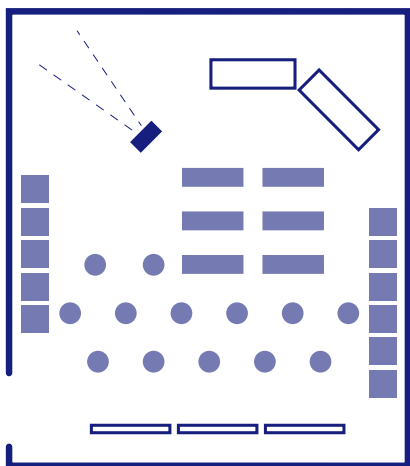


■ 1-3-2. 各コーナーレイアウト

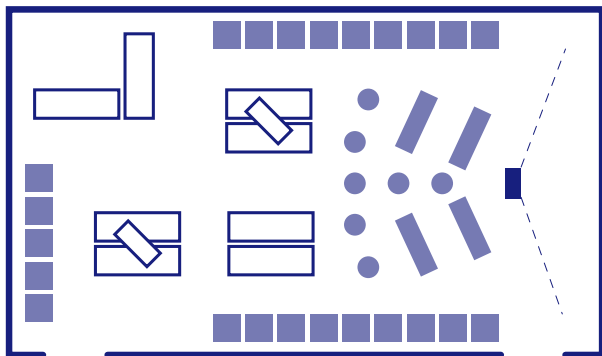
- 2階 国際交流ホール：研究者と立ち話・ちゃぶ台囲んで膝詰め対話



- 2階 会議室Ⅳ：お茶を片手に座談会



- 2階 会議室Ⅲ：研究者の本棚



2. プログラム

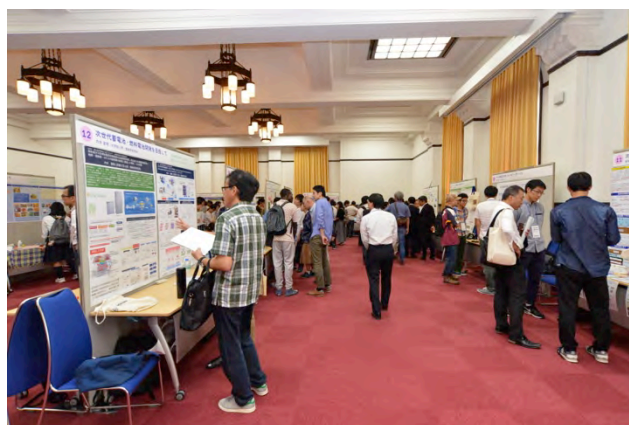
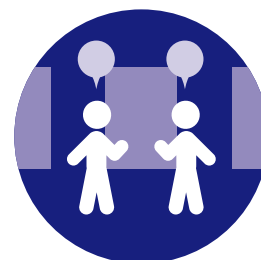
2-1. 研究者と立ち話

2-1-1. 概要

日時 9月30日（土曜日）10時00分～16時00分

会場 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール

大学研究者、高校生などによる研究紹介のコーナー。会場には50のポスター展示がずらりと並び、ポスターの前ではその研究を行っている研究者が来場者と直接語り合いました。また、ポスターの前に模型やサンプル、資料等を並べ、それらを使って研究の紹介をする研究者の姿も多く見られました。さまざまな立場で研究をしている人が一堂に集まっていたため、研究者同士の交流も深まり、互いに刺激をシェア場になっていました。



2-1-2. 「研究者と立ち話」ガイドツアー

「なんとなく話しかけづらい」「数が多すぎてどの話を聞けばよいのか迷ってしまう」といった来場者からの声に応えるため、京都大学アカデミックデイでは学生サポーターによるガイドツアーを導入しています。京都大学の学生がツアーガイド役となり、来場者と一緒に「研究者と立ち話」を回る企画です。

協力：有限会社関西教育考学



■ 2-1-3. 「研究者と立ち話」出展一覧

● 京都大学

出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
飯田敦夫（ウイルス・再生医科学研究所）	サカナを使った蛍光イメージング
陰山洋（大学院工学研究科）	複合アニオン材料でもたらされる新物質
金光義彦（化学研究所）	ナノサイエンスで未来の太陽電池を創る
緒方広明（学術情報メディアセンター）	教育・学習支援のためのデータ分析
田中功（大学院工学研究科）	ナノ構造研究の最先端：新しい材料開発
市川温子（大学院理学研究科）	素粒子ってなんだろう？
宇高寛子（大学院理学研究科）	ナメクジとあなたで始める新しい科学
入江一浩（大学院農学研究科）	アミロイドβの構造解析と診断への応用
小野輝男（化学研究所）	小さな磁石を用いたメモリーデバイス
薮塚武史（大学院エネルギー科学研究科）	次世代の医療を支えるアパタイトの科学
内本喜晴（大学院人間・環境学研究科）	次世代蓄電池・燃料電池開発を目指して
松田道行（大学院生命科学研究科）	光で探る生命の原理
佐藤文彦（大学院生命科学研究科）	植物は何故薬をつくるのだろうか？
村上章（大学院農学研究科）	『土と水の科学』から見る生産基盤
舟川晋也（大学院地球環境学堂）	環境低負荷型農業の確立を目指して
中谷加奈（大学院農学研究科）	土石流が発生した時に危険な場所は？
杉山弘（大学院理学研究科）	人工遺伝子スイッチでがんを治す
竹本佳司（大学院薬学研究科）	くすりを組み立てる分子“触媒”の研究
高井茂臣（大学院エネルギー科学研究科）	構造欠陥が導くイオン伝導の世界
河西瑛里子（人文科学研究所）	21世紀によみがえる魔女たち
近藤直（大学院農学研究科）	蛍光物質が救う90億人の食料
高塚和夫（福井謙一記念研究センター）	分子科学の超高速実験と動的電子描像
松田直樹（大学院工学研究科）	音で見るー超音波による非破壊検査ー
大本義正（大学院情報学研究科）	人の間に浮かぶ「意思」
中北英一（防災研究所）	豪雨の謎に挑む
横山操（大学院農学研究科）	木の物語を聴く、木のお話を読む
Daniel Milne（国際高等教育院） 伊藤佳世子（国際高等教育院） David Lees（国際高等教育院） Sara Schipper（国際高等教育院） Jennifer Teeter（国際高等教育院）	英語教育や異文化理解に関する研究
井上康博（ウイルス・再生医科学研究所）	めっちゃ折れてん！2017
南英治（大学院エネルギー科学研究科）	木からガソリンを創る！
乾晴行（大学院工学研究科）	炎を制するー超耐熱構造材料

津江広人（大学院人間・環境学研究科）	甘いゲルで二酸化炭素をつかまえる
佐藤恵子（医学部附属病院 臨床研究総合センター）	ゲノム編集で肉厚な真鯛、食べる？
田中庸裕（実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池元素戦略研究拠点ユニット） 田中功（構造材料元素戦略研究拠点ユニット）	元素戦略プロジェクト
秋吉一成（大学院工学研究科）	ナノ材料で病気を治す
松崎慶一（環境安全保健機構附属健康科学センター）	効率的な検尿スクリーニングを目指して
辻伸泰（大学院工学研究科）	バルクナノメタル：常識を覆す構造材料
積山薫（大学院総合生学館）	脳と認知機能のアンチエイジング
松田素二（大学院文学研究科）	アフリカから人類の未来の幸せをみる
富井眞（文化財総合研究センター）	うつわの正面ど〜れー古代人の認知ー
齊藤博英（iPS細胞研究所）	世界を変える RNA テクノロジー
石見拓（環境安全保健機構附属健康科学センター）	大学生から始める健康情報利活用
山本孟（文学部）	楔形文字の世界と文字認識の実現
渡部祐司（高大接続科学教育ユニット）	ELCAS＝京都大学×高校生×探究
土井俊哉（大学院エネルギー科学研究科）	超伝導 電気抵抗ゼロって素晴らしい
伊佐正（大学院医学研究科）	脳の機能回復に関わる神経回路の変化
北川進（高等研究院）	ナノ空間の世界と化学
米田稔（大学院工学研究科）	放射能汚染廃棄物のこれから
澄川貴志（大学院工学研究科）	電子顕微鏡中でのナノの世界の力学実験
杉本直志（iPS細胞研究所）	iPS細胞から輸血用の血小板を作る

● 高等学校・高等専門学校

学校名	出展タイトル
京都府立海洋高等学校	イガイは意外といい！目指せ生産量向上

「研究者と立ち話」レポート

最終日にツアーを担当しましたが、来場者を案内したのは2回だけでした。今回はあまりツアーの需要がなかった上、ツアーを実施しても来場者をブースに案内すればあとは研究者と来場者同士でどんどん対話が進んでいる様子でした。

最初のツアーではカラスマ大学の方4人を案内しました。来場者には高校生からお孫さんがいる人、昨年も来場した人、また久しぶりに来場した人もいて、本当に様々な人が勉強しに来ていることを実感しました。ツアー前に、参加者にまずパンフレットからそれぞれ興味を持った項目を挙げてもらい、その中から3ブースを選んで回りました。最初に訪れたブースでは、タブレット端末を使った教材を実際に見ることができたことと、教育という身近なテーマだったこともあり、来場者も積極的に質問していました。

次の蓄電池・燃料電池のブースでは、電気自動車などについて説明してもらいました。ここでも来場者は積極的に質問していましたが、後で感想を聞くと「理系の専門知識が必要で少し難しかった」とのことでした。

次はさらに親しみの湧く話題をと思い、ゲノム編集で肉厚な真鯛を作る研究ブースに行きました。研究者からは、同じ値段の真鯛の刺身定食なら、「養殖の真鯛」「ゲノム編集した肉厚の真鯛」「どちらでもいい」「どちらも嫌」のうち、どれを選ぶかという質問があり、非常に盛り上がりました。4 人のうち 3 人は「ゲノム編集した肉厚の真鯛」を選び、1 人だけ「どちらも嫌」を選びました。日本人は何となく安全性が心配などの理由で、遺伝子組み換えやゲノム編集された食べ物は敬遠するのかと思っていました。しかし 3 人が迷うことなく「ゲノム編集した肉厚の真鯛」を選んだことに私自身とても驚き、研究者の方も意外そうでした。「ゲノム編集した真鯛」を選んだ理由を聞くと、「せっかくだから新しいものを食べてみたい」という意見があり、「そもそも京都大学アカデミックデイの来場者は好奇心旺盛で、最新技術に対しても好意的な意見を持つ方が多く、このような結果になったのでは」と思いました。しかし、やはり「どちらも嫌」と答えた来場者を中心に安全性についての質問も多くあり、研究者と来場者の間で非常に活発に議論が交わされ、気が付けば 30 分近くも経っていました。

2 回目のツアーの来場者はメーカー勤務の会社員の方で、「最新の研究内容を勉強しに来た」とのことでした。ブースを回る前にお話を伺うと、非常に幅広い分野に関心を持っておられるようでしたが、一番お仕事に近そうなものをということで、初回にも訪れた蓄電池・燃料電池のブースに案内しました。ここでは研究者の方と非常に意気投合し、専門的な内容まで深く話し込んでいる様子でした。私は物理の知識が全くないのでただ隣で聞いていたのですが、途中から別の研究者の方に大学院のことや中国の歴史などについてお話を聞かせていただき、よい機会になりました。この方は 1 時間弱このブースで話を聞いた後、あとはご自身でブースを探してみるとのことで、ツアーを終了しました。

ツアー担当としてのお仕事は多くはありませんでしたが、会場全体を見回る中でいろいろなお話を聞くことができたのはよかったです。研究者も「ここに来る方はけっこうグイグイ聞いてくれる方が多い」と話しておられました。今後も、研究者と来場者が対話するこのようなイベントが盛り上がっていけばいいなと思いました。

教育学部 3 年 江谷友梨

2-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

2-2-1. 概要

日時 9月30日（土曜日）10時30分～12時00分／13時30分～15時00分
会場 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」は、研究にまつわるあんな話、こんな話を、来場者と大学の研究者がお茶の間気分で話し合うコーナーです。会場には3帖の畳から成る4つのちゃぶ台ブースが設置され、10時30分から12時の間に4つ、13時30分から15時の間に4つ、計8つの研究者／グループが対話に臨みました。各研究グループは、どんな研究を行っているのか、なぜその研究をすることになったのか、などを来場者と語り合いました。

本企画でも、学生サポーターが案内役を務めました。



2-2-2. 「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」出展一覧

日時	出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
9月30日（土） 10:30～12:00	鈴木基史（大学院工学研究科）	変幻自在のマイクロミキサー
	等々力政彦（大学院農学研究科）	共生進化の実験
	溝脇尚志（大学院医学研究科）	革新的放射線治療技術の開発と実用化
	田鶴寿弥子（生存圏研究所）	木の文化を観る
9月30日（土） 13:30～15:00	藤本明洋（大学院医学研究科）	ヒトゲノムの深い理解を目指して
	梶井克純（大学院地球環境学）	大気汚染物質は何処から来るのだろうか
	榊茂好（福井謙一記念研究センター）	フロンティア軌道理論；役に立つの？
	華井明子（大学院医学研究科）	「これは効く」ってなんだろう？

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」レポート1

今回は午前午後を通して8つのちゃぶ台が設けられましたが、全体的に注目すべき点は高校生の来場者が多かったことです。進路選択の手掛かりとして、熱心に話を聞いている姿が見られました。特に、医学研究科の台では、医学部も視野に入れながら進路に悩んでいる高校生が参加していました。午後の部では、内容は大きく異なる医学研究科の台が2つ設置されました。高校生の進路選択への助力という観点から言えば、先生方とより近い距離感で対話のできるちゃぶ台では、研究科の異なる台を置くと、様々な分野に興味のある高校生の来場が見込めるのではないかと感じました。

ここからは、それぞれの台での様子です。まず、『ヒトゲノムの深い理解を目指して』では、難解な言葉に見えるヒトゲノムに関して詳細を説明していました。年齢層としては、30代以上の方が多かったように感じました。次に、『大気汚染物質は何処から来るのだろうか』では、生活の中で比較的耳にする機会の多い言葉であるPM2.5に関して、実際に報道されている様子を流す等、参加者の興味を引くコンテンツを取り入れていました。また『フロンティア軌道論；役に立つの？』では、ノーベル化学賞を身近に感じることができるため、多くの来場者が集まっていました。この台でも、高校生や比較的年齢の若い来場者が熱心に理論に耳を傾けていた様子が印象的でした。

最後に『「これは効く」ってなんだろう？』では、便秘予防には運動が効果的であるという理解しやすい話でスタートし、実際の模型等を用いて説明していました。そのため来場者も、台に入りやすいように感じられました。

ちゃぶ台での対話の利点は、研究者との距離感の近さにあります。そのため長時間の対話時間を要するので、設定されている時間が短すぎるようにも感じました。また、畳の上に座れずに外から見学していた来場者の方もいたため、もう少しスペースを確保することで、より多くの来場者が研究者と対話できるのではないかと考えました。

個人としては、自身の研究について高校生から尋ねられて、喜びを感じました。同時に、専門知識を持たない人に対して専門的な内容を説明することの難しさを実感し、聞き手の生活により近い部分から説明を始めることの重要性に気付かされ、非常に勉強になりました。研究活動の深い部分まで考えると忘れがちな“この研究は世の中のどのような点に役立つのか”という視点を、日々の研究活動で大切にしようと考えました。

大学院工学研究科 修士課程2年 宮垣亮汰

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」レポート2

10:30~12:00 のちゃぶ台のコーナーを担当しましたが、このコーナーでは午前午後でそれぞれ4組の研究者／研究グループが来場者と話し合っていました。

その4つのグループの発表の方法は多彩で、大きなディスプレイを用いてまるで少人数講義の形で研究内容を説明した後に来場者と話し合っている研究者や、手に持てるサイズの端末を用いて1対1のグループをいくつか作って来場者と話し合っているグループ。さらに実際に木片を持ってきて、それを来場者に見てもらうことで体験させる研究者などがいました。

来場者の年齢層は、上は60代の年配の来場者から下は小学生まで多岐にわたっていました。どの研究者もそれぞれの来場者と真摯に対話しており、各コーナーでは満足そうな表情で去る姿が非常に多く見られました。小学生だと、当然現在の知識だけでは研究の内容を理解することが出来ないかと思いますが、そのような来場者に対しても、研究者が身近な例を持ち出すことで研究内容の理解を進めてもらえていたように感じました。各研究者が相手の興味やレベルに合わせて説明が出来ていることは遠くからでもよくわかり、来場者の中には、保護者をそっちのけにして研究者に質問をしている小学生の姿も見られました。会場で満足げな表情の来場者を見ると、市民と研究者の対話は大成功に終わったように思います。

しかし、いくつか問題点もありました。それはつい話し込んでしまうということです。これはちゃぶ台のメリットでもあります。しかし、「研究者と立ち話」と違って、座ってより深い対話をする事が出来る一方で、多くの来場者がこの企画を楽しめないことにつながります。実際、興味を持ってはいたものの、研究者が他の来場者と話し込んでいたのをしばらく待ち、話が終わらない様子を見て諦めて去っていった人もいました。先に話していた方が長い間話していたら交代していただくという選択肢も取れましたが、そうでない場合には、自分の番がいつ来るのか分からない現状では待つ事が時間をただ浪費することにつながってしまう可能性も高いと感じます。90分を研究者と来場者に任せるという形ではなく、例えば、30分のタームを3つ作るなど、もう少し細かな時間分けをすることで、より多くの人がこの企画を楽しむことが出来るようになるのではないかと考えました。

個人としては、こちらから働きかけをせずともちゃぶ台に自身で興味を持って参加していた人もかなり多く、研究内容だけでなく研究者との対話への市民の興味というものが自分の予想以上だったことに驚きました。このような市民の興味の芽を摘み取ってしまわないよう、ちゃぶ台コーナーを拡大するのもよいと思いました。

大学院文学研究科 修士課程1年 由田拓真

2-3. お茶を片手に座談会

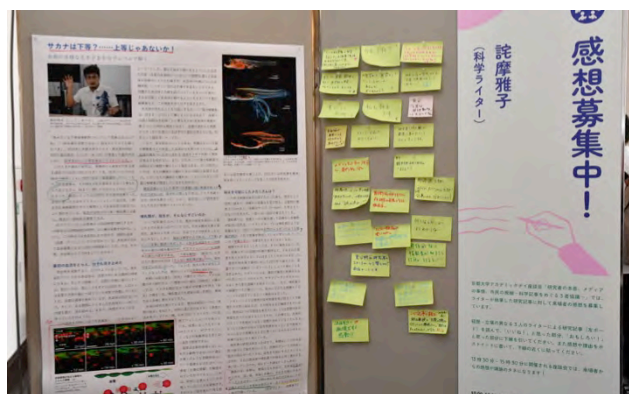
2-3-1. 概要

日時 9月30日（土曜日） 感想募集：10時00分～12時00分

議論：13時30分～15時30分

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室IV

一つのテーマに沿ってみんなで語り合うトークライブ「お茶を片手に座談会」。今回は、「研究者の本音、メディアの事情、市民の視線～科学記事をめぐる3者協議～」と題し、研究による知が市民に届く過程を、研究者、市民、情報編集者（メディア関係者）の3者で議論しました。研究者が生み出す知が、社会に浸透していく上でどのようなハードルがあるのか、また3者の立場の違いとは。発信者、受信者、媒介者が知の共有化を推し進めるきっかけを目指し、白熱した議論を交わしました。また、座談会の前には記事を展示し、来場者から感想を募るコーナーを設置しました。



■ 2-3-2. トークテーマ・参加者一覧

● テーマ 「研究者の本音、メディアの事情、市民の視線 ～科学記事をめぐる3者協議～」

日時 9月30日（土曜日）13時30分～15時30分

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室Ⅳ

登壇者 記事を書いて話す人…引野肇（高エネルギー加速器研究機構 広報室長）

詫摩雅子（科学ライター）

松尾浩道（京都新聞社 報道部 科学・大学担当記者）

研究をしている人…飯田敦夫（京都大学 ウイルス・再生医科学研究所 助教）

コメントする人…小林傳司（大阪大学 理事・副学長）

ファシリテーター…大西将徳（京都大学 学術研究支援室 リサーチ・アドミニストレーター）

企画協力

飯田敦夫（京都大学 ウイルス・再生医科学研究所 助教）

一方井祐子（滋賀大学教育学部 特任講師）

澤田莉沙（大阪大学大学院生命機能研究科 博士課程3年）





「お茶を片手に座談会」レポート 1

本年は、「研究者の本音、メディアの事情、市民の視線 ～科学記事をめぐる3者協議～」をテーマに座談会が行われました。我々が日常で接する「科学」は、そのほとんどがメディアを通して伝わっているのが現状です。「研究による知が市民に届く過程」、その在り方について、3者が様々に議論できた非常に内容の濃い座談会となりました。

研究者を代表して登壇したのは、飯田敦夫助教（京都大学ウイルス・再生医科学研究所）です。座談会にあたり、まず飯田助教が数年前に研究した「小型魚類を用いた血液循環開始のメカニズム」に関する3つの記事を貼り出し、来場者に読んでもらいました。この記事は、引野肇氏（高エネルギー加速器研究機構 広報室長）、詫摩雅子氏（科学ライター）、松尾浩道氏（京都新聞社 報道部 科学・大学担当記者）がそれぞれ本企画のために書いたものです。見比べると、各々が全く異なるテイストの記事に仕上がっており、「同じ研究内容を伝えるにも、これほど違う記事になるのか」との声も聞かれました。座談会までに、この3つの記事の横には、来場者による数十枚のコメントペーパーが寄せられていました。

午後は、これらのコメントをもとに、記者の3氏と飯田助教、さらに小林傳司氏（大阪大学 理事・副学長）を迎え、座談会を行いました。まず3者の記事に相違が生まれた理由について、記者らは「想定している読者の違い」を挙げました。科学記事と一口に言っても、プレスリリース、雑誌、新聞と、それぞれ普段相手にしている読者層が異なるため、必然的に内容の幅や深さが異なってくることが分かりました。

また、読者層の違いが記事内容の違いになる一因としては、「ピュアサイエンスに対する認識の相違」が挙げられました。現代の日本では、「研究は何かしら社会貢献にならねばならない」という一般論が目立ちます。そのため、特に市民を相手にするマスメディアでは「記事の末尾に『〇〇に应用が期待される』などを書くことを強要されることもしばしば」だそうです。一方で、「その应用は多くの場合実現しない」のも事実で、「いたずらに期待を煽るのは良くない」との意見も聞こえてきました。また研究者側も、「成果が社会に役立たないと研究費が下りないことがある」と、日本のピュアサイエンスへの認識を憂っていました。

さらに会場からは、『「研究者が面白いと思うこと」』、『「記者が面白いと思うこと」』、そして『「読者が面白いと思うこと」』は全て異なるのではないかと鋭い意見も出ました。確かに、ここに相違があるのも事実で、我々市民のもとに情報が届くまでには二度ものバイアスがかかっている、という現状が浮き彫りになりました。

その他にも、「単に事実だけを並べてもよいが、それではプロの記者である意味がない」「科学記事の本質は、科学の面白みを伝えることだ」などの意見もあり、3者にとって非常に有意義な座談会だったと感じました。そして、「3者の距離が近くなればなるほど、科学記事はもっと『科学記事』になる」ことを学んだ座談会でもありました。小林副学長曰く、「ピュアサイエンスは質の高いエンターテインメント」。その面白さに我々市民が気づくことこそが、「研究による知が市民に届く過程」を輝かせ、ゆくゆくは将来の「ピュアサイエンス研究」を後押しするのではないのでしょうか。

工学部2年 山口雄也

「お茶を片手に座談会」レポート 2

京都大学アカデミックデイ座談会のテーマは「研究者の本音、メディアの事情、市民の視線 ～科学記事をめぐる3者協議～」。

具体的には、生命科学の研究者である飯田敦夫先生のお話を、研究機関広報の引野氏、科学ライターの詫摩氏、京都新聞社の松尾氏の3者がそれぞれの立場で記事に仕上げ、研究室で生まれた「知」の伝え方について議論する、という企画でした。

まず午前中は、国際交流ホール入口横に3者が書いた記事をボードに貼って掲示し、来場者から記事の感想を集めました。昨年度の座談会で同様に一般参加者の意見を集めた時は、最初はなかなか見に来てもらえなかった記憶があったので、感想が十分に集まるか心配をしていましたが、受付のそばという立地も手伝って午前中は絶え間なく様々な方に感想をもらうことができました。興味深いことに、来場者の感想の中には、記事全体の流れや書き方の違いだけでなく、細かな用語の使い方について指摘するものも多く見受けられ、高

い専門性を持ち合わせていなくても正しい「知」を知りたいという一般の方の意識を伺い知れたように思います。

その後、3 者の記事と感想を貼ったボードを移動し、記事を書いた引野氏、詫摩氏、松尾氏に大阪大学の小林理事・副学長、インタビューされた飯田助教を加え座談会が始まりました。登壇者は皆とても面白いコメントをしていましたが、自然科学を専攻するいち大学院生としての立場から、興味深いと感じたコメントを2つ書いておきたいと思います。

1 つ目は、記者によって記事の内容が全然ちがうように見えても、それは記事を伝えたいターゲットの違いによるものであって、記者はみな「深い記事を書きたい」(引野氏)という共通の意識のもと書いているということ。引野氏は井上ひさしの「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく」という言葉を引用して説明し、もの書きのプロとして「むずかしいことをやさしく」書くのは当たり前で、深い、「へえ度が高い」記事を書きたい(引野氏)と述べていたことが印象的でした。自分がターゲットとする読者にとって「へえ度が高い」コンテンツとは何なのか、それによって、記事の流れや書き方が随分変わってしまうのだなと感じました。

2 つ目は、「研究者と一般の人との普遍的な面白さは重ならない」(飯田助教)けれども、そもそも科学は人の心を掻き立てる一種の“エンターテイメント”なのだから、「“なぜおもしろいのか”を研究者はもっと前面に出すべき」(詫摩氏)ということ。確かに科学をよく知る研究者と、あまり科学を知らない一般の方では、面白い・興味深いと感じる点は重ならない部分も多いかもしれません。しかし小林理事・副学長が「科学は上質なエンターテイメント」だと表現したように、科学の営みそのものには人々をワクワクさせるものが本来備わっているものです。「ライターは必ずしも透明ではない」(小林理事・副学長)ですから、研究者が記者におもしろさをしっかり伝えないと、読者が「へえ」と思うような記事を記者が書くことは決してできないというコメントには、私も深く同意しました。

自然科学の大学院生の立場としては、“自分の研究をどのように他の人に伝えるか”という研究者の持つ永遠の課題の一つについて新たな視点を得られたという点で非常に勉強になりました。また、科学から離れた一般の方にとっても“科学の「知」がどのように作られるか”一端を覗けたという点では有意義な時間だったのではないかと思います。自然科学・社会科学・人文科学を問わず、科学者と一般の人の接点が昨今は非常に少ないので、「科学者と一般の人はどこで接しうるのか」見いだせる座談会を、来年以降も期待したいです。

大学院農学研究科 修士課程 1 年 伊左治俊策

2-4. 研究者の本棚

2-4-1. 概要

日時 9月30日(土曜日) 10時00分～17時00分

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室Ⅲ



京都大学アカデミックデイに出展する研究者の推薦図書を展示した「研究者の本棚」と、映像企画「Cubic Earth もしも地球が立方体だったら」を企画。会場では、多くの来場者が本や映像を介して研究者と対話しました。



2-4-2. 研究者の本棚

京都大学アカデミックデイに参加している研究者に、事前に「今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」「若者にお勧めしたい本」「自分の研究に関連して紹介したい本」の4つの質問をし、会場ではその本と、選んだ理由などのコメントを紹介。来場者に本から研究者のことを知ってもらい、また当日参加している研究者との対話のきっかけになることを狙って企画をしました。当日は学術書だけでなく、小説や絵本など幅広いジャンルがずらりと並び、来場者が興味深そうに手に取る様子が見られました。

※本報告書の最後に推薦図書のブックリストを付けています。

協力：京都大学生生活協同組合



「研究者の本棚」レポート

「研究者の本棚」企画は、昨年同様に4つのテーマに沿って、京都大学アカデミックデイに出展する研究者が推薦した本を紹介・展示するものです。専門的な内容を扱った本格的な本もあれば、好奇心をかきたてるような語り口の入門書や漫画、絵本など、非常に多様なものが立ち並びました。こうして幅広いジャンルの本が紹介されることで、さまざまな年齢層、興味関心をもった人たちの要望に応えられているのではないかと思います。

当日、私は午後はこの企画を担当しました。メイン会場で行われている「研究者と立ち話」企画が終了する16時までは客足が少なく、最も賑わったのは、16時から本棚企画終了（17時）までの1時間でした。この本棚企画の目的の一つ、「本棚がきっかけとなってポスターブース・ちゃぶ台・座談会に参加してもらう」ということについては、その目的は残念ながらあまり達成できていないように思います。あくまで本棚企画は間接的に研究者との交流を促すことを目的としたものなので、研究者と直接的に交流できる立ち話企画が賑わえばイベント自体は成功だと言えるかもしれません。しかし、せっかくこのような企画を行うのであれば、今後は宣伝の仕方や目的を別の方向にもっていくことも必要なのではないかと考えます。

大学院人間・環境学研究科 修士課程1年 榎本啄杜

■ 2-4-3. 映像企画

● 映像企画「Cubic Earth もしも地球が立方体だったら」

日時 9月30日（土曜日）11時00分～12時00分

会場 百周年時計台記念館 2階 会議室Ⅲ

映像企画では日本科学協会発案の「Cubic Earth もしも地球が立方体だったら」を上映。地球が立方体になると、生命体は存在するのか、大気や重力はどうなるのか。斬新な視点から地球を見直してもらうことがねらいでした。当日は幅広い年代の来場者が集まり満席となる人気ぶりで、この作品の監修者の一人である酒井敏教授による解説と映像を楽しみました。

登壇者 酒井敏（大学院人間・環境学研究科）



「映像企画」レポート

午前中の本棚企画および映像企画のサポートを担当しました。以下では、主に映像企画について、「企画概要」「当日の様子」「私の所感」の3点に分けて報告します。

今年の京都大学アカデミックデイでは特別企画として、大学院人間・環境学研究科の酒井敏教授による「Cubic Earth もしも地球が立方体だったら」という映像を用いた講演が開催されました。午前11時から「研究者の本棚」コーナーの一角で、前編後編合わせて30分ほどの映像を含む1時間ほど、「地球が立方体の形をしているが、それ以外は私たちの知る自然法則が成り立つ世界」を考察する内容の企画でした。

当日は企画開始15分ほど前から来場者が集まり始め、中高生から子連れの親子など幅広い年代の、途中参加や途中離席等も含めて最大で40人強が楽しみました。会場では映像のあらすじや太陽系の基礎知識などイントロダクションののち前編が上映され、来場者は地球が立方体となった「ちょっと変わった世界」の様子を科学的に考察しながら見ている様子でした。その後、酒井教授が地球の最大の特徴である液体の水の存在について「立方体地球ではどうなるのか」について解説しました。続いての後編も来場者が興味深く視聴している様子で、企画は「地球が立方体の形をしている」というただそれだけで全く違った世界にもなり得るように、「ほんの少しの違いで将来の可能性は無限に広が」り、「常識はいずれ通用しなくなる」という言葉で締めくくられました。

最後に私の所感を簡潔に述べます。地球が立方体の形になるという「たった少しの違い」だけで、こんなにも世界は変わるのかと驚くことばかりでした。まさに酒井教授の言葉の通り、「今ある常識」も非常に限られた条件下でしか成り立たないもので、「今ある常識が常識とならない世界」と自分が隣り合わせにいることを強く実感しました。

また、映像企画が始まる10分ほど前からは、早めに会場に来て「研究者の本棚」コーナーを見る方が10人ほど、映像企画終了後も20人ほどの来場者が本を手取る様子が見られました。昨年の報告によると午前中の本棚コーナーの来場者は少なかったようなので、今回の映像企画の前後で来場者の方々に本棚コーナーにも立ち寄ってもらえたのは、来場者の企画誘導の観点からも会場として大変良かったと思います。

法学部4年 清水亮佑

2-4-4. 関連企画

京都大学アカデミックデイ参加研究者のお勧めの本について、他の施設でも特設コーナーが設置されました。

● 附属図書館

京都大学アカデミックデイ 2017 開催前後の 9 月 15 日から 10 月 20 日にかけて約 1 ヶ月半、附属図書館 1 階で、京都大学アカデミックデイ参加研究者がセレクトした本のうち、「若者にお勧めしたい本」と「自分の研究に関連して紹介したい本」「今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」から約 30 点をレビューとともに展示しました。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1376013>



● 京大生協ショッフルネ（書籍コーナー）

京都大学アカデミックデイ 2017 開催前の 9 月 18 日から 9 月 29 日にかけての約 10 日間、ショッフルネ 1 階イベントスペース展示で「研究者の本棚」が設けられ、推薦書籍の販売が行われました。



2-5. 対話マラソンのための給水ポイント

2-5-1. 概要

日時 9月30日（土曜日）10時00分～15時30分
会場 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール

本年度も“対話マラソンのための給水ポイント”として、コーヒーやジュース、お茶を提供するドリンクコーナーを用意しました。研究者も来場者も夢中で対話し続け、気付けば喉がカラカラ…。「小休止にありがたい」と好評のこのコーナーで喉の渇きを潤し、飲み物を片手に研究者は担当ブースに、また来場者は対話したいブースを探しに戻る様子が見られました。対話を続けてもらうためには欠かせないコーナーです。



3. アンケート

3-1. 来場者アンケート

3-1-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、来場者に2種類のアンケートにご協力いただきました。

1 種類目は、「対話マラソンのための給水ポイント（ドリンクコーナー）」でご利用いただける「ドリンクと交換アンケート」。「京都大学アカデミックデイ」をどこで知ったのか？どのような人が来場されたのか？を主催者が知ることがこのアンケートの目的です。

もう1種類は、お帰りの際にご協力いただいた「記念品と交換アンケート」です。「京都大学アカデミックデイ」の滞在時間や研究者との対話で印象に残ったことなどをご記入いただきました。



● ドリンクと交換アンケート（A5 サイズ：148×210mm）

京都大学アカデミックデイ 2017

ドリンクと交換アンケート

早めに記入！

以下のアンケートにご記入いただくと、「対話マラソンのための給水ポイント」(ドリンクコーナー)でご使用いただけるドリンクチケットと交換いたします。15:30までにドリンクコーナーにお持ちください。

※15:30を過ぎてもアンケートは受付にて回収しておりますので、ぜひご記入ください

2017.9.30

Q 1. 「京都大学アカデミックデイ」の開催を最初にどこで知りましたか？

ポスター・チラシを見て ① 高校 ② 京都大学 ③ その他の大学(大学名:)

④ 地下鉄 ⑤ 市バス ⑥ その他の公共施設(施設名:)

⑦ 新聞記事(紙名:) ⑧ 雑誌 ⑨ ラジオ

⑩ 京都大学ホームページ ⑪ ツイッター、フェイスブック

⑫ メールマガジン、メルマガ

⑬ 「京都大学アカデミックデイ」関係者・出展者からの紹介

⑭ 会場に来て初めて知った(a. 当日配布チラシを見て b. 時計台に来て)

⑮ その他()

Q 2. 京都大学のその他のイベントに参加されたことはありますか？(複数回答可)

① 春秋講義 ② 京大ウィーク ③ 京都大学オープンキャンパス ④ ホームカミングデイ

⑤ 京都大学アカデミックデイ(過去 回参加)

Q 3. 京都大学ホームページや京都大学Facebookサイトを閲覧されたことはありますか？

① よく閲覧する ② 数回閲覧したことがある ③ 閲覧したことがない、知らない

Q 4. 科学・技術に関心がありますか？

① とても関心がある ② 関心がある ③ 関心があるともないとも言えない

④ 関心がない ⑤ 全く関心がない ⑥ わからない

Q 5. 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？

① はい ② いいえ ③ わからない

Q 6. 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？

① 見つけられた。大抵、その内容は容易に理解できる。

② 見つけられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。

③ 見つけられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけられない。

④ わからない

Q 7. ご自身について教えてください。

① 小学生 ② 中学生 ③ 高校生 ④ 高等専門学校 ⑤ 京大生 ⑥ 京大以外の大学などの学生

⑦ 京大教員・研究者(年齢 代) ⑧ 京大職員(年齢 代) ⑨ その他(ご職業 、年齢 代)

Q 8. お住まいの都道府県はどちらですか。

① 京都市内 ② 京都府内 ③ その他(都・道・府・県)

Dialog with the Public

ご協力、ありがとうございました。

● ドリンクチケット（名刺サイズ：55×91mm）

何度でも使える

ドリンクチケット

* 対話マラソンのための
給水ポイント(ドリンクコーナー)で、
ご提示ください

京都大学アカデミックデイ
2017

● 記念品と交換アンケート（A5 サイズ：148×210mm）



京都大学アカデミックデイ 2017

記念品と交換アンケート

帰る前に記入！

以下のアンケートにご記入の上、受付までお持ちください。京都大学アカデミックデイ特製ブックカバーを差し上げます。※品切れの場合はご容赦ください

2017.9.30

本日はご来場ありがとうございました。今後の企画のためにご協力をお願いします。

Q1. 本日の「京都大学アカデミックデイ」の滞在時間はどの程度でしたか？
最も近いものを1つだけお答えください。

① 1時間未満 ② 1時間～2時間 ③ 2時間～3時間
④ 3時間～4時間 ⑤ 4時間～5時間 ⑥ 5時間以上

Q2. 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？

Q3. 本日の「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」と「研究者と立ち話」の中で、あなたが良かったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？

例：「ワクワクしたで賞」、「ぼくの話をよく聞いてくれたで賞」、「研究のウラ話を赤裸々に話してくれたで賞」、「これからも研究をがんばってほしいで賞」など

出展番号(出展番号はパンフレットを参照)	賞の名前

Q4. 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

良かった点	悪かった点



Dialog with the Public

ご協力、ありがとうございました。

● 記念品（ブックカバー）



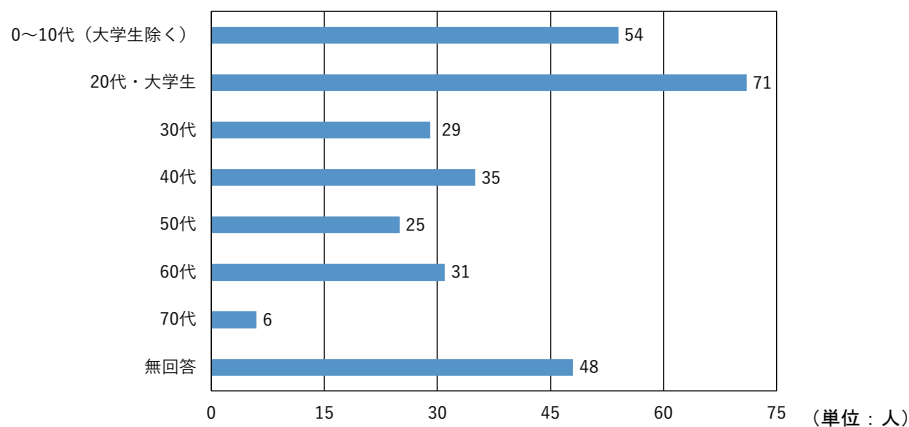
3-1-2. 「ドリンクと交換アンケート」の結果

来場者 408 人

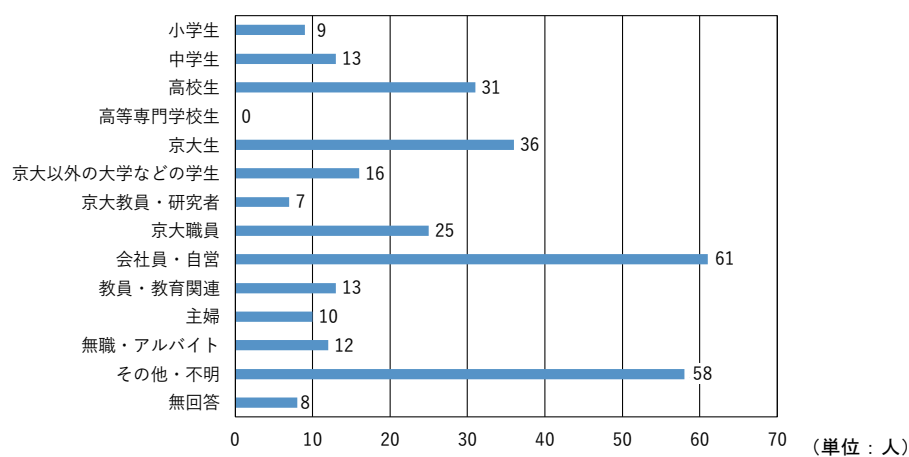
回答者数 299 人（回収率 73.3%）

● 来場者はどのような方だったのか？

・年齢層

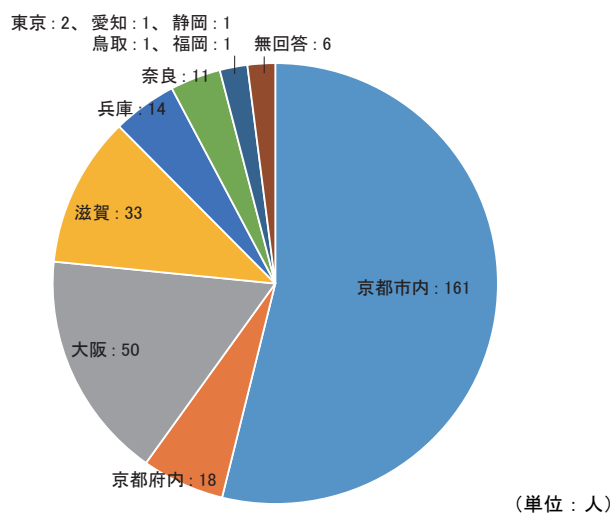


・所属



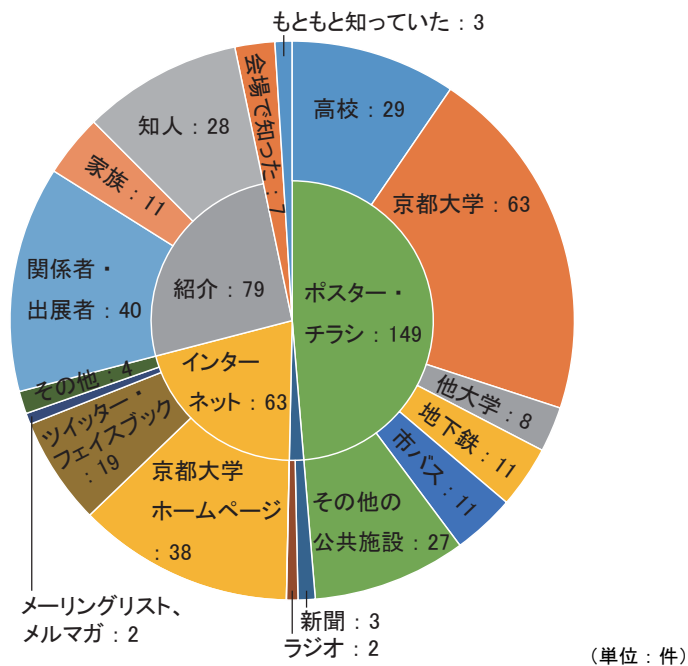
※「会社員・自営」～「その他・不明」は、アンケート設問「Q7. ご自身について教えてください。」で「⑨その他」と回答されたものより集計。

・住まい



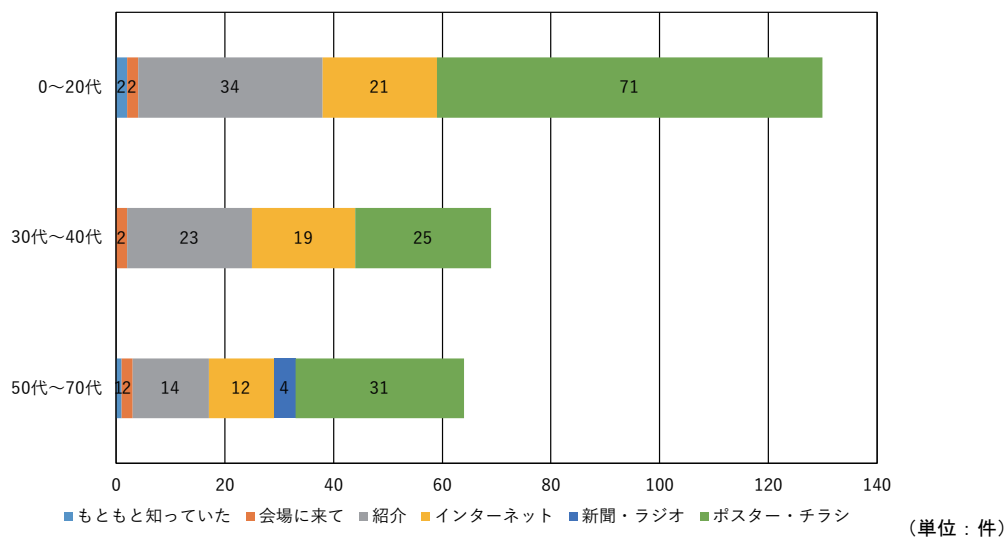
● 来場者は京都大学アカデミックデイをどこで知ったのか？

・開催を初めて知ったところ（全体）



※複数回答を含む。

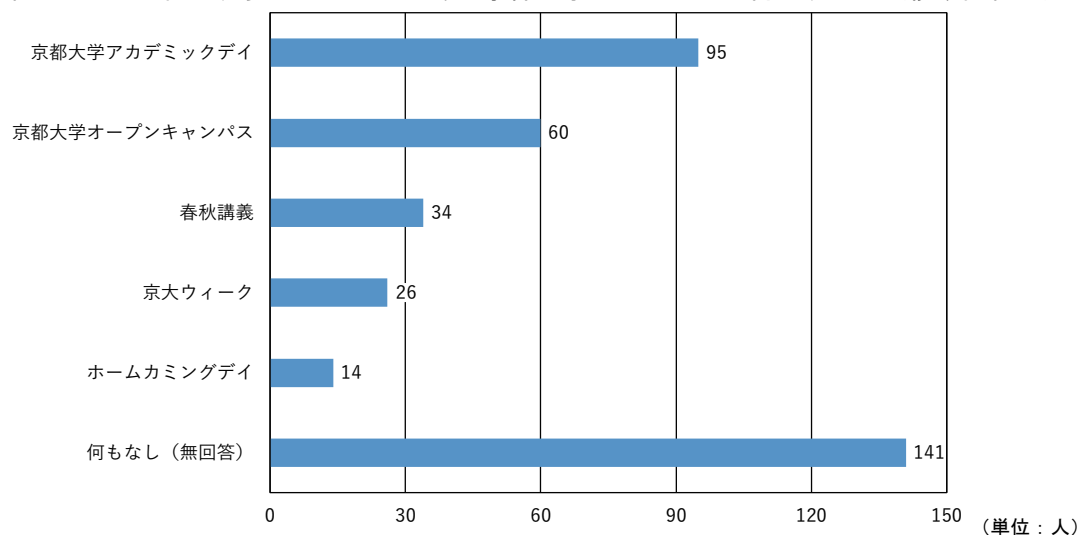
・開催を初めて知ったところ（年代別）



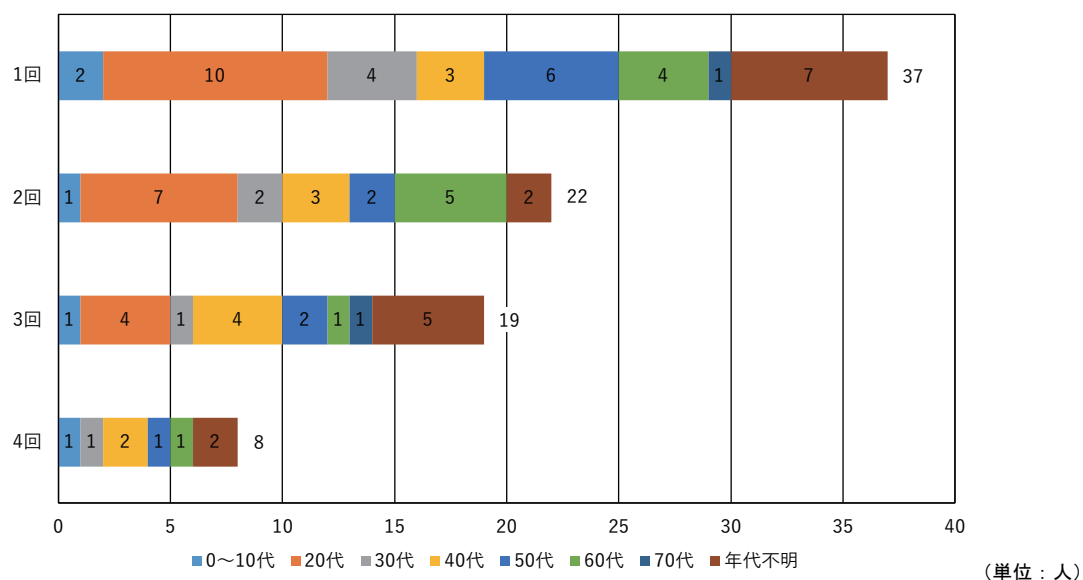
※複数回答を含む。

● 京都大学のイベントに参加したことはありますか？

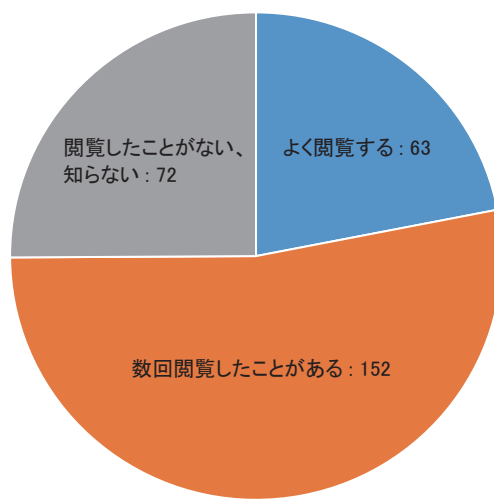
・本イベントの他に、参加したことのある京都大学のイベントは何ですか？（複数回答可）



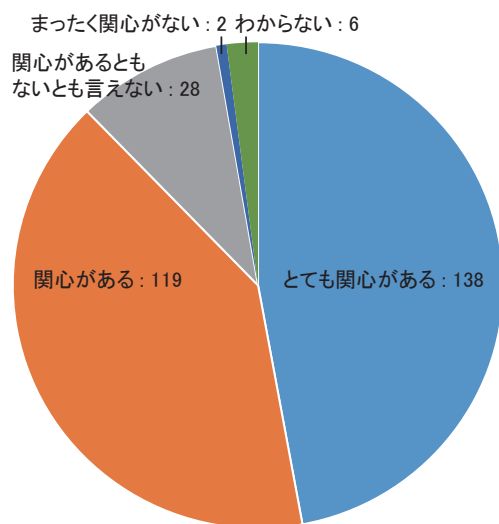
・京都大学アカデミックデイに過去に何回参加しましたか？（過去に京都大学アカデミックデイに参加した方の内訳）



● 京都大学ホームページや京都大学 Facebook サイトを閲覧されたことはありますか？

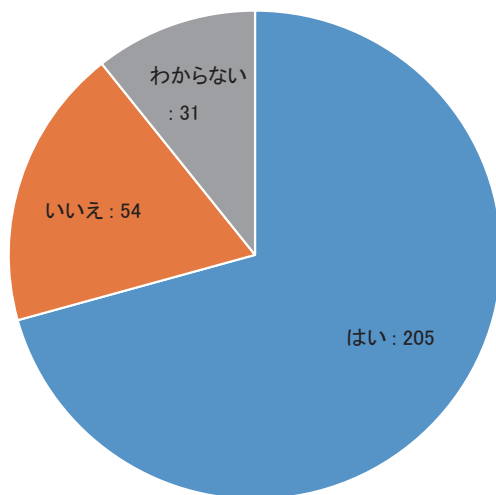


● 科学・技術に関心がありますか？



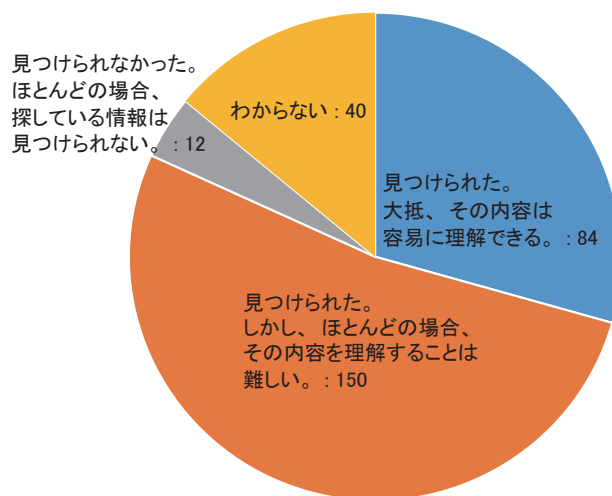
(単位：人)

● 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？



(単位：人)

● 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？



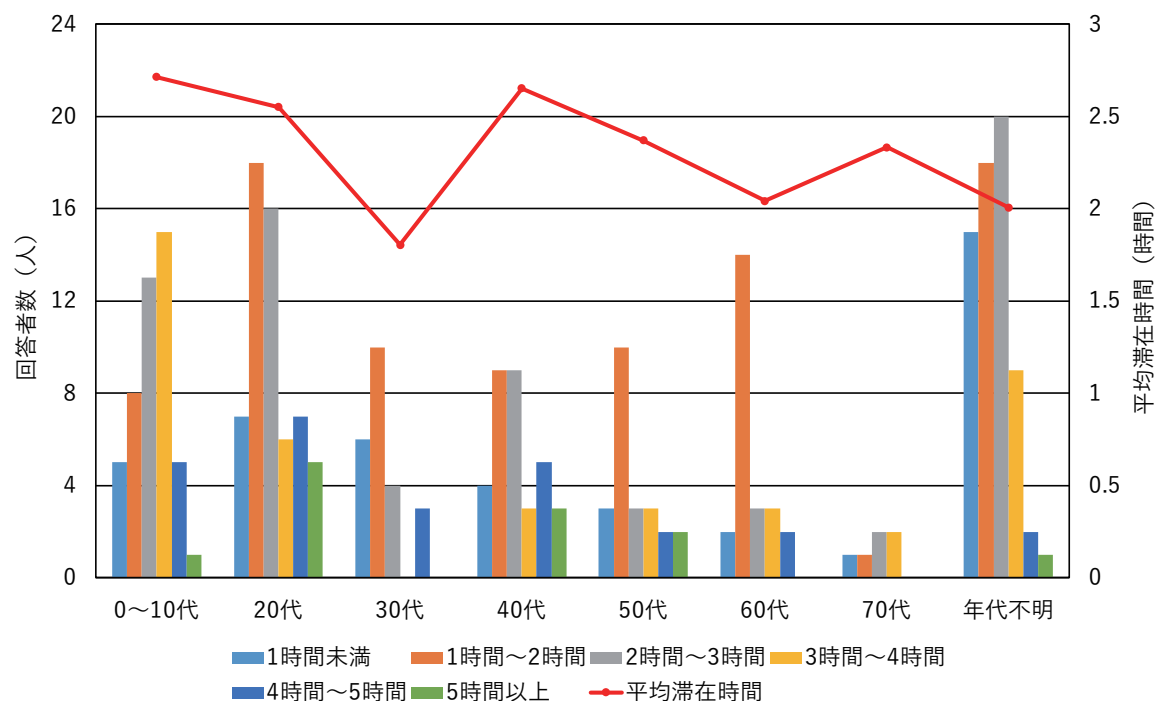
(単位：人)

3-1-3. 「記念品と交換アンケート」の結果

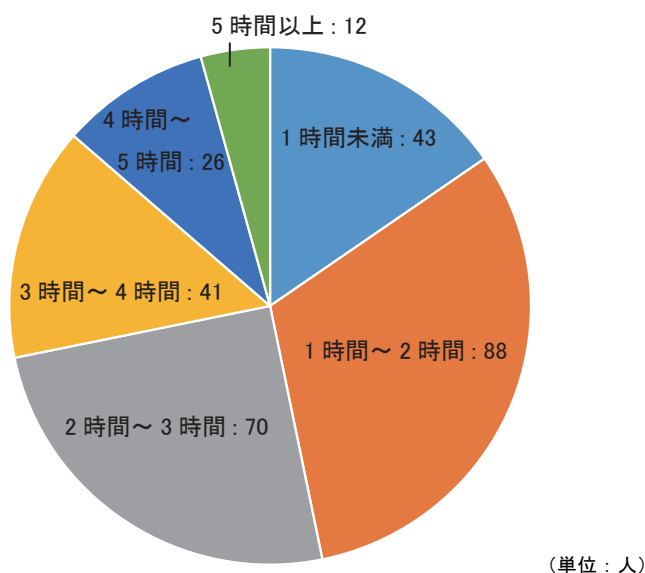
来場者 408 人

回答者数 287 人（回収率 70.3%）

● 京都大学アカデミックデイの滞在時間はどの程度でしたか？

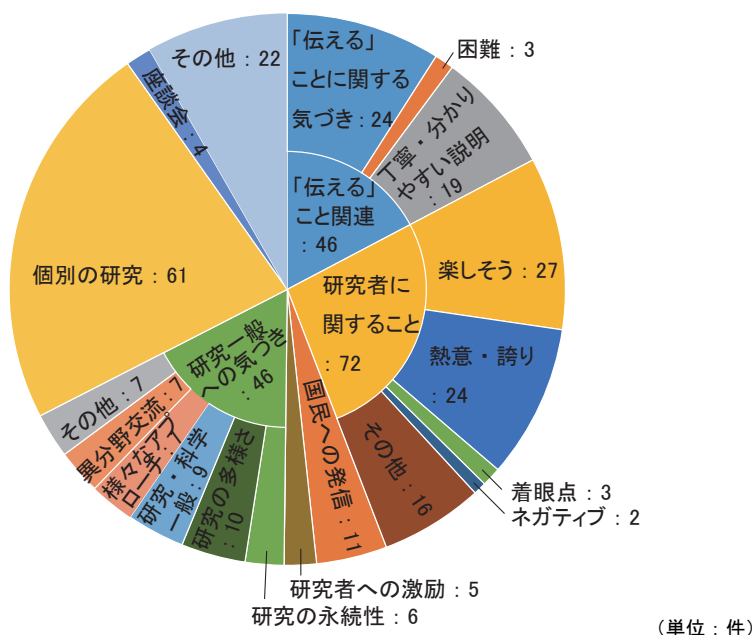


※平均滞在時間は、「1 時間未満」を 30 分、「1 時間～2 時間」を 1.5 時間、「5 時間以上」を 5.5 時間などとして、期待値を算出。



● 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？

・全体



・主な意見

〈「伝える」 ことに関すること：気づき (24 件)〉

〔言葉を選ぶ、相手に合わせる〕 (4 件)

- 一般の人にも伝わるように、言葉を選んでくださっている感じが伝わってきました。
- 研究している内容はすごく高度なはずなのに、こちらの拙い質問にかみ砕いてわかりやすく説明してくれたのでよかったです。(10 代)

〔身近に感じる、興味喚起〕 (12 件)

- 難しい話を分かりやすく話していただいて、自分にも関係があることとしてとらえられました。(30 代)
- 丁寧に分かりやすく説明してくださり、科学・技術が日常生活とリンクしている分野について学ばされました。より身近に感じられるようになりました。(30 代)
- ご自身の研究テーマを話す前に身近なことからつなげて話してもらえてわかりやすかったです。
- 1 対 1 で話すことのできる場が多く、身近なテーマを扱っているところがあり、とても分かり易く、聞いていて面白かった。(10 代)
- 素人にもわかりやすく話をしてくださって、意外と何でも興味が持てたこと。(40 代)

〔プレゼンの仕方・工夫など〕 (8 件)

- ポスターのキャッチフレーズがそれぞれ工夫されていた。(20 代)
- 特にこれが聞きたいというのがなくても、全体像を体系的に説明してくれる人とは話が弾んでよかった。(20 代)
- 各分野の要点をわかりやすく説明され、よく理解できた。(70 代)
- 高校生のプレゼン能力が高くて驚いた。(50 代)

〈「伝える」 ことに関すること：困難など (3 件)〉

- わかりやすさを重視しすぎてどれだけ難しい問題なのかがわからない/わかりにくい。(30 代)
- ちょっとわかりませんでした (研究内容が難しすぎたという意味です。)(40 代)
- 専門分野は難しい反面勉強になります。(50 代)

〈「伝える」 ことに関すること：丁寧・分かりやすい説明 (19 件)〉

- こちらの質問に一つ一つ丁寧に答えてくださいました。(20 代)
- 専門的なことをとてもわかりやすく説明していただいた。(60 代)

〈研究者に関して、新鮮だったこと・気づいたこと（72件）〉

〔生き生きしている・楽しそう〕（27件）

- 研究者も多様で、面白く、好きなこととなると確実にヒートアップしてきて、話していて楽しかった。（10代）
- 研究者の方々が、とてもいきいきと楽しそうに研究のことをお話されているのが印象的でした。今後はもっと研究に興味を持ち主体的に学んでいきたいと思いました。（20代）
- 研究に楽しさを見出しててうらやましい！（20代）
- とてもくわしくお話ができました。研究が楽しそうで、聞いていてどんどん興味がでました。（40代）
- 面白いと考えてらっしゃることをその面白さと一緒に伝えてもらったこと。（40代）
- 発見や研究を楽しんでいる姿が印象的だった。（40代）
- 目標を見つけられて、それに取り組むことができる方々は幸せそうで生き生きしていると思います。（40代）

〔熱意・誇り〕（24件）

- みなさん社会に役立てたいという強い思いが感じられました。（10代）
- 行動力がすごい。（20代）
- 閉鎖的にならず色々な（多様な）視点を取り入れようとする姿勢。（20代）
- 研究者の方々の熱が伝わってきて、もっと興味をもっていきたいと思った。（20代）
- 自分の研究に情熱をもって取り組んでいることが良く分かりました。一方で研究者の方の前提がすでにレベルが高く、ギャップも感じた。（50代）
- 自分が予想できないほどに熱意を持たれている点に驚いた。
- どの研究者も自分が行う分野に対しての好奇心がすごいなと思いました。また、質問しても答えようとしてくれる姿勢に感動しました。（10代）

〔着眼点〕（3件）

- 着眼点が違う。（10代）
- どの研究も着眼の仕方、またその検証の方法が独特で面白かった。（10代）

〔ネガティブな印象〕（2件）

- 研究者は説明が苦手な人が多いということ…。（20代）
- みんなえらそうだった。（60代）

〔その他の研究者の印象〕（16件）

- みなさんがこの日のために頑張ってきたものを見て、自分もこんな風になりたいと思った。（10代）
- みなさんのことはよくわからなかったけれど、すごいことをいっているんだろうと思う。（10代）
- 科学について考えてる人がたくさんいることがわかった。（20代）
- 皆さま、対話することに積極的だった。（20代）
- 研究者と聞くと堅苦しいイメージがありましたが、どの先生もみな、丁寧に分かりやすく親しみがありました。（30代）
- 本やネットでは難解な内容をわかりやすく説明してくれること、意外に気さく。（50代）
- 年配の研究者の方のお話にはテーマ以外の経験に基づく余談とも思えるような話の中にはっと気づかされる教訓がうかがえました。（50代）
- みんながとても本音で話してくれるので感激。（70代）
- 経験したこと等をうかがえたことでしょうか。

〈国民への発信などに関して、気づいたこと（11件）〉

- 研究を産業として、市場におろすには、科学に疎い一般市民の目が必要であると実感しているらしく、その姿勢が印象に残りました。（20代）
- 研究者は一般の人の考えていることが気になっていることがわかって面白かった。
- 一般の者が研究について自力で正確に理解することは難しいことに気付いた。（20代）
- 役立つか、が確かに重視されていて面白さがやはり伝えられていない。自分もそれを聞けていなかった。（20代）
- それをどう活用していくのかという部分をつっこむと、今それは研究中で、となるのが面白かった。（20代）
- 生の言葉で聞くと細かく自分の解釈がまちがっているかどうかを確かめられる。（40代）
- これからは普段から研究についてのコラムなど読んで、話の内容についていこうと思った。（50代）

- 理解しようとする聞き手、理解してもらおうと説明してくださる研究者。なかなかおもしろかったです！（60代）
- 皆さん面白がってこっちの質問に答えていただき恐縮です。この好奇心の対応は心地よかった。（60代）
- 難しそうなテーマも、よく話を聞いてみると案外わかったり、現実に即していることが実感できたりしますね。
- 生の声が聞けて良かった。（30代）

〈研究者に対する激励（5件）〉

- 実生活に役立つような研究で、ぜひ国として、こういう世界に発信できるような研究に対して支援をしてほしいと思いました。（30代）
- こんなに幅広い研究をされていて、しかもすべて Happy な世界のためでとってもおもしろく、学べました。感動しました。もっとお金を研究にまわしてさしあげたい。（40代）
- 海洋高校の生徒と話をして、このようなレベルの高い場所に参加できる研究をできることは素晴らしいことだと思いました。子供たちの好奇心からの発見、研究、探究心をのばす機会を増やしてほしいと思いました。（40代）

〈研究に関して、ヒント・気づきを得たこと：研究一般（46件）〉

〔研究の持続性〕（6件）

- 研究はどこまでも続いていくということ。（10代）
- これで終わりという研究はなく、まだまだ先を追いかけておられる。（40代）
- フグの養殖について聞かせていただきましたが、実際に研究していくとその過程でまた研究したくなる課題が見つかり、そうやって楽しみとかやりたいことがどんどんあふれてくるのだなぁと感じました。（40代）
- 最近の研究で解決されたと思っていたことでも話してみるとまだ改善点やできていないことがあることに気が付いた。（20代）

〔多種多様な研究〕（10件）

- ユニークで興味深い研究がたくさんあって面白かった。（10代）
- 大学の研究はもっとかたいイメージがあって近寄りがたい感じがあったけれど、身近な研究や面白い研究がいっぱいあって驚いたこと。（10代）
- 知らない世界を日々研究されていて、その知らない世界があまりにもたくさんあることがわかり良かったです。（10代）
- 京大のほんの一部分の人の研究でも実に様々な研究があり、そのどれもが熱心で面白いなと思いました。京大のすべての研究や、日本中だと、もっともっとおもしろい研究がされているんだろうなとワクワクします。（40代）
- いろいろな研究がありその幅の広さ、面白さ、重要度を知った。（40代）

〔様々なアプローチ〕（9件）

- 医学に関する研究でも関わっているのは医学部出身の人だけではなく、理学、工学の人もいて、様々なアプローチや道があることに気が付いた。（10代）
- ひとつの現象を理解しようと思ったら、生物・物理・人文科学等、様々な分野を総合的に見ていくことが大切なんだなと感じました。（30代）
- 1つの研究がいろいろな分野に関係していること、いろいろな側面からアプローチし得ること等感じました。（50代）

〔研究・科学一般〕（7件）

- 様々な研究が、地道に行われていること、様々な分野、世界観があることがわかった。なかなか研究や研究者の方と出会う機会はないので、いろいろなことが学べて良かったです。
- 科学はとても身近なテーマから出発していました。（50代）
- 大体は小さな物事から一つずつ埋めていくのだと思った。（10代）
- 科学の面白さ。（50代）

〔自身の研究への糧・異分野交流〕（7件）

- 研究を行う上での心構えや、重要な視点を学ばせていただいた。（10代）
- 普段から話す機会のない分野の方と話せて良い刺激を受けた。（20代）
- 私は学内の研究者ですが、異分野のブースで、初歩的な質問を気軽にできるのが良かったです。（40代）
- 自分の専門外の分野の話はかなり大変面白いということ。（20代）

〔その他〕（7件）

- 馬鹿げた内容をもっと増やしてほしい。（40代）

- 研究の最先端を垣間見て、今後世の中がどう変わる可能性があるのか、少しわかった気がする。(50代)
- 教育の分野と情報の分野も頑張っていると思った。やっぱり研究費は削減されていると思った。
- 基礎研究に金につかない時代だけど、その中でも0→1の研究をしている方と多く話せてよかった。
- 基礎研究の大切さを感じさせるものも多かったです。
- 発表の研究内容について今後どうしたいのか、を聞くことができて有意義だった。
- 夢がかなうあるいは夢以上のことが実現できるという印象を受けた。

〈研究に関して、ヒント・気づきを得たこと：個別の研究（61件）〉

- フグの養殖をするときに、えさに「イガイ」をまぜて、トラフグを大きくしようという考えが印象に残った。(10代)
- 目指すべき持続可能な社会のあり方について世界と日本の現状をふまえながらどのように構想し検証していくつつ取りくみを進めていけば良いのかヒントをいただくことができたところが印象に残った。(20代)

〈座談会（4件）〉

- 座談会を拝聴しましたが、“世の中の役に立つかどうか”という発表の仕方に研究者の方が苦しんでおられる一面があるのだと感じました。のめりこむこと自体に価値があることの証明と思います。すばらしい研究で、より興味と面白さをつきつめていってほしいと願っています。(30代)

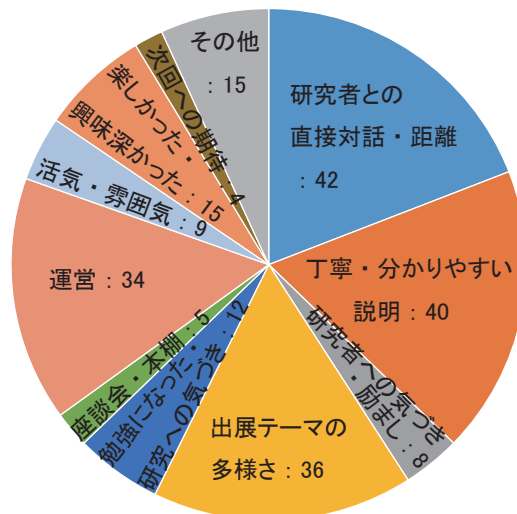
〈その他（22件）〉

- 京都大学では学びたいことを学べるということ。(10代)
- 常識はいつか通用しなくなる。常識を置いて、という京大だから好きなのだなと改めて思いました。
- 京大のレベルの高さと自由な学風がよくわかりました。(40代)
- 最先端の研究がわかりとても興味深くなりました。
- 何個かのブースを回りましたが、知識が少し増えたようです。大変参考になったブースもあり、今後もこのような機会があれば参加したいと思います。(70代)

- 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

良かった点

・全体



(単位：件)

・主な意見

〈研究者との直接対話・距離（42件）〉

- 研究者との距離がとても近く、話しやすかった点。(10代)
- 膝詰め対話は研究者の方とより近くでお話してきた。(20代)
- 一般の方に広く公開している点が研究を身近に感じられて素晴らしいと思います。(30代)
- 少人数で質問できるのでとてもわかりやすい。(40代)
- 徹底して対話しようとしてくれたこと、来る人を拒まず話をしてくれたこと。(60代)



- 直接研究者の方々とざっくばらんにお話できる点。
- 普段はなかなか話せない研究者の方々と研究以外のことについても（経歴など）話せた点。（10代）
- 直接最前線の研究に、対面コミュニケーションの中でふれられるのは楽しい。（20代）
- 初めて来たのですが、研究者の方と直接話できることで本を読んでいるだけではわからない熱量を感じることができて、大変刺激になりました。（30代）
- 世界最先端分野の研究者から直に話を聞いたこと。（30代）

〈丁寧、親切、分かりやすい説明（40件）〉

- 皆さん丁寧に教えてくださって良かったです。対話も楽しめました。（40代）
- 小学生の子供にもわかるように話していただきました。（50代）
- ポスターがわかりやすいように工夫されていると思った。（60代）
- 質問しやすい会話をこころがけていただいたところ。（60代）
- 皆さん気さくに話をしてくれよく理解できました。（60代）

〈研究者への気づき・励まし・感謝（8件）〉

- 今後の展望を語れる人材が多い。（20代）
- 熱心に研究に取り組んでおられる熱量に毎回エネルギーをいただいております。（50代）

〈出展テーマの多様さ（36件）〉

- 色々な分野からの出展があったこと。（10代）
- 活気があった、分野のかたよりが無い。（40代）
- 色々な研究を一度に見れる。（40代）
- 多様な内容、楽しい雰囲気。（50代）
- いろいろな研究があるのが知れました。（50代）
- 分野的にバランスよかった。（50代）
- 様々な研究テーマから自分が興味あるものを見つけられた点。
- 普段興味を持っていない分野に触れることができる点。
- 普段接することのない分野の人と話せる。（20代）

〈勉強になった・研究への気づき（12件）〉

- 知見が広がった。（40代）
- 閉鎖的にならず色々な（多様な）視点を取り入れようとする姿勢。（20代）
- 普段は余り考えてみたことのなかった考え方や視点について気付かせていただくことができた点。（20代）
- 普段何気なく感じている事柄が学問的に体系づけて研究されているところが、すごいと思った。（60代）

〈座談会・本棚（5件）〉

- 映像企画の内容は少し難しかったですが、とても面白かったです。常識に囚われないことが大切だと思いました。（20代）
- 座談会で深く話を聞いた。面白さ、科学を国民は好きではない等。（20代）

〈運営に関するもの（34件）〉

- 立ち話のボードに張られた紙（発表）がいろいろの大きさだった。（10代）
- レイアウトや配置もよくて混みあってなくて聞きやすかった。（40代）
- ドリンクを飲みながらまわられた点。（20代）
- ノベルティが毎回ステキ。（20代）
- とても良かったです。スタッフの方も親切でした。ありがとうございました。
- やり方がとてもよい。
- 見やすかった。途中からでも参加しやすかった。

- 「対話」をテーマにしている点、アンケートを景品や飲み物と引き換える制度、ユニークなネーミング。

〈活気・雰囲気（9件）〉

- 会場に一体感があった。
- 毎回活気があり、交流しやすい環境づくりとなっている。（30代）
- 年々、盛り上がりが増えているようで、楽しげな雰囲気を感じられました。（30代）

〈楽しかった・興味深かった（15件）〉

- なかなかない機会だったのでとても楽しめました。（10代）
- どれも面白そうな研究ばかりです！何より研究されているみなさんが楽しそう。うらやましいです。
- どの展示も面白かったです。普段縁の無い研究にも出会えるのでいい。（10代）
- 最先端の研究に触れることができて楽しかった。（50代）
- アカデミックな世界では情報がオープンになることが大切だと思います。大変楽しめました。（60代）

〈次回への期待（4件）〉

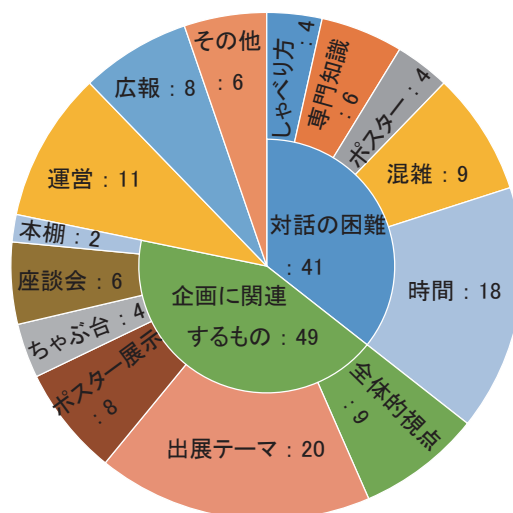
- どれをとってもおもしろい。来年もあるのかな？楽しみです。（10代）
- 素晴らしい。年に何回かやってほしい。（70代）

〈その他（15件）〉

- 自由。開かれている。京大らしい。
- その後どうなったか知りたい！（20代）
- 研究者の発表の場が持てたこと。
- （一般市民に）京都大学を身近に感じさせて頂けて嬉しかったです。研究内容がとても面白くて、京大がより好きになりました。（30代）
- 科学、研究を身近に感じられたこと。（50代）
- 気軽に大学の研究の一端に接することができた。理系の研究が豊富。（40代）
- 中高生が増え、質問している姿が多くみられたこと。（40代）

悪かった点

・全体



（単位：件）

・主な意見

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：声・しゃべり方（4件）〉

- 口が早かった。（10代）

- 声のボリューム。聞き取りやすさを意識してみては。(30代)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：専門知識（6件）〉

- 専門的な言葉が多くて勉強していないとよくわからなかった。(40代)
- 全くの素人にもわかるように説明（相手の知識レベルに合わせて）していただけたらよかったです。
- 簡単な説明と難しい話の差が大きい。

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：ポスター（4件）〉

- 少し文字が多くて読みづらい。(10代)
- 字が小さいポスターが多かった。目が悪いので…。(20代)
- 模造紙の前に立たれると見えない。(20代)
- 研究者の本棚はありましたが、個々のブースでも映像によるプレゼンテーションがあってもよかったと思います。(50代)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：混雑（9件）〉

- 混雑していて、なかなか研究者の方と話すことができない点。(20代)
- バッティングすると落ち着いて話が聞けない。(40代)
- 隣のブースとの距離が近すぎて、聞き取りにくくなる。
- お話し中のブースはいつまでたってもお話し中ですので、1人〇分などタイマーで区切ってくれるといいかも。(40代)

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：時間（18件）〉

- 開催する日を増やしてほしい、行きたいところに全部いけない。(10代)
- ちょっと時間が短い（プラス1時間くらいほしかった）。(20代)
- もう少しゆっくり、じっくり回りたかった（ぜいたくですね）。(70代)
- 半期・四半期に1回開催してくれてもいい。時間が足りない。

〈企画に関するもの：全体的視点（9件）〉

- 最初はどうのように楽しめばよいかわかりにくかったです。(20代)
- どこから回ったらいいか分からなかった。(10代)
- 目新しい企画がほしい（悪かった点というよりも期待）。(30代)
- 多すぎて見切れない。
- どうせなら配布資料がほしかったです。(10代)
- 土曜日ではなく日曜日の開催ならもう少し長時間の見学ができたのに…。(10代)

〈企画に関するもの：出展テーマ（20件）〉

- AIなど情報系の出展がもっとあればよかった。(20代)
- 食べ物系が少ない。(40代)
- 医学分野が少ない。(20代)
- 理系に偏りすぎていた。(10代)
- もっと文系の出展を増やしてください！！お願いします！！ジャンルを増やしてほしい。(70代)
- 人文系の研究が少なかったところ、本がもっとあるかと思っていました。
- 文系に分類される研究の紹介が少なかった（コンセプト上しかたがないのでしょうか）

〈企画に関するもの：ポスター展示（8件）〉

- なかなか話しかけられなかった。(40代)
- 担当者がいないブースが多かった。(20代)
- お昼の時間帯に行くと誰もいないブースが多かった。(30代)

- 展示を近い分野ごとにまとめていただくと見やすいかなと思います。(40代)
- ポスター内容をもう少し一般向けにしてテーマ間のグループ化を行ってはどうでしょうか？(40代)

〈企画に関するもの：ちゃぶ台（4件）〉

- ちゃぶ台に入るタイミングがわからず、お話が伺えませんでした。(30代)
- 膝詰め対話は参加者が多くなった時気まずい。(20代)
- ちゃぶ台囲んで～の方にも行きたかったが、お茶を片手に～に参加したので行けずじまい…こういうパティ
ングはいかんともしがたいですかね？
- 「ちゃぶ台囲んで…」の数を増やしてほしい。立ち話のところが疲れてしまいました。

〈企画に関するもの：座談会（6件）〉

- 座談会が長くて参加しにくい。(20代)
- 座談会の敷居が高く入りにくいこと(60代)。
- 座談会に途中から入るのが困難だった。(60代)

〈企画に関するもの：本棚（2件）〉

- 私のように研究者に話しかける勇気のない人のためにも、図書のコーナーのような企画のさらなる充実も期待
してます。(30代)

〈運営に関するもの（11件）〉

- 荷物置き場があればよい。(10代)
- ちょっと飲み物を置いて、荷物（資料）を整理する場所が欲しい。(20代)
- ちょっと暑かった。(50代)
- 冊子やチラシを入れる袋がなかったのは残念。
- 椅子があるとよかった。
- ジュースの種類が少ない（たくさんいれてほしい）。(10代)
- レストランとの利用割引(60代)。

〈広報に関するもの（8件）〉

- もう少し宣伝すればいいと思う。(10代)
- HPのトップにポスター等の目につきやすいものがなく同イベントの統一感が薄い。(毎年)(20代)
- キャンパス（入口）外の看板を見かけませんでした。当日の思い付きで来られる方々も誘導できるとより盛況
になるのでは？(30代)
- 高校生にもっと宣伝してほしい。

〈その他（6件）〉

- 学長さんがいてくれたらよかった。(60代)
- 研究していることがいまいかに役に立つのかわかっていないこと。
- 他のイベント（宇宙会、基礎物理学研究所講演会など）と日程が被っている。(20代)
- アクセス（バスなど）の方法がよくわからなくて、とにかく駅から歩いた。(10代)

3-2. 出展者アンケート

■ 3-2-1. アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、京都大学の出展者のみなさまにもアンケートにご協力いただきました。京都大学アカデミックデイに参加した感想、印象に残ったことをご記入いただきました。また、今後の開催にあたってのご意見・ご提案や、研究者による広報活動の本学での支援についての意見・ご提案もご記入いただきました。

● 出展者アンケート

〈方法〉

- ・ウェブフォームから回答
- ・出展代表者を通して参加研究者全員にウェブフォームからの回答を依頼
- ・アンケート受付期間：10日間

〈設問〉

- ・メールアドレス（回答必須）
- ・問1. 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想を、以下のそれぞれの項目についてお聞かせ下さい。（回答必須）
[選択肢：大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない]
(a) 専門外の人への自分の研究に対する興味・理解度を把握することができた
(b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった
(c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった
(d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた
(e) 他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた
(f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった
(g) 参加は日々の研究活動の負担となった
(h) 機会があったらまた参加したい
(i) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい
(j) 他の研究者との交流の機会になった
- ・問2. 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った（or 必要だと感じた）工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。（自由記述）
- ・問3. 来場者との対話の中で、どのようなことが特に印象に残りましたか。（自由記述）
- ・問4. 学内限定タイム（16:00-17:00）について伺います。アカデミックデイ終了直後に同会場で、参加研究者同士が交流するための時間はあったほうが良いと思いますか？（回答必須）
[選択肢：大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない]
また、その理由もお書き下さい。（自由記述）
- ・問5. 「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってご意見（良かった点・改善点）や今後に向けたご提案などありましたらお書きください。
5-1 【良かった点】（自由記述）

5-2【改善点/課題】（自由記述）

5-3【今後に向けた提案】（自由記述）

- ・問 6. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後「このような来場者ともっと話したい」というご希望がありましたらお書きください。大学生に来てもらいたい。外国の方にも来やすいイベントになって欲しい。など（自由記述）
- ・問 7. 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URA による支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。（自由記述）
- ・「京都大学アカデミックデイ」には研究室 or 研究プロジェクトから何名で参加されましたか？（例：教授 1 名・研究員 1 名・修士課程 2 名）（自由記述）
- ・役職（回答必須）
[選択肢：教授、特定（特任）教授、准教授、特定（特任）准教授、講師、特定（特任）講師、助教/助手、特定（特任）助教/助手、研究員、博士課程（博士課程後期）大学院生、修士課程（博士課程前期）大学院生、その他]
- ・研究分野（回答必須）
[選択肢：社会科学系、人文科学系、理工学系、医薬生命科学系]
- ・お名前（回答は任意です）（自由記述）
- ・ご所属（回答は任意です）（自由記述）

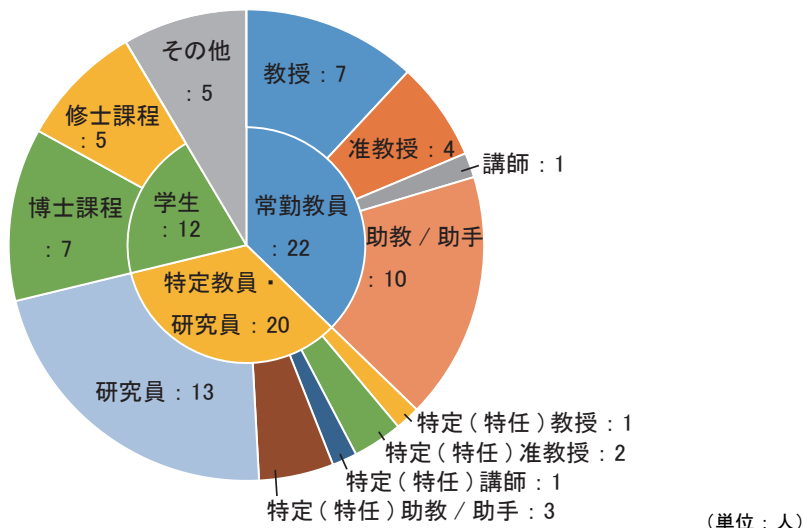
3-2-2. 「出展者アンケート」の結果

出展者数 212 人

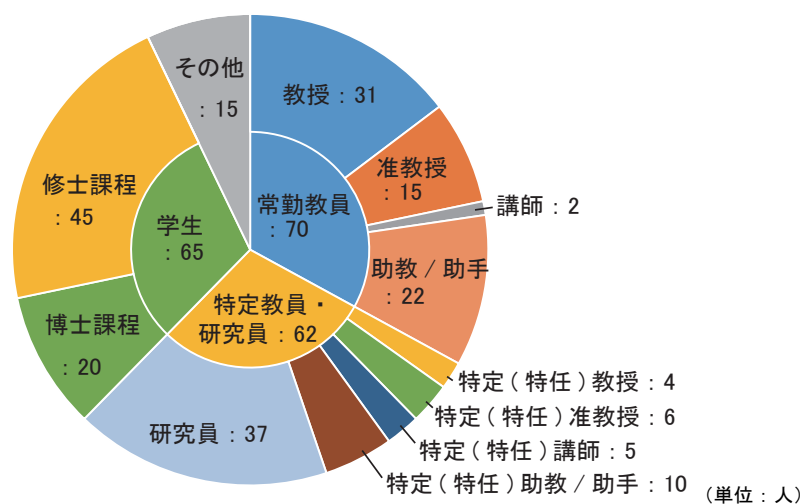
回答者数 59 名（回収率 28%）

● 回答者の属性

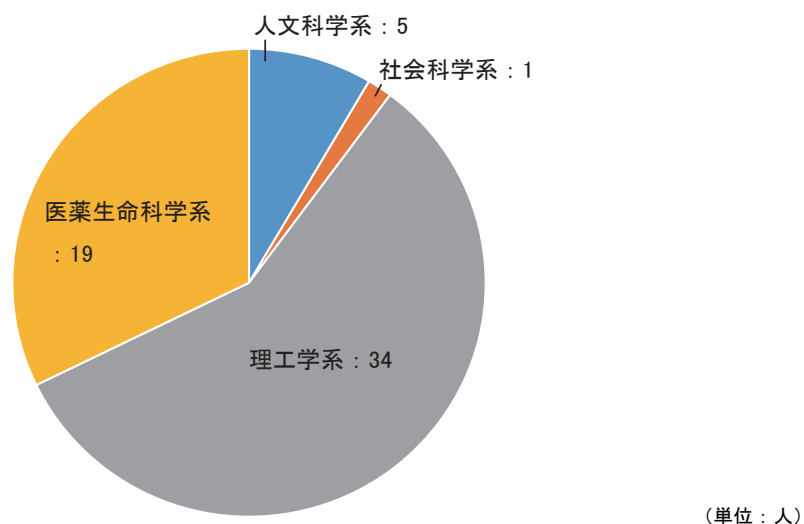
- ・雇用形態による回答者属性



※参考：出展者の属性

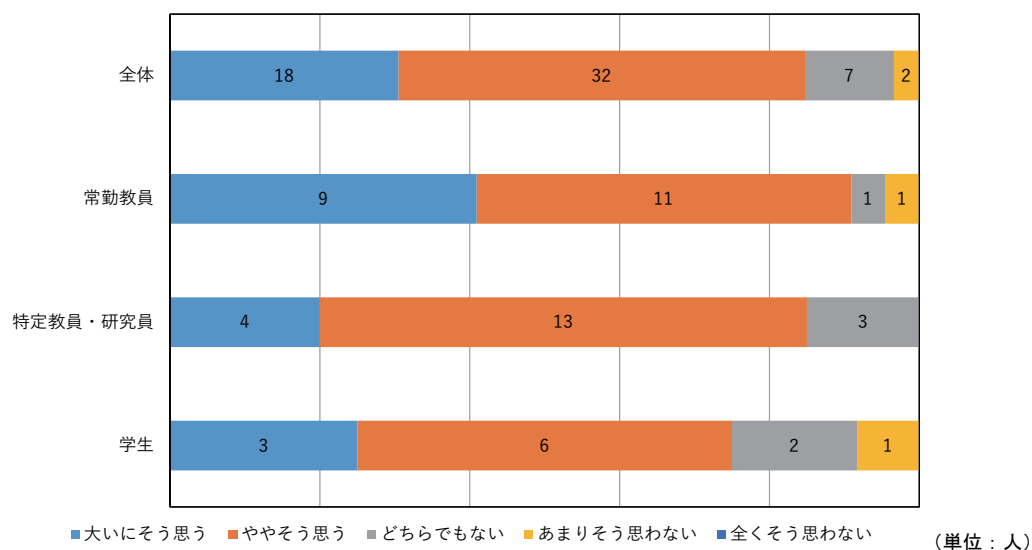


・専門分野による回答者属性

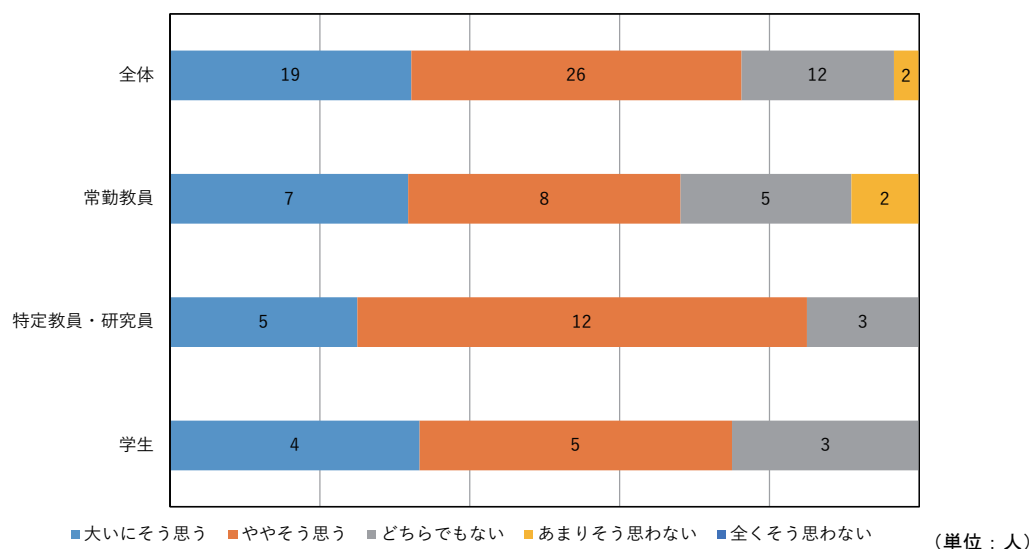


● 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想

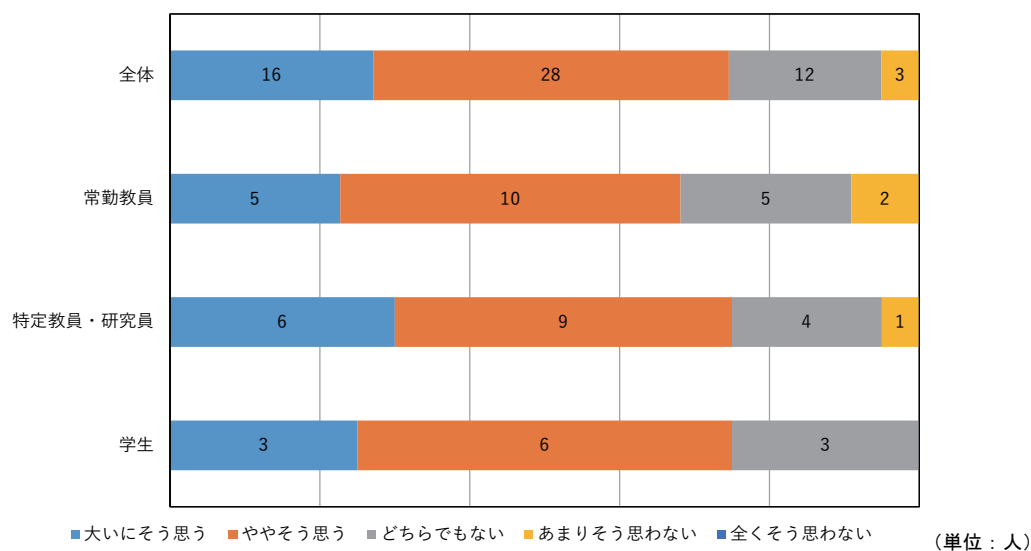
(a) 専門外の人の自分の研究に対する興味・理解度などを把握することができた



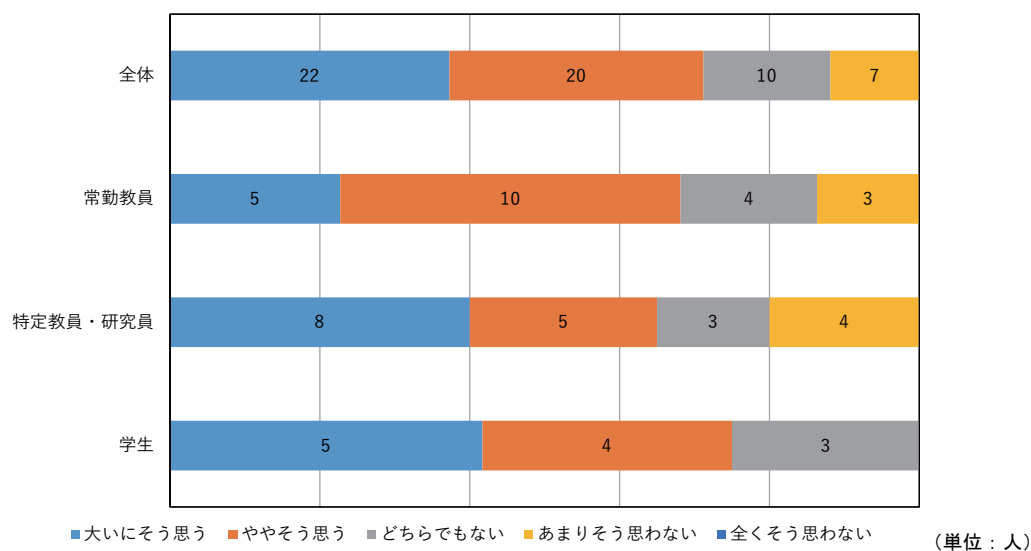
(b) 専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった



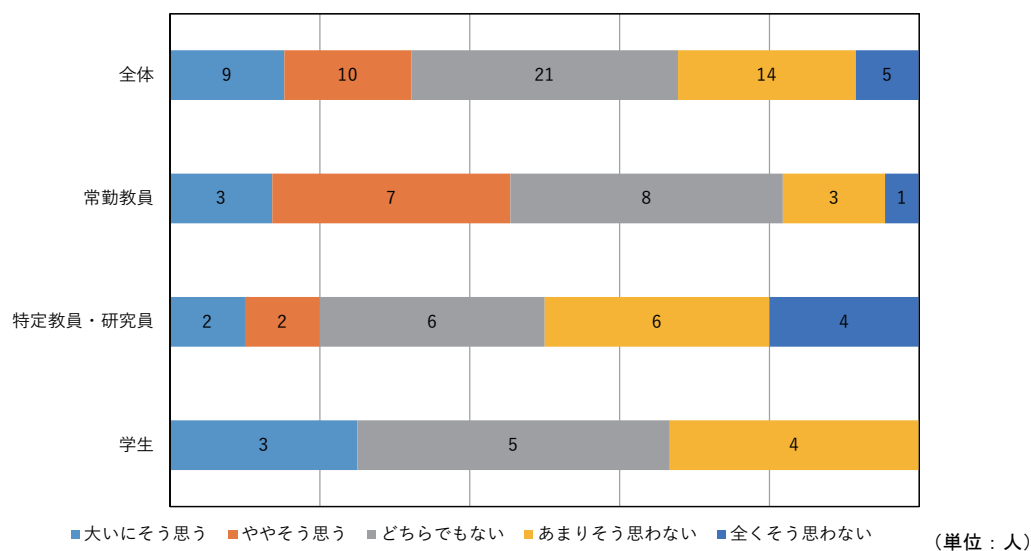
(c) 自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった



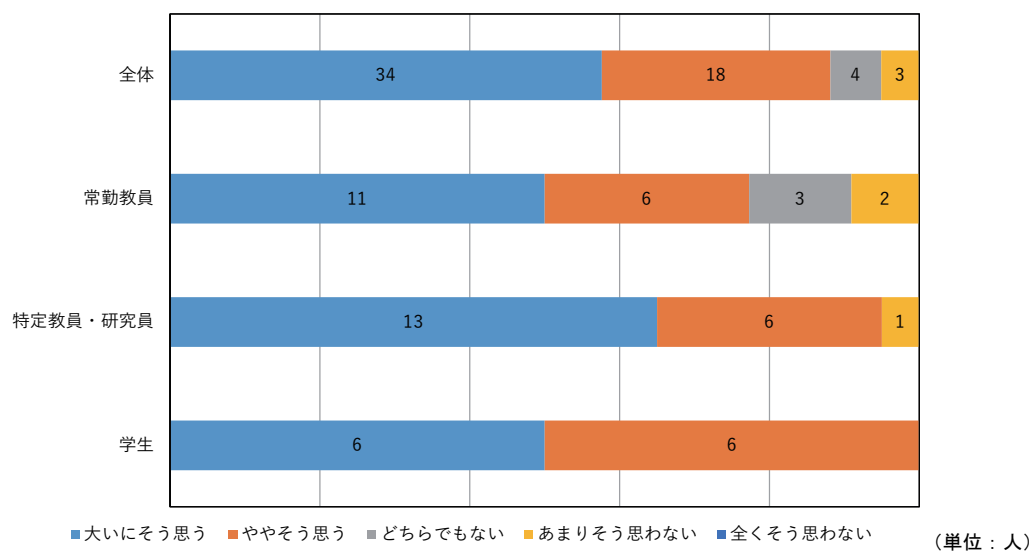
(d) 自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた



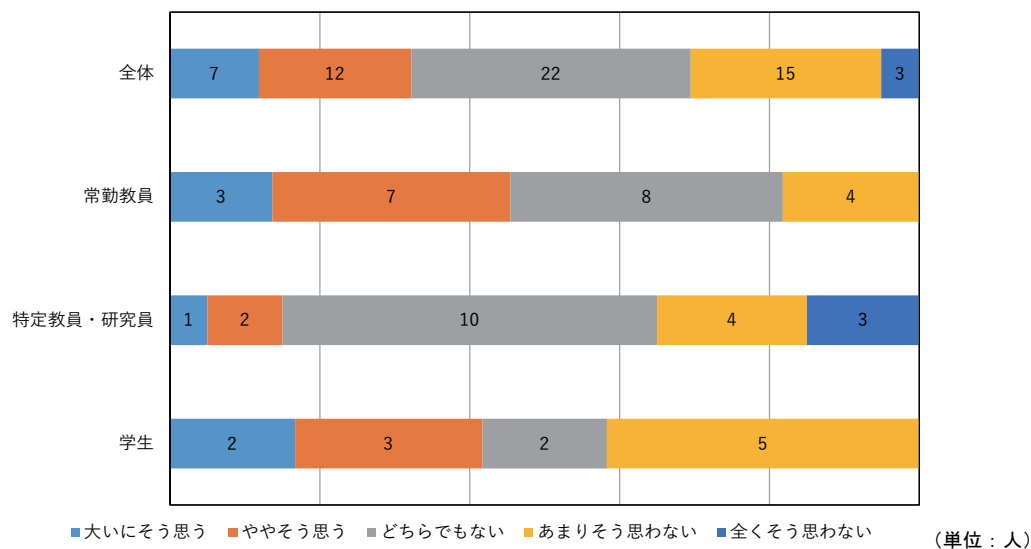
(e) 他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた



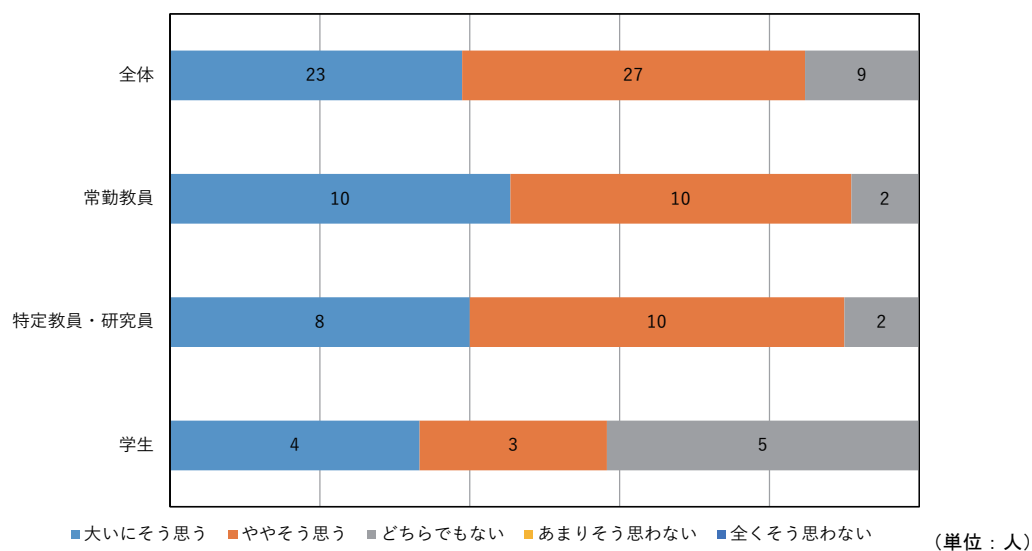
(f) 研究内容を専門外の人に説明する訓練となった



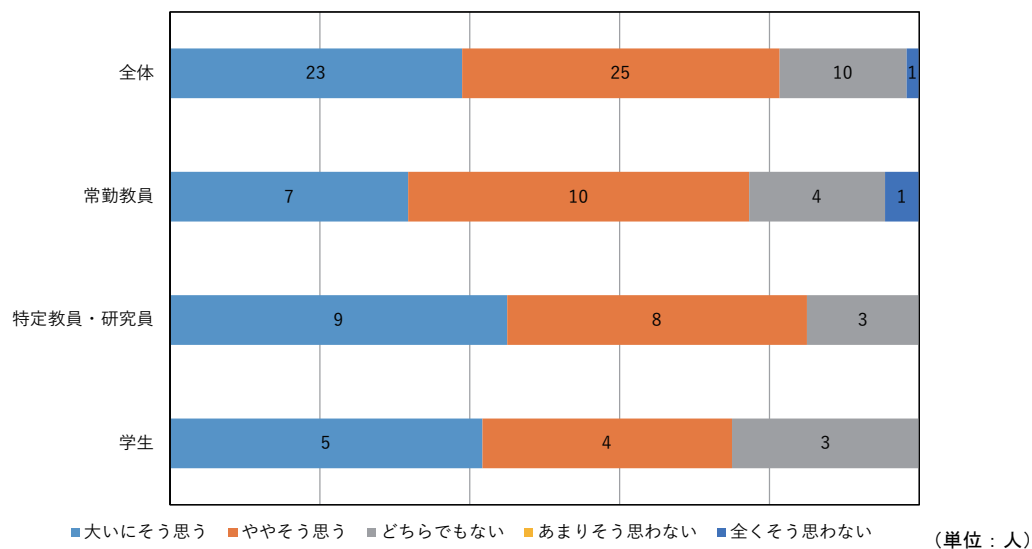
(g) 参加は日々の研究活動の負担となった



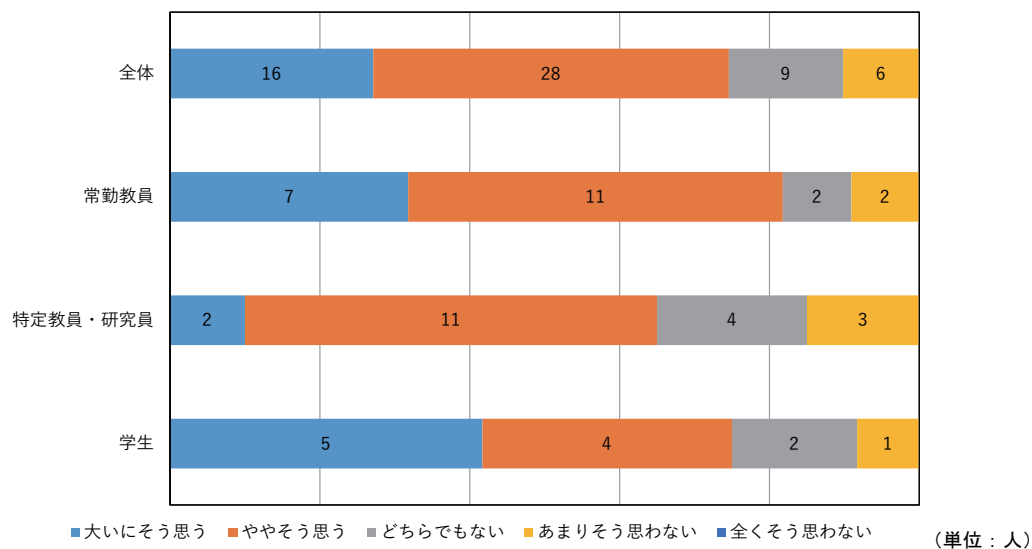
(h) 機会があったらまた参加したい



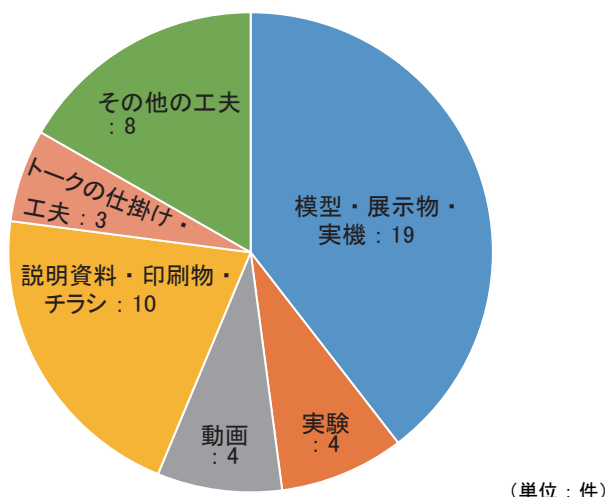
(i) このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい



(j) 他の研究者との交流の機会になった



- 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った（or 必要だと感じた）工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。



〈模型・展示物・実機（19件）〉

- タンパク質（分子）の模型など。（医薬生命科学系）
- 分子モデルを持参したこと。（医薬生命科学系）
- 来場者が手にとってみられるようにした展示物。（理工学系）
- 手でさわれる3Dプリンターで作成したモデルは役に立った。（理工学系）
- 紙面だけで無く、実際に実験で使っている機材を持ち込んだことで、来場者の興味を引くことができた。（理工学系）
- 見て触れて体験できる『何かしらのガジェット』を準備した。（医薬生命科学系）
- 展示物。（理工学系）
- 実験装置は研究の内容の理解度にかかわらず非常に興味を持ってもらえる。とても強力だと感じた。（理工学系）
- 説明したい物の実物や写真、チラシが役に立った。（理工学系）
- アンケートセット一式、参加者が手にとれるもの（生体展示、ちらし）。（社会科学系）
- 実験水路を準備した。（理工学系）
- 研究対象資料そのもの。（理工学系）
- ネットにつながるiPadと解剖学アプリは準備しておいてよかったと思いました。（医薬生命科学系）
- 目を引くような大きな展示、模型、ディスプレイ。（医薬生命科学系）
- 写真や展示物。（理工学系）
- 写真など。（理工学系）
- インパクトのあるものを展示する必要性を感じた。今回は土壌の標本を持って行ったが、正解だったと思う。（理工学系）
- シミュレーション結果の動画を見せることで説明に役立った。（理工学系）
- ポスターでは説明が足りないと思い、専門的な部分の説明をするための写真や図を用意したことで、研究内容をより理解してもらえた。（理工学系）

〈実験（4件）〉

- 直感的に現象がわかる実験を見せることができたのはよかった。（理工学系）
- 顕微鏡で細胞観察。（医薬生命科学系）
- 実験のデモンストレーションや実験装置の展示はインパクトがあって良いと思った。（理工学系）
- デモ。（理工学系）

〈動画（4件）〉

- 動画があった方が良かった。（理工学系）

- 来年度以降、動画の使用を検討したい。(医薬生命科学系)
- 動画を準備したら良かったです。(医薬生命科学系)
- 動画。(理工学系)

〈説明資料、印刷物、チラシ (10 件)〉

- ポスターを縮小した A4 チラシは良かった。ポスターを取り巻いて見るより、A4 チラシを来場者に持ってもらい、真横で個別に説明するほうが、相手も質問しやすいそう (物理的な距離が近いので)。(医薬生命科学系)
- 研究である以上、出展者は論文の別刷りなどをブースに用意する (もしくは展示) べきだと思います。おそらく来場者には簡単に読めるものではないと思いますが、研究成果の形は論文以外にありません。「ポスターからは分からない研究内容があること」、「研究論文とはどのようなものか」を伝えても良いと感じています。(理工学系)
- 研究の内容ポスター (一般的な学会用ポスター) に加えて、コンセプトを大きな絵と文字で記載したポスターを作成し、説明にとっても役だった。(医薬生命科学系)
- 図やイラストを多用した視覚に訴えるポスターや資料があった方がよいと感じた。(理工学系)
- ポスターの別刷り。(医薬生命科学系)
- ポスター内容を A4 サイズで印刷したもの (来場者が複数のとき、手元で見ながら説明できるのでこれは必要)。(医薬生命科学系)
- 事業紹介のパンフレット等を設置した。(人文科学系)
- 説明パンフレット。(理工学系)
- ポスターを A4 サイズで印刷したもの。(医薬生命科学系)
- 自身の行っていることをまとめたパンフレットみたいなものを用意しておいた方がよいと感じた。(医薬生命科学系)

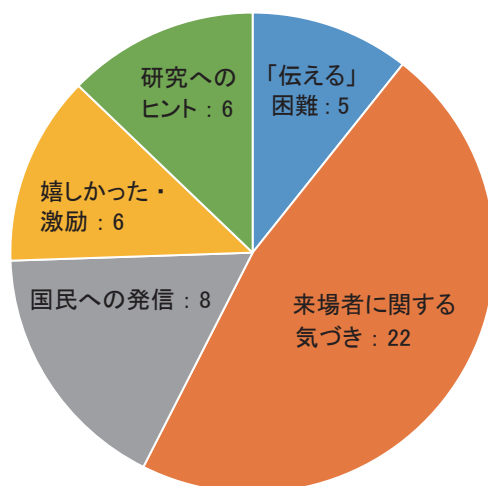
〈トークの仕掛け・工夫 (3 件)〉

- 楽しみのために、ポスターにクイズを織り交ぜておいたが、クイズに対する答え方で、来場者の理解度を把握しながら説明できるということに気づいた。クイズの答えは、iPad でムービーにしておいたのも、来場者がタッチで答えを知ることができて、ゲームっぽい感じが楽しいようだった。(医薬生命科学系)
- 質問を投げかけてみる。～は、いくらくらいだと思いますか？など。また、研究の歴史や具体的な自分の苦労話をいれて説明してみる。(医薬生命科学系)
- あらかじめ 10 秒、1 分間、5 分間それぞれで自分の研究を説明できるパッケージのようなものを作っておくとよかったとあとから感じた。今後はそうしようと思う。(理工学系)

〈その他の工夫 (8 件)〉

- ポスターの紙をマット紙にすると、照明でテカテカしないのが工夫したところ。(医薬生命科学系)
- ただわかりやすくするだけでなく、一步踏み込んだ内容に誘うような工夫がいて感じた。(理工学系)
- 研究の狙いをわかりやすく説明するために、市民に身近な最終製品を頭に入れておくこと。(理工学系)
- 意見を示していただくためにシールを用意し、貼っていただきました。(医薬生命科学系)
- テーブルクロスや小道具は役立ちました。お勧めの本は、全部用意しておけばよかったと思いました。(人文科学系)
- ちゃぶ台にホワイトボードが置いてあると、お客さんと双方向の話し合いがしやすい。(理工学系)
- 専門知識の説明を「擬人法的」に説明するコンテンツがあると良い。(理工学系)
- プロジェクトを立ち上げた時の資料など目を通しておいた。(人文科学系)

● 来場者との対話でどのようなことが特に印象に残りましたか？



(単位：件)

〈「伝える」ことに関して、困難を感じたこと（5件）〉

- 中学生からプロの製薬会社の研究員の方も来ていて、説明は来場者のレベルに合わせてちゃんとしないと、と思いました。(理工学系)
- 専門用語を使わずにわかりやすく話すことの難しさを実感しました。(医薬生命科学系)
- 自分の研究手法が実験なのか理論(シミュレーション)なのかを初めに明確にしてから話すと言き手がわかりやすくなったと思った。(理工学系)
- 相手がどんなところに関心を持っているのかによって説明を変える必要があった。たとえば高校生・大学生からはご自身の将来の目標・進路の相談を受けることが多かった。(人文科学系)
- 文系の研究が社会の何の役に立つのかという質問。(人文科学系)

〈来場者に関して、新鮮だったこと・気づいたこと（22件）〉

- よく勉強されている。(医薬生命科学系)
- 理科系でない方から積極的に質問してもらったこと。(理工学系)
- 受験生との対話。(理工学系)
- 一般市民からの素朴な質問。(医薬生命科学系)
- 高齢の方は、何かしら、本質をつく、いぶし銀の意見をくださるので驚いた。やはり、人生経験というのは、どんな分野であっても水平応用できるのだろうか。(医薬生命科学系)
- 今年は留学生が多く、英語対応を結構やった印象。(医薬生命科学系)
- 一般人にもわかりやすかったとの感想を貰った。高校生のなかでも大学レベルの知識を持った学生がいた。(理工学系)
- (特に学生や教職員が研究の対象なので) 来場者が自分のことのように興味を持ってくれたことがとても印象に残った。(医薬生命科学系)
- 防災について、ニュース等で目にすることもあり全く知らない訳ではないが、しっかり学ぶ機会が少ない、ということ。(理工学系)
- 研究で漠然と感じていたことに、別の場面に置き換えて共感されたことが印象に残っている。(理工学系)
- かなりの数の京大1、2回生理系学生が、将来の進路を選択するための情報収集に来ていたのは新しい潮流との印象を持った。(理工学系)
- よく勉強され、知識のある方が多かった。鋭い意見もあった。(医薬生命科学系)
- 中学生の来場者で、おすめの本を尋ねている子がいた。ポスターの内容を聞くことはもちろん、人(研究者)と話すのも目的に来る方もいるのだと感じた。(理工学系)
- こちらから積極的に話しかけたときに嫌がる来場者がほとんどいなかったこと。(社会科学系)
- 土砂災害を実際に体験した人がいた。(理工学系)
- 中学生、高校生が思いのほか賢い。(医薬生命科学系)
- 研究内容より周辺知識に興味を持たれた。(医薬生命科学系)

- こちらの意表を突く質問が寄せられることがあり、楽しかった。(理工学系)
- 一般の方々も専門内容をよくご存知でした。(理工学系)
- 自身の実体験から私たちのブースに興味を持ったという話。(医薬生命科学系)
- 意欲的に話を聞く高校生が多かったこと。(理工学系)
- 来場者全員が興味を持って話を聞いてくださったのが印象的でした。(理工学系)

〈国民への発信などに関して、気づいたこと (8 件)〉

- 人々の興味が研究内容とは異なること。(理工学系)
- 来場者が知りたいことは、研究内容だけではない。話しているうちに「なぜ、研究者になったのか」、「どのようにして、この研究トピックを見つけたのか」といった質問も多い。(理工学系)
- 高校生に対する教育を充実させることも大切だが、大学生・大学院生に対する教育を充実させていく必要があると感じました。(人文科学系)
- 例年通われている方をはじめ、質問上手、聞き上手な方々が多くいらっしゃると思いました。研究者だけでなく、広く市民の方との双方向性の学びの場があること、それを定期的に提供できる機会は大切なことだと感じました。(理工学系)
- いらしている方は、メディアの情報に懐疑的になりつつ、何を頼ればいいのかわからない状況でいることが印象的でした。(医薬生命科学系)
- 自分の思い込みを延々と話す来場者が多かった。否定すると角が立つので、やんわりと受け流す必要があった。(医薬生命科学系)
- 何の役に立つかをよく聞かれたこと。(理工学系)
- 来場者によって、知識や研究に対する認識が違ったこと。また質問を積極的にしてくれた来場者の方が、説明に対する理解が早いように感じられた。(理工学系)

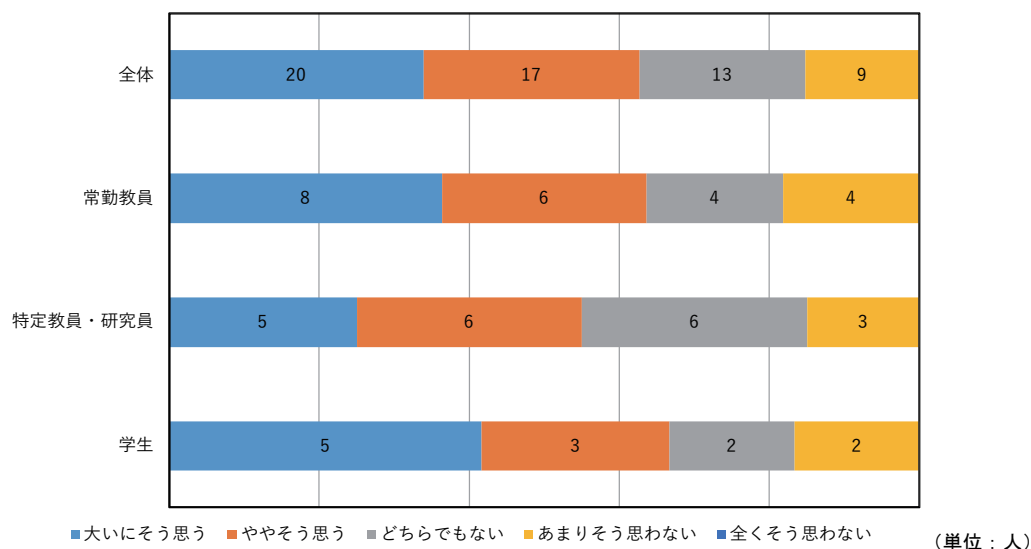
〈嬉しかった・励みになった、と感じたこと (6 件)〉

- 研究成果に対する期待。(医薬生命科学系)
- 研究に対する期待を強く感じた。最後はたいてい頑張ってくださいと言われて励みになりました。(理工学系)
- 研究成果が将来的に貢献できる内容について、強く期待を寄せられ、また感謝された。(理工学系)
- 想像した以上の方に、市民の方から面白い、やってみたいなどの肯定的意見をもらえたこと。(理工学系)
- 高校生の熱心さ。(医薬生命科学系)
- 自然科学系の研究者や学生の方から、「文科系のこと、けっこう好きなんです」と言われたこと。(人文科学系)

〈研究に関して、ヒント・気づきを得たこと (6 件)〉

- 研究者が公表する論文やデータ類の信憑性について質問されたことが印象に残っています。(医薬生命科学系)
- 医科学系の研究発表だったためか、自分の病気と結び付けて考え、それに関して聞きたがる一般来場者がいたこと。(医薬生命科学系)
- 普段我々が注目しない点に関してコメントをいただける点が良かった。(理工学系)
- 年齢層が幅広かったため、この研究から利益を得られる人や、こういった研究をビジネスに使いたい人など、いろいろな意見がもらえたのが良かった。(理工学系)
- 農業や土に興味を持って下さる人が意外といることに驚いた。分かりやすく説明しようと努力すると、専門外の人でも楽しんで聞いてもらえたことは自信に繋がった。(理工学系)
- こういうものを作ってくれたら嬉しい、というような声がきけたこと。(理工学系)

- 学内限定タイム（16:00-17:00）について、アカデミックデイ終了直後に同会場で、参加研究者同士が交流するための時間はあったほうが良いと思いますか？



〈「大いにそう思う」理由〉

- 共同研究に発展する可能性が高いから。(医薬生命科学系)
- 学内の他学部の方の研究を知ることができる。(理工学系)
- 学内で、あまりこういう機会はないから。普段接しない人たちと接することができる。15:00-17:00 としてほしい(増やしてほしい)。(医薬生命科学系)
- 時間は少ないですが、ほかの研究も見れて楽しいし、展示の工夫について意見交換するのも楽しい。(医薬生命科学系)
- 疲れてはいますが、ドリンクをふるまった交流の場は、貴重な研究交流の機会です。たとえ今回の参加では何もなかったように思えても、近い将来にさらなる交流の機会につながることを、これまでに経験しています。このような交流の場は、やめることなく繰り返すことが大切だと思います。(理工学系)
- 出展者同士が他のブースを見て回ることで必要な時間は必要。(医薬生命科学系)
- じっくり他の発表を聞く機会が得られ、少人数で落ち着いて話せる。(理工学系)
- 出展中はほかの参加者同士と交流する時間がほとんどなかったため。片付けの時間を含めての1時間はやや短く感じました。交流の時間自体はもう少し長くても良いと思いました。(社会科学系)
- 自分が興味があるので。(医薬生命科学系)
- 開催中は忙しく他のブースを訪れる余裕がない。(人文科学系)
- これだけいろいろな面白い研究が一堂に会しているので、発表者としても他の研究者の発表をみたり聞いたりしたい。(理工学系)
- 来場者の対応で、他の発表をゆっくり拝見・拝聴する時間がないので、前後に関係者だけの時間があることはありがたいと思います。(理工学系)
- なかなか異分野交流の機会がないため。(医薬生命科学系)
- 様々な分野が一堂に会す機会はなかなかないので、重要な交流機会だと思います。(理工学系)
- 自分のポスターの近くの人々の発表も聞きにいった。(理工学系)
- アカデミックデイ中は、一般の方への説明に追われ、他の出展を見る余裕がありません。(理工学系)
- ポスター説明のために、なかなかほかの発表者とゆっくり話すことができなかったが、学内限定タイムでは多くの研究者と交流できたから。(理工学系)

〈「ややそう思う」理由〉

- 16:00 まででは他の研究内容を見せてもらう時間がなかったため。(理工学系)
- 疲れているので、30 分程度で良い。(理工学系)
- 異分野の方と共同研究に関する相談ができた。(理工学系)

- 今回は所用により参加できませんでしたが、他分野の研究者と交流することで新たな考えを思いついたり研究の幅が広がってよいと思います。(医薬生命科学系)
- 開催時間中には自分以外の展示を見る余裕がなかったため。(医薬生命科学系)
- あまり大人数での参加でないのも、通常時間帯に他の発表を見て回れないため。(理工学系)
- 普段接点のない研究に関心はあるが、来場者がいる時間はやはり話を聞きに行きにくい。(医薬生命科学系)
- 他の展示も見たいと思っていたのですが、実際には最初に足を留めた1か所でしか交流できなかったのが残念でした。次に行こうと思ったら、みなさん既に片付けておられて…。(医薬生命科学系)
- 特に少人数で参加しているグループの場合、一般向け発表の時間は持ち場を離れられないので他の参加者の研究まで見に行く余裕は無いため。(医薬生命科学系)
- 他の研究分野の人の話が聞けるから。(医薬生命科学系)
- 参加したかったが参加できなかったため、実際どうだったのかわからないから。(医薬生命科学系)
- 観に来てくださる方がおられたので、自分が十分に回る時間がなかったです。(人文科学系)

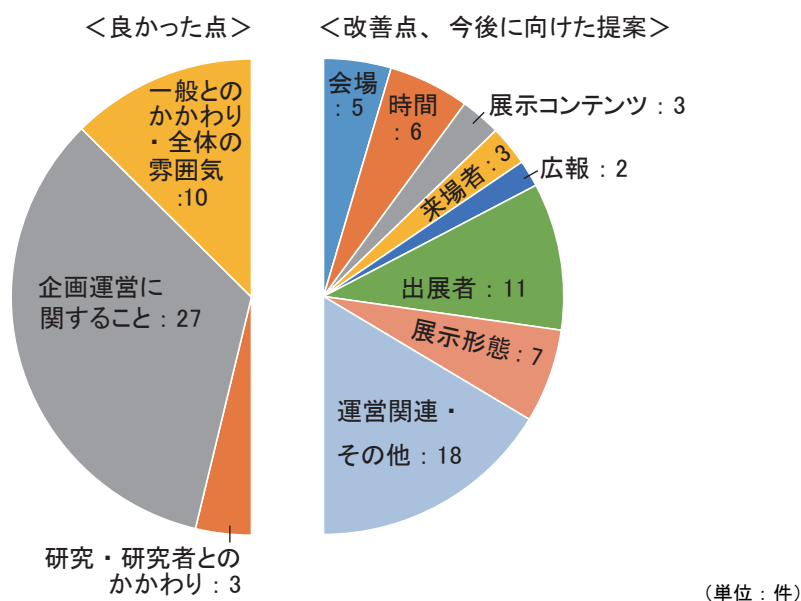
〈「どちらでもない」理由〉

- それ以外の時間にも可能なので。(医薬生命科学系)
- 参加したかったが、時間がなかったため欠席しました。(理工学系)
- 一般公開時間でも交流できた。(理工学系)
- 一人で参加すると、他のブースを見て回ることができないから。(人文科学系)
- 16時になるとポスターをはがしているところもあった。参加者も疲れていた。(人文科学系)
- ゆっくりまわるには時間が短いし、一日説明した後なので、疲れている。(理工学系)
- 6時間ぶっ続けでの発表は体力的に持たないため、自由参加で行われると良いと思う。(理工学系)
- 撤収前にちょっとだけお疲れ様タイムがあるのは良かったが、交流としては機能していないように感じた。複数人で参加している研究室では、研究室内メンバーで撤収作業をしながら感想を述べあっていたと思う。本当に学内交流を機能させたいのであれば、学内賞などを設けるなどの工夫が必要かも。(理工学系)
- 学内限定タイムに入った途端に撤収してしまう研究室がたくさんあって、この時間を有効に活かすことができなかった。(理工学系)
- 対応する必要があるのに、自分のポスターから離れられなかった。来場者の対応で疲れていて気が入らなかった。(人文科学系)

〈「あまりそう思わない」理由〉

- 10:00~16:00の間に、研究者同士も交流を図ることも可能であるため。(医薬生命科学系)
- 一人で1日ポスターの前に立つのは非常に大変なため、学生のアルバイトを雇うのが良いが、アルバイトを雇うと一般参加の時間に見たいところを回ってしまうため。(理工学系)
- 一般公開タイムに交流できた。学内限定タイムは後半片付け時間となっていた。(理工学系)
- 他の出展者と交流する機会はほしいが、結局自分の場所から離れられないのは変わらないので、アカデミックデイでは交流が難しいように思った。(理工学系)
- 来る人の対応をしていると、聞きに行けない。(医薬生命科学系)
- 長時間の後なので。(理工学系)
- あまり積極的ではないため。(理工学系)
- 数人で参加すれば途中で話を聞く時間はある。終わった後は早く撤収したい。(理工学系)
- 通常の発表時間の際に、空いた時間に他のブースを見学したため、特別に時間を取る必要はないと思います。(理工学系)

● 今後の「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってのご意見



＜①良かった点＞

一般の方との関わり・全体の雰囲気 (10 件)

- スムーズに質問や説明も出来、困ることは無かった。(医薬生命科学系)
- 研究内容を国民に向けて発信するというハードルが高いことを、京都大学のスケールメリットを生かし、出来るだけやりやすく行えたこと。また、学会や論文における公表だけでは専門家にしか届かず、真に国民に結果を届ける、というのはこういうことだと理解出来た。(医薬生命科学系)
- 来場者数が多く、色々な意見が聞けた。(理工学系)
- 熱心に聞いてもらえるのは良かったですし、研究の意義を再認識できました。また研究の公開の実績として記載ができる。(医薬生命科学系)
- 初参加だったが、予想外に多様な人が参加していたのはよいと思った。(理工学系)
- 異なる分野の研究者、学生、外国の方、一般の方との交流。(理工学系)
- 多くのご来場者が楽しんでくださっていたと思う。(理工学系)
- 様々な分野の方々が集まっている点。(理工学系)
- 全体的に良かった。(理工学系)
- 多くの方に来場して頂いた点。(理工学系)

企画運営に関すること (27 件)

- 国立大学法人として、納税者に対する説明責任を果たす場があることは、非常に良い事であると思います。(理工学系)
- 社会へのアウトリーチとして有り難い。(理工学系)
- 広く発信する場を設けてくれた。説明にあたっての注意点やポイントなどを説明会や資料で教えて頂いた。(理工学系)
- 毎年、イベントが大きくなっている。(医薬生命科学系)
- よいイベントだと思う。(理工学系)
- 継続して開催されることはとても重要なことだと思います。お疲れさまです。(人文科学系)
- 来年も継続して下さい。(医薬生命科学系)
- アカデミックデイ続けてください。(医薬生命科学系)
- 展示スペースはちょうどいいと思いました。(理工学系)
- ポスター展示の通路が広めになったことにより、スペース的に余裕ができていた。(理工学系)
- ポスターの展示スペースが十分に広がったこと。大きな机があったこと。雰囲気も良かった。(人文科学系)
- ポスターがあるというのは、何をやってるか一目で分かって良かったし、道の間隔が広がったのも良かった。(理工学系)

- 土曜日の開催は助かりました。(理工学系)
- 研究者の本棚が良かった。(医薬生命科学系)
- 運営はしっかりしている。(理工学系)
- 準備などを事務局が負担してくれるのはとてもありがたい。(理工学系)
- 決められた制限時間の中で、時間配分などがかなり巧みに設定されていたと思う。それと、学生を含めたスタッフさんたちが、とても適切な仕事をされていたと思う。スタッフさんたちに、ありがとうを伝えたいです。(理工学系)
- 運営のスムーズさに感動しました。準備や後片付け、出展関係者への諸々のアナウンスやケアも含め、感謝しております。また SNS を通じての情報拡散、書籍を通じた啓もう活動など、大変勉強になりました。(理工学系)
- スタッフはよく働いていてお疲れさまだと感じた。ちゃぶ台、本棚の企画はとても面白かった。続けてほしい。「英語しゃべれます」名札はナイスアイデアだと思う。(理工学系)
- 展示がスムーズにいくよう、細かい希望まで、できる限り対応しようとしてくださるところ。また、ドリンクバーはとても助かります。(医薬生命科学系)
- しゃべり続けるとのどが渴いたので、お水を用意していただけて大変ありがたかったです。(医薬生命科学系)
- 飲み物のサービス。(理工学系)
- 自由に見て回ることができ、ドリンクのサービスもあった。(理工学系)
- 飲み物を自由に飲めたことがありがたかったです。(社会科学系)
- ドリンクが無料、蛍の光の音楽で終了時間が明確。(医薬生命科学系)
- 水がある。(医薬生命科学系)
- 飲み物の用意があり、大変助かりました。(医薬生命科学系)

研究・研究者とのかかわり (3 件)

- 普段接することのない他の分野の研究者の方と話ができたこと。(理工学系)
- 普段出会うことのない他分野の研究者と交流する良い機会になった。(理工学系)
- 様々な分野で行われている最先端の研究について知ることができた。また研究者のほうから積極的に説明してくれたので理解も深まった。(理工学系)

〈②改善点、今後に向けた提案〉

会場について (5 件)

- 初参加だったが、もう少し広い会場でもよいと感じた。出展者が多いブースもあるが、折角たくさんの出展者がいても、スペースが狭いので結局 2 組くらいずつしか説明できない。(理工学系)
- 場所によって広さが異なる。(理工学系)
- スペースが広いところと狭いところなど、差があるように感じた。壁側付近やコーナーが有利？人が多くて説明や話が混雑時には伝わりづらい部分があった。奇数番号の時間、偶数番号の時間など時間を分けるとよいかもしれない。(理工学系)
- ポスターの場所によって、やはり人目につくかどうかには差があるように思われました。(医薬生命科学系)
- ポスターについては、簡単なキーワードを設けて、テーマごとにエリア分けしてもいいかもしれないと思いました。(理工学系)

時間について (6 件)

- 大きくなった反面、少し中だるみがある。ポスターの演示時間が長い。早めに切り上げるか、トークイベントを長くするなどしてほしい。終了時間を 1 時間早めるか、何らかのめりはりが必要である。(医薬生命科学系)
- ちょっと長丁場すぎるので、昼の 1 時間ぐらい、中央スペースで参加者が集まって行う催しなどを行い、ポスターを一時休憩にする、などはできないでしょうか。(理工学系)
- 開催時間は、もう少し短くても良いのではないのでしょうか。(理工学系)
- ポスターの発表時間がひたすら長い(体力・集中力的にきつい)。(理工学系)
- 1 日しかないのがもったいない。ポスターの時間と企画の時間または日にちを変えてはどうか。1 日の時間を少し減らし、2 日開催としてはどうか(両日か 1 日参加かを選べるようにする)。または、半年に 1 度行う。(理工学系)
- 面白すぎて、時間が足りなかった。しかし客観的にみると、来場者の興味を惹き、かつ発表者やスタッフの疲労を考えると、このようなピンポイント(1 日)での催しは、適当な長さであろう。これまで通り、1 日の催

しで良いと思う。ただ、年に2回くらい催すことができると良いのではないかな？昨日の客入りをみていると、まだまだ伸びそうだと思う。(理工学系)

来場者について (3件)

- 誰でも入れるという側面からやむないことではあるが、研究分野の関連業務に関連するクレームがあり、対処が困難であった。アカデミックデイの目的、ルール(学術的対話)を来場者に再確認する必要がある。(医薬生命科学系)
- 一人だけ困ったご来場者がいました(やり込めることが目的のような感じで、常にこちらの言葉を遮り、我々の研究と少し外れたことを禅問答のように延々と話される)。他のご来場者が後ろで待たれていて、迷惑だとも思いました。こういう際、波風立てずに何とかする方法を予め設定していただけると良いかもしれません。何とか大学の評判を下げるような良い方法があればと思いました。(理工学系)
- 出展者の比率が意外にも高いので、一般参加者が聞きづらい点があるのではないかな。(理工学系)

展示コンテンツについて (3件)

- ポスターの記載内容をもう少し専門的にする。(医薬生命科学系)
- ポスターのクオリティがあまりに低い研究室が多すぎる。特に、A4を貼り合わせた形式のところだとか、スライドを並べただけのところだとかは、よくないと感じた。URAでポスター印刷を請け負って、その際にデザインなどについてもサポートしてはどうか。最低限、全研究室A0フォト紙に統一したらよいと思う。(理工学系)
- ポスターも大事だが、体験や実験を重視した構成でも面白いように感じた。(理工学系)

広報について (2件)

- 所内の知り合いの研究者さん(生物系)にイベントの話をしたところ、「初めて聞いた」とのことでした。若手・学振の研究者さんですが、ラボによってはこのイベントの周知状況に差があるのかなと想像しました。京大内でも、若手の研究者(博士研究者など)にも情報が周知されて、より参加しやすいイベントになるとよいなと思いました。(出展のみならず、見学者として来てくださるのも嬉しいので)(医薬生命科学系)
- 京大周辺に住んでいる方への周知(近隣に住んでいる方から、後日、知らなかった、行きたかったと言われたので)。(人文科学系)

出展者について (11件)

- もっと、高校の発表も増やしては？(理工学系)
- 文科系の発表ももう少しあると、いいかなと思いました。(人文科学系)
- 文系志望の中高校生から文系の発表が少なく残念だとの意見を複数聞いた。ポスター発表は文系にはまだなじみが薄い、もう少し増やす工夫が必要だと思う。(人文科学系)
- 文系の研究室の割合が少なすぎる。アカデミックデイの運営側の問題なのか、それとも文系研究者の意識の問題なのか。文系研究者への広報をもっと積極的にするべきだと思う。(理工学系)
- 文系の研究が増えると良いと思います。(人文科学系)
- 文系の研究の出展がもっとあるとよいと思います。(社会科学系)
- 今回が二度目の出展参加であったが、出展者の顔ぶれが昨年度とかなり重複しており、新鮮味が薄く感じた。(医薬生命科学系)
- 自分と同じようなテーマのご発表があったので、焦りました。概要を投稿後他のご発表研究者のリストを拝見し、掲載前にタイトル変更をできるとありがたいと思いました。(医薬生命科学系)
- あまり他のグループの研究とは関わらず、また時間が長いので、人員が必要。(医薬生命科学系)
- パネルによって、先生お一人で対応なさっているブースがあり大変そうだった。(理工学系)
- 出展者全員の一体感がもっと感じられるとよかった。(理工学系)

企画形態について (7件)

- 中高生向けツアーなどを企画して、ガイドを付けて集団で回ると良いかもしれない。熱心に聞いてたのは受験生だったので。(理工学系)
- 私は見に行けませんでした。座談会の記事をテーマにした話は面白そうと思いました。これに限らず、外部の方を交えた企画はありだと思います。(医薬生命科学系)
- 研究者の本棚をもっと大きくすれば良いのではないかな。(医薬生命科学系)
- 割と関西圏のお客さんが多かったように見受けられたが、観光シーズンは関西圏外や日本外のお客さんも呼び込めるかもしれない。海外のお客さんを意識する場合、よくあるように英語での発表にシフトするのではなく、さまざまな母語が入り乱れているような状態は新しく面白い試みなのではないだろうか？(理工学系)
- メイン会場の舞台があまり使われていないので、時間を決めて実験や実演のパフォーマンスがあってもいいかも。(医薬生命科学系)

- アカデミックデイを京大の教員なら誰でも一度は出たことがある、くらいの裾野の広い企画にしてもらいたい。(理工学系)
- 準備が大変かもしれませんが、秋だけでなく、春にもあってもいいかと思いました。(人文科学系)

運営関連・その他 (18 件)

- お客様の年齢などがわかりにくい。(どのレベルで話せばいいかわかりにくい)。名札に学年などを書いてもらう。もしくはその視認性をよくする工夫をする(色を変えるなど)。(理工学系)
- 一目で出展者と来場者の区別が付くようにして欲しい。(医薬生命科学系)
- ポスター演示者はほとんどイベントに参加できていない。TA を雇えばいい、と言うのであれば、その費用を補助いただくなど、こちらにこれ以上、負担を強いない改善案を出してほしい。(医薬生命科学系)
- 教員、学生に掛かる負担が非常に大きいので、部局、全学で実施される広報活動全般の連携を取って、重複のないように、効果的な活動体制を構築していただきたい。(理工学系)
- 学内限定タイムが短い。他の企画を見に行きにくい。(理工学系)
- 最後の表彰は一般の方がおられる場でもいいかと思いました。(理工学系)
- 3 日前にデータを送ったら、ポスターの印刷と貼り付けまでお願いできる、というのは難しいでしょうか。(理工学系)
- ポスターボードが固くて画鋸がなかなか刺さらなかったです(大した問題ではないです)。(社会科学系)
- 水が足りない。人数分ほしい。椅子も。(医薬生命科学系)
- 飲み物を取りに行く余裕すらない時があり、できればペットボトルでの提供も両方あるとありがたいです(最初のお水に追加して)。(医薬生命科学系)
- お昼を食べるのも忘れて気づくと 15 時を過ぎていました。口にしやすいチョコレートなどの配布もあると嬉しいですが、各自持参で対応できますね。(医薬生命科学系)
- 発表者にとっても美味しいお弁当の手配などがあると士気がより一層高まると思います。(理工学系)
- 簡単な食事があると嬉しい。(理工学系)
- 研究者の本棚の書籍コメントは、各ブースにラミネートして置くには情報量が多すぎて意味がない。・アカデミックデイグッズって、なんのことでしたか？(いまさらですが・・・)(理工学系)
- アンケートに関して、e-mail アドレスの記載が必須なのに名前の回答が任意なのはおかしくないですか？(理工学系)

〈③このような来場者ともっと話したい〉

小中高、大学生 (19 件)

- 小学生・中学生。(理工学系)
- 小学生、中学生、高校生が来やすいとよい(理工学系)
- 中学生、高校生の参加をもっと多くして欲しい。(理工学系)
- 高校生など、日頃なかなか接点のない世代。小学生はハードルが高いので、中学生以上か？あるいは、小学生・中学生を対象にした、プチ・アカデミックデイがあってもよいかも？(出展に際しての配慮も増えそうですが)(医薬生命科学系)
- もっと、高校生の理科クラブ系がいても良かった。(理工学系)
- 特にありませんが、特に今後の進路等をよく考え始める中学生～高校生あたりが、とくに話し甲斐があって良い。(理工学系)
- 受験生。(理工学系)
- 客層として良く話しかけてきたのが意識の高い高齢男性ばかりだったように思う。中高生の進路選ぴとかに使ってもらえれば、それが一番いいのではないと思う。(理工学系)
- 高校生くらいの年代に来てもらいたい。(理工学系)
- よりたくさんの高校生に来てもらいたいです。(医薬生命科学系)
- 高校生にもっと来てもらいたいです。土曜日は授業のある高校も多いと思うので、日曜日にやると高校生の来場者が増えると思います。(理工学系)
- 高校生がもっと来て関心の幅を広げてもらえばいいなと思います。(人文科学系)
- 高大学生(医薬生命科学系)
- 高校生や大学の学部生にもっと参加してもらいたいです。(医薬生命科学系)
- 大学生に来てもらいたい。(理工学系)

- 他大学の学生、留学生がもっと多くてもよいかと思いました。中高生も頑張って質問してくれていましたが、引率者がある方が良かったかもしれません。(理工学系)
- 学部生に来てもらいたい。(医薬生命科学系)
- 大学生に来てもらいたい。大学院生に参加してもらうことで、国民の税金を使って研究している自覚を強く持ってもらえるのではないかと思います。(医薬生命科学系)
- 学内の学生、留学生にも積極的に発信してほしい。前期の授業や試験の時期から、紙媒体も併用してほしい。博士課程進学者が減少している昨今の事情を鑑みると、学内学生の研究意欲の向上が何をさしおいても重要であるはず。本音では、市民への発信はその次である。(医薬生命科学系)

外国人 (2 件)

- 留学生や外国からの訪問者の方ももっと参加できると良いかと思いました。(理工学系)
- マルチリンガルな空間にして、外部へのプロモーション用に英語・中国語のサイトがあってもよいかも。(理工学系)

社会人 (3 件)

- 関連する研究分野に所属する企業の研究者。(医薬生命科学系)
- 新聞記者、科学ライターなどメディア関係の来場者。(社会科学系)
- サラリーマン世代。(人文科学系)

現状維持 (1 件)

- 現状で良いと思います。(理工学系)

だれでも (2 件)

- オープンキャンパスが高校生向けなので、アカデミックデイは小学生から退職された方まで、全年齢対象で、特に絞る必要はないと思います。(医薬生命科学系)
- どんな人でも。(理工学系)

- 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URA による支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

(※アカデミックデイに関する意見は、「今後の『京都大学アカデミックデイ』開催にあたってのご意見」のコメントまとめに統合)

〈「国民との科学・技術対話」への取り組み (4 件)〉

- 十分だと思いますが、SNS と同時に、紙媒体での発信もおそろかにしないでほしい。(医薬生命科学系)
- 「研究を分かりやすく伝える」のが最近の流れですが、「研究の難しさ (簡単には理解できるものではない)」ことも伝える方向性もあっていいと思います。好奇心は「分からないこと」から生まれる方が多いと思うからです。(理工学系)
- 幼稚園児・小学生などは、ポスターでの対話よりも、実験や物体などの方がインパクトがあり、後々の学習などの意欲に大きく変わると思います。その点で、演示実験体験ブース、ないしはアカデミックデイ以外に該当する行事などの企画・開催があると良いと思います。(理工学系)
- 今回のような直接の対話はもちろん重要ですが、今後 Web での対話も必要なのかと思います。URA の方の SNS 活用に乗る形で、サイト運営や動画配信等の科学対話もご支援いただけますと幸いです。(医薬生命科学系)

〈URA による支援 (7 件)〉

- 学生、教員への負担が増えないようにお願いしたい。(理工学系)
- 担当の URA には企画段階から色々とお世話になりました。今回の発表を通して大変良い勉強が出来ました。今後もこの機会を使って、発信力を高めていきたいです。(医薬生命科学系)
- 毎年貴重な機会をありがとうございます。事前準備から事後対応までフォローしていただき、大変助かりました。(医薬生命科学系)
- 研究者の負担は極力抑える努力はすべきだと思います。(理工学系)
- URA の方と接する機会がないのでなんとも言えない。(理工学系)
- 自主ゼミをするためのラーニングコモンズなどを増やして欲しい。いつも満員で正直足りてない。(理工学系)
- これからも頑張っていたきたいです。(理工学系)

3-3. 京都大学アカデミックデイ賞

京都大学アカデミックデイでは、出展研究者に贈る「京都大学アカデミックデイ賞」を設けています。賞を設けた理由は、さらによりよい対話を目指した研究者が評価される（価値をつけられる）仕組みを作ることです。今後、研究活動の一環として「国民との科学・技術対話」活動が普及・定着すること、また活動が研究者にとって負担にならないことを目指して始めました。

来場者アンケートの中に「本日の『ちゃぶ台囲んで膝詰め対話』と『研究者と立ち話』の中で、あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」という質問を設けました。この質問で一番コメントを多く集めた出展研究者が、今年度の「京都大学アカデミックデイ大賞」の受賞者です。また二番目にコメントを多く集めた出展研究者には「京都大学アカデミックデイ賞」が贈られました。

■ 3-3-1. 2017 年度「京都大学アカデミックデイ賞」受賞者

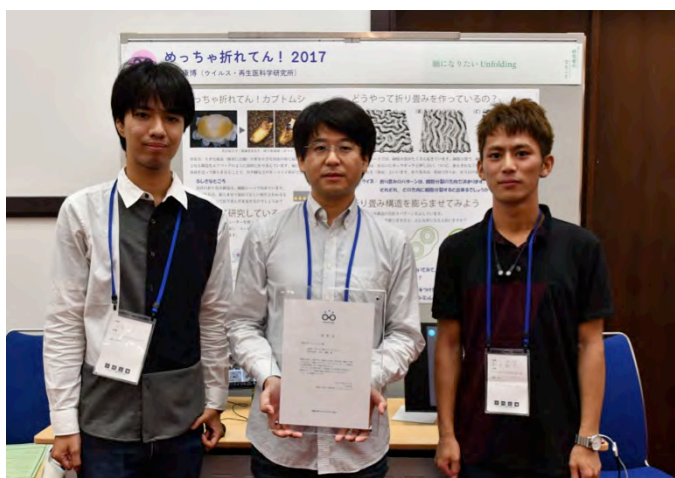
● 京都大学アカデミックデイ大賞

出展名：「ナメクジとあなたで始める新しい科学」
出展代表者：宇高寛子（大学院理学研究科）



● 京都大学アカデミックデイ賞

出展名：「めっちゃ折れてん！ 2017」
出展代表者：井上康博（ウイルス・再生医科学研究所）



3-3-2. アンケートの上位の出展

来場者からの賞についてのアンケートでコメント数の多かった上位 10 件は以下の出展でした。

「ナメクジとあなたで始める新しい科学」出展代表者 宇高 寛子（大学院理学研究科）	
・ 生体展示つきでびっくりしたで賞	・ 是非研究に参加したいと思わせてくれたで賞
・ オープンサイエンスへ興味をそそられたで賞	・ 協力したいで賞
・ アウトリーチが大事で賞	・ 子どもたちにも聞かせたい賞
「めっちゃ折れてん！2017」出展代表者 井上 康博（ウイルス・再生医科学研究所）	
・ 折れ方と細胞分裂に注目する発想がすごい賞	・ サナギの不思議が少しわかったで賞
「ゲノム編集で肉厚な真鯛、食べる？」出展代表者 佐藤 恵子（医学部附属病院 臨床研究総合センター）	
・ 世間の声を知ろうとしていたで賞	・ たくさん議論できて良かったです賞
「世界を変える RNA テクノロジー」出展代表者 齊藤 博英（iPS 細胞研究所）	
・ 高度そうな内容でもよくわかった de 賞	・ 未来が楽しみで賞
「人工遺伝子スイッチでがんを治す」出展代表者 杉山 弘（大学院理学研究科）	
・ これからの活躍が楽しみで賞	・ ワクワクしたで賞
「素粒子ってなんだろう？」出展代表者 市川 温子（大学院理学研究科）	
・ 熱意溢れる説明に感銘したで賞	・ 若くて元気があふれていたで賞
「土石流が発生した時に危険な場所は？」出展代表者 中谷 加奈（大学院農学研究科）	
・ 土石流の発生する原理と対策の現状が分かりやすかったで賞	・ 実験が目の前で見れて面白かったで賞
「アフリカから人類の未来の幸せをみる」出展代表者 松田 素二（大学院文学研究科）	
・ 考えさせられたで賞	・ アフリカの「幸せ」が世界中に広がってほしいで賞
「超伝導 電気抵抗ゼロって素晴らしい」出展代表者 土井 俊哉（大学院エネルギー科学研究科）	
・ アイデアが画期的だったで賞	・ 研究を続けて世界を豊かにしてくださいで賞
「iPS 細胞から輸血用の血小板を作る」出展代表者 杉本 直志（iPS 細胞研究所）	
・ これからの研究・発展に期待しています賞	・ よく聞いてくれたで賞

4. 出展者情報

以下、各出展の「〇〇〇賞」は、来場者のアンケート用紙に設けた質問「あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」の回答の中から特徴的なものを表記しました。各出展のポスターやその他の写真は京都大学アカデミックデイ2017WEBサイトでもご覧になれます (<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/2017/>)。

4-1. 研究者と立ち話

01

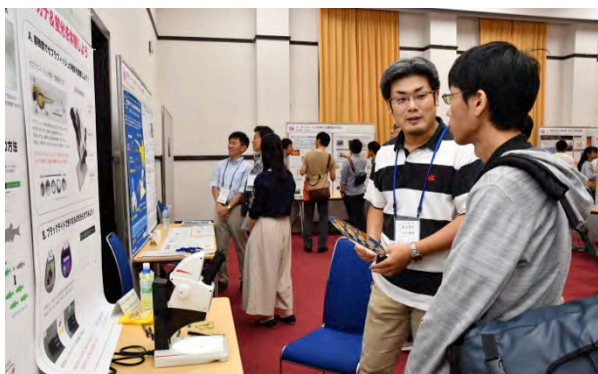
サカナを使った蛍光イメージング

飯田敦夫（ウイルス・再生医科学研究所）



魚の奥深さ!!賞

“蛍光”という言葉をご存知ですか？小さな熱帯魚の細胞を赤や緑に光らせて観察する、生物学研究を紹介します。また、見えないものを可視化する“蛍光イメージング”という現象を、ブラックライトを使うことで体験します。



02

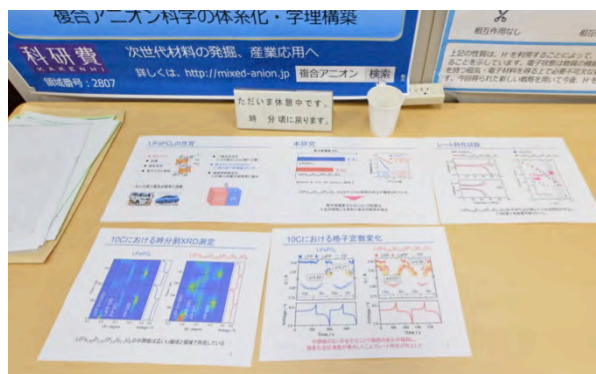
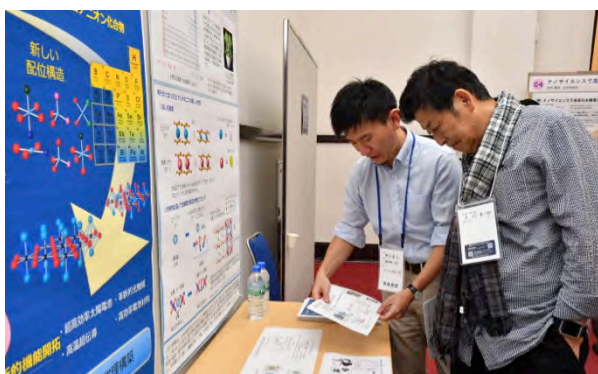
複合アニオン材料でもたらされる新物質

陰山洋（大学院工学研究科）



熱い賞

従来の金属イオン（カチオン）中心の材料設計に対して、アニオン中心に設計していく複合（混合）アニオンという概念を提唱し、新たな配位構造により、機能開発に新しい次元をもたらし、様々な応用を図っています。



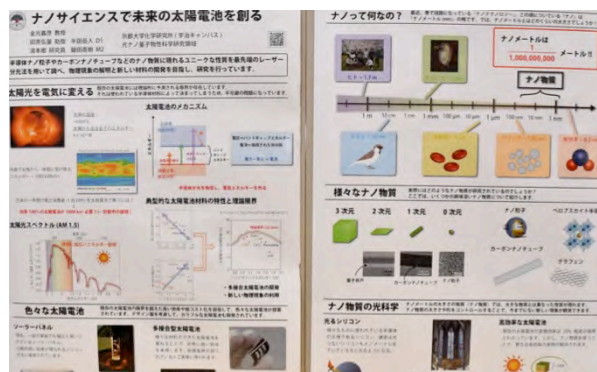
04

ナノサイエンスで未来の太陽電池を創る 金光義彦（化学研究所）



ノーベル賞めざしてがんばって賞

自然エネルギーの有効活用が叫ばれる中、太陽光は重要なエネルギー源の一つです。太陽光を使って電気が作られる仕組みや、より高い効率を目指すための新しい有機無機ハイブリッド半導体やナノ粒子半導体について分かりやすくお話しします。



05

教育・学習支援のためのデータ分析 緒方広明（学術情報メディアセンター）



頼りにしますで賞

現在の学校教育現場では、デジタル教材やビデオ映像など、コンピュータを使って様々な授業が行われています。その中では、大量の利用履歴データが蓄積されており、その分析によって、学生がどのように学習を行ってきたか、等が把握できます。本研究ではこのようなデータ蓄積・分析のための情報基盤を研究開発しています。



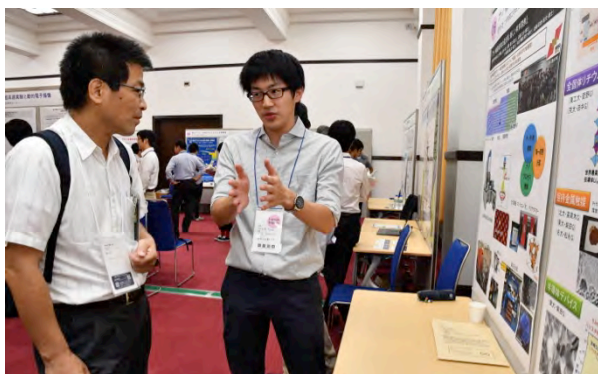
06

ナノ構造研究の最先端：新しい材料開発 田中功（大学院工学研究科）



頑張ってますネ賞

結晶のなかで原子は整然と並んでいますが、ところどころで原子レベルでの乱れが生じています。これを的確に利用すると、環境やエネルギー問題を解決する革新的な材料開発が可能になります。その最先端をお見せします。



07

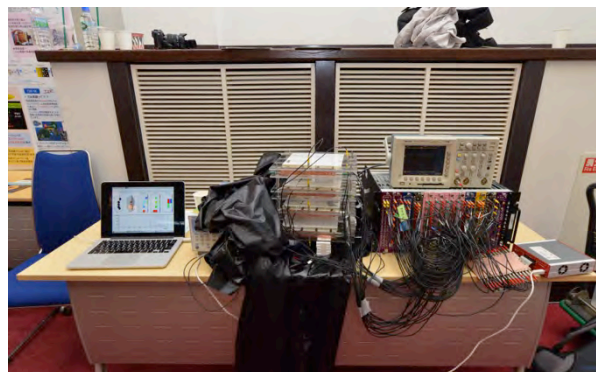
素粒子ってなんだろう？

市川温子（大学院理学研究科）



素粒子って難しいと思っていたが少しわかったで賞

素粒子って難しそう。でも、本当は感じないだけで、実は私たちの身近なところに溢れかえっています。ほら、あなたの目の前にも。



08

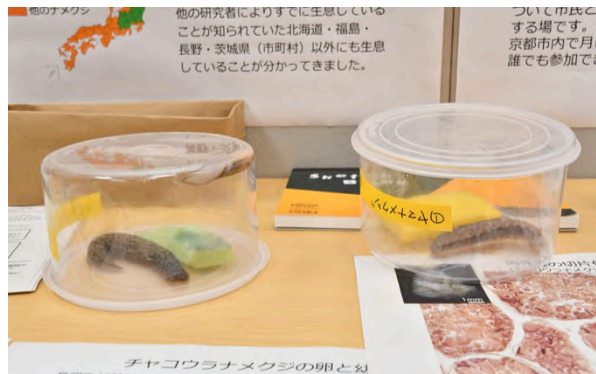
ナメクジとあなたで始める新しい科学

宇高寛子（大学院理学研究科）



是非研究に参加したいと思わせてくれたで賞

ナメクジは身近な生き物ですが、わからないこと、不思議なことがたくさんあります。ナメクジについてはもちろん、オープンサイエンスという市民の皆さんが参加する、新しい科学のスタイルを取り入れたナメクジ研究について紹介します。



09

アミロイドβの構造解析と診断への応用

入江一浩（大学院農学研究科）

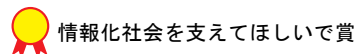


高齢化社会にむけての希望の賞

アルツハイマー病の原因物質であるアミロイドβは、凝集することにより神経細胞毒性を示す。本研究では、質量分析法などの化学的手法を用いて、毒性を示す凝集体の構造解析を行った。さらに毒性を示す凝集体を特異的に認識する抗体を開発し、アルツハイマー病の早期診断への応用を検討した。



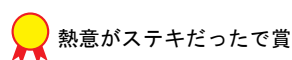
10 小さな磁石を用いたメモリーデバイス
小野輝男（化学研究所）



情報記録のためにハードディスクなどが大容量のメモリーとして使われてきたが、情報化社会の発展とともに、超大容量、超高速のメモリーデバイスが必要となっている。本ポスターでは、次世代メモリーデバイスの一つである新規磁壁メモリーデバイスを紹介する。



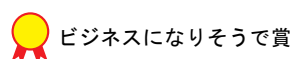
11 次世代の医療を支えるアパタイトの科学
数塚武史（大学院エネルギー科学研究科）



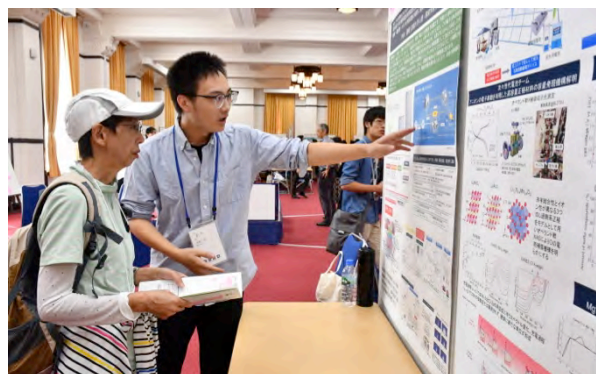
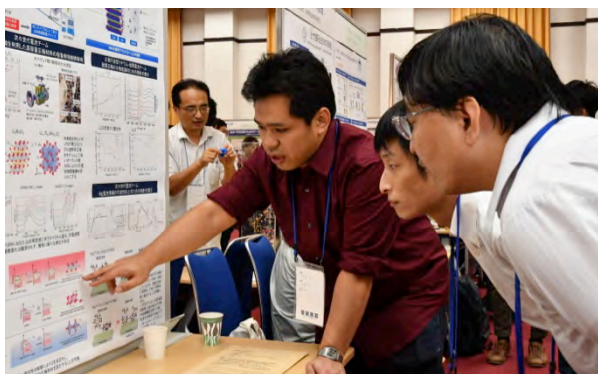
超高齢社会の到来により、骨を治療する人工骨や各種疾患治療を解決する新材料開発の需要がますます高まっています。私たちは骨や歯に含まれる生体鉱物「アパタイト」を人工的に作る手法を開発し、からだになじみやすい人工骨や薬のカプセルなど、次世代の医療を支える新材料の開発を精力的に進めています。



12 次世代蓄電池・燃料電池開発を目指して
内本喜晴（大学院人間・環境学研究科）



蓄電池や燃料電池は、電気自動車、燃料電池自動車や再生可能エネルギーの本格普及に必要な不可欠です。現在のリチウムイオン二次電池よりもたくさんエネルギーを蓄えることのできる蓄電池や、高性能で寿命の長い燃料電池の開発を行っています。



13

光で探る生命の原理

松田道行（大学院生命科学研究科）



とても興味がわいてきたで賞

生物の体はどのように形成され、機能するのでしょうか？生命に関するこの根本的な問いに答えるために、私達はネズミの体内の一つ一つの細胞や分子を、光を使って“観察”し、さらには“操作”することで、生命の原理を探っています。なぜ病気になるのか、そしてどうすれば病気を防げるのか明らかにすることが目標です。



14

植物は何故薬をつくるのだろう？

佐藤文彦（大学院生命科学研究科）



意外な力を発見しているで賞

植物は、食料源としてのみならず、香料や色素、さらには、医薬品成分を作ります。特に、アルカロイドと呼ばれる窒素を含む一群の化合物は生理活性が強く、毒として、また、医薬品として利用されてきました。このような成分を植物は何故、どのように作るのかということの研究の一端を紹介します。



15

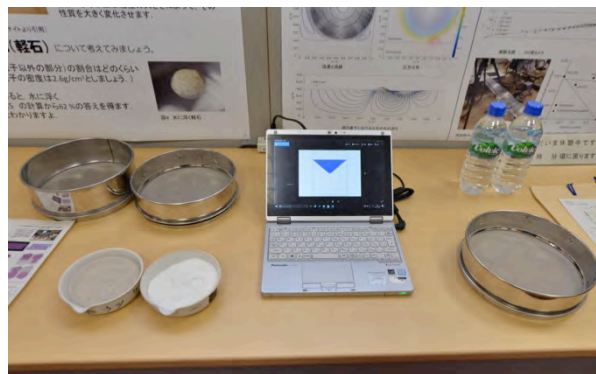
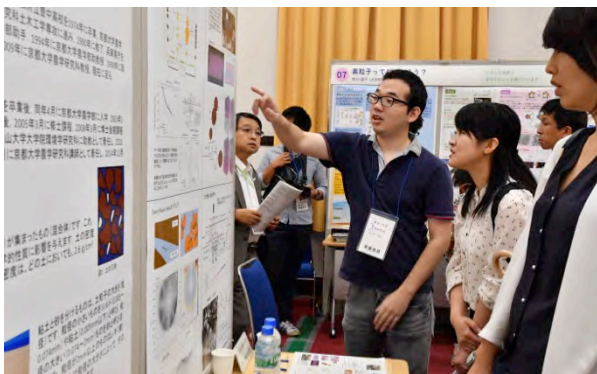
『土と水の科学』から見る生産基盤

村上章（大学院農学研究科）



将来役立ちそうで賞

生産基盤を成す農業水利施設は、土質材料で作られているものが多く、自然由来の材料であるがゆえ、豪雨、地震、侵食による被害を受けます。「土」の様子・挙動は「水」と深く関わっているのです。私たちは、農業水利施設のマネジメントを目的として、土と水に関する力学を基礎および応用の観点から研究しています。



16 環境低負荷型農業の確立を目指して
舟川晋也（大学院地球環境学堂）

 研究のウラ話を赤裸々に話してくれたで賞

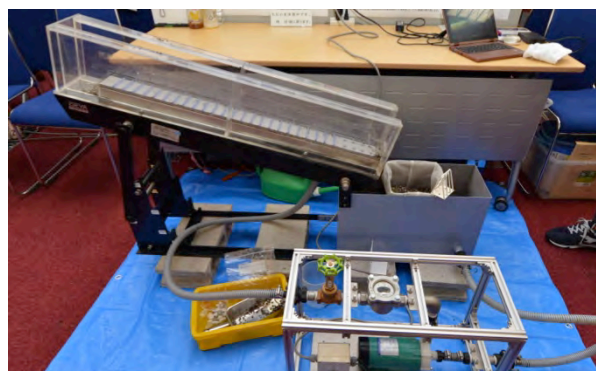
近代農業の拡大に伴い顕在化してきた「農業生産の持続性の危機」および「農業起源の環境問題の拡大」を回避・解決するために、1) 下層土からの溶存成分の流出、2) 土壌表層からのガス成分としての放出、3) 土壌侵食を通した土壌粒子・有機物の物理的除去を最小にするような「ミニマム・ロスの農業」を実現する。



17 土石流が発生した時に危険な場所は？
中谷加奈（大学院農学研究科）

 実験プレゼン大賞

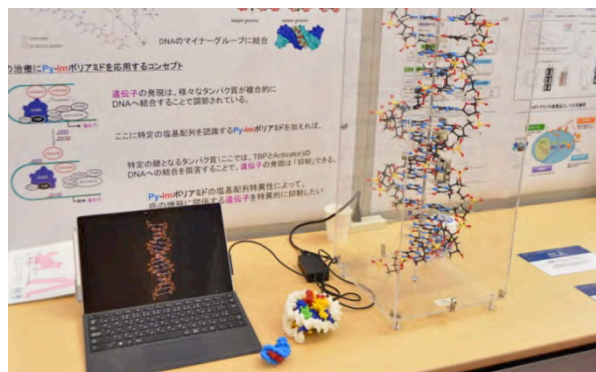
土石流が発生して危険なのは山際だけではありません。建物が流れの方向を変えたり、道路上を水や土砂が流れることで到達範囲が変わることがあります。さらに、水や土砂だけでなく流木が流れて被害を拡大させることもあります。災害の検証や実験、解析から土石流による具体的な危険箇所や効果的な対策までを検討します。



18 人工遺伝子スイッチでがんを治す
杉山弘（大学院理学研究科）

 遺伝子、わくわくしたで賞

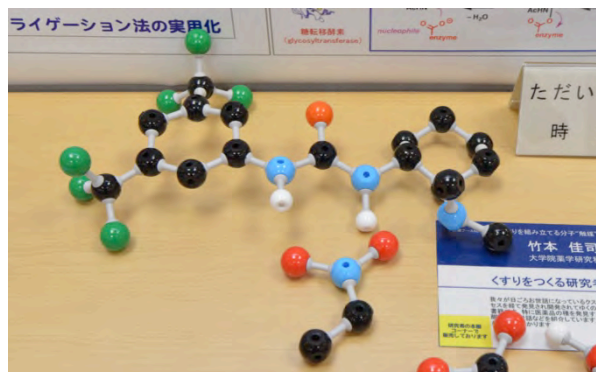
私たちのグループでは、DNAの塩基配列を認識するN-メチルピロール-N-メチルイミダゾール(Py-Im)ポリアミドとアルキル化剤を結合し、がんの治療薬の開発を目指しています。



19 くすりを組み立てる分子“触媒”の研究
竹本佳司（大学院薬学研究科）

魅力ある話でした賞

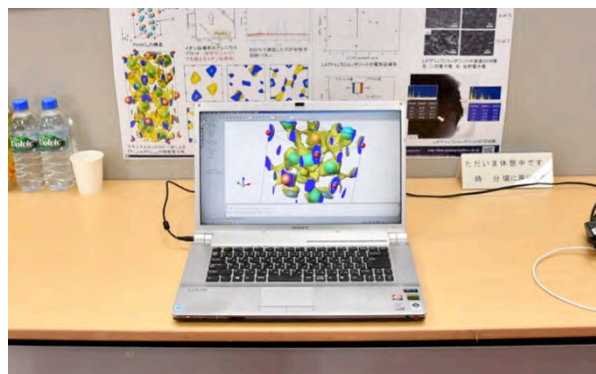
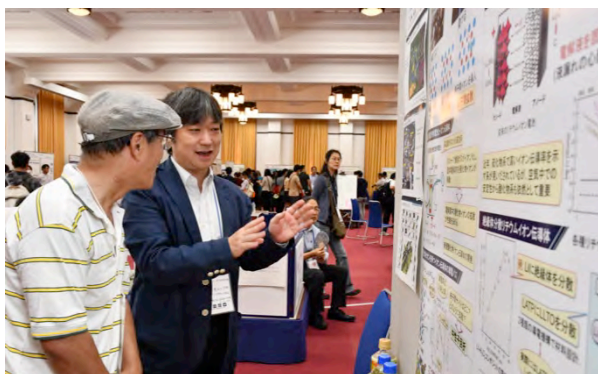
我々が病気にかかった時にお世話になるのが「くすり」です。新しい薬を開発するために必要な時間とお金が増えています。それが原因でくすりの値段も高くなってしまいます。我々は薬を安価に大量にクリーンに化学合成できる人工の合成触媒を設計し、その効果を研究しています。



20 構造欠陥が導くイオン伝導の世界
高井茂臣（大学院エネルギー科学研究科）

フレンドリーだったで賞

高温で作動する燃料電池やリチウムイオン電池材料は、固体の中で動くイオンが大きな役割を果たしています。私たちはイオンが拡散しやすいように欠陥をつかって材料設計します。ブースでは最近の研究を紹介します。



21 21世紀によみがえる魔女たち
河西瑛里子（人文科学研究科）

世界の奥深さが垣間見えるで賞

欧米で急速に拡大しているペイガニズムは、キリスト教到来以前のヨーロッパにおける多神教・自然崇拝の信仰の復興で、魔女術がもっとも知られる。その概要と拡大の背景をイギリスを中心に説明し、日本の状況についても触れたい。



22

蛍光物質が救う 90 億人の食料

近藤直（大学院農学研究科）



とても役に立ちそう de 賞

農畜水産物には通常の光では反応しない蛍光物質が複数含まれており、その蛍光物質からの情報は品質・鮮度検査、腐敗の防止等に役立つ。今後、アジア、アフリカを中心に 20 億人の人口増が見込まれることより、世界の農産物の蛍光物質の特性をデータベース化することで、食料ロス削減等に貢献することを目指している。



23

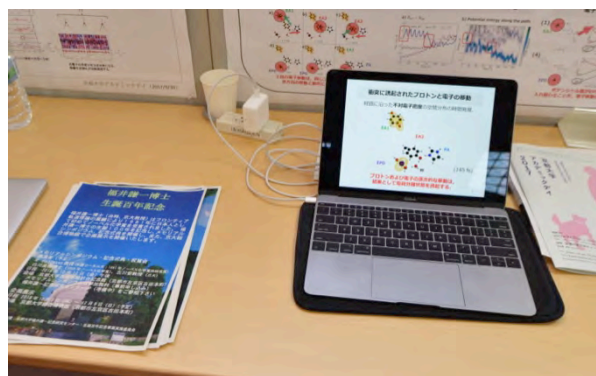
分子科学の超高速実験と動的電子描像

高塚和夫（福井謙一記念研究センター）



説明がわかりやすかったで賞

2018 年には、ボルンとオープンハイマーによる量子力学的分子描像の論文が出版されてから 90 年、現代化学反応論の基礎を打ち立てた福井謙一先生誕生 100 年になる。ここでは「福井」以後の実験と理論による分子描像に焦点を当てて、化学の発展を考える。



24

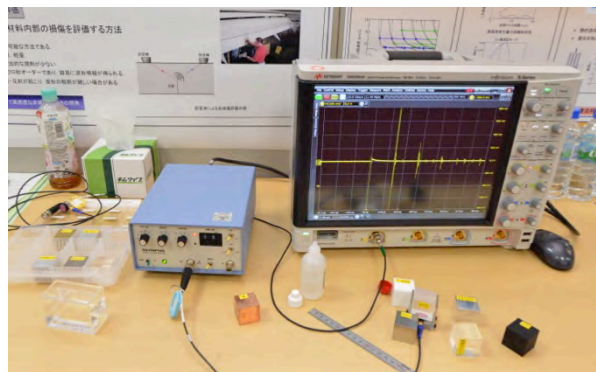
音で見る ー超音波による非破壊検査ー

松田直樹（大学院工学研究科）



超音波で事故をなくしてほしいで賞

安全な暮らしを陰から支える非破壊評価法についてご紹介します。超音波とは何かから最先端の複合材料の検査まで、幅広く扱います。音に関する疑問・質問にもお答えします。



25

人の間に浮かぶ「意思」
大本義正（大学院情報学研究科）



わくわくしたで賞

他人の頭の中は見ることができません。でも、「機械のような人」「感情豊かな人」のように感じることができます。これは、見えている情報から判断しているわけではないのです。他人と自分の間に浮かんでいる「意思」を捉えようとしています。



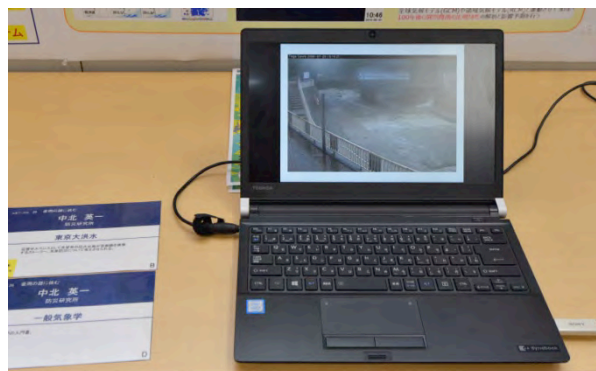
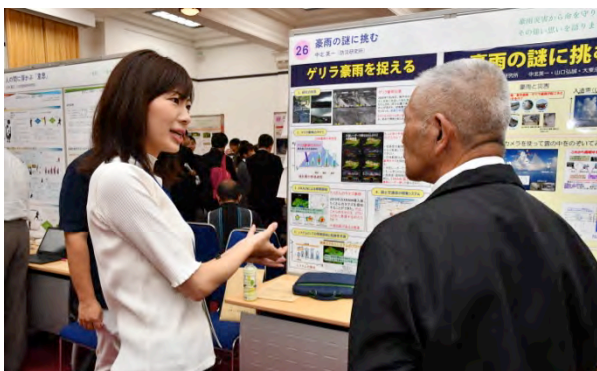
26

豪雨の謎に挑む
中北英一（防災研究所）



これからもっと研究を頑張してほしいで賞

ゲリラ豪雨・線状対流系集中豪雨をもたらす初期積乱雲（豪雨のタマゴ!）のメカニズムを明らかにするための観測や予測研究を紹介します。豪雨災害から人命を守りたい、その強い思いを語らせていただきます。



27

木の物語を聴く、木のお話を読む
横山操（大学院農学研究科）



日本の木材事情がよくわかったで賞

この木は何の木？ どうしてここに使われるの？ どこから来たの？ いつからここにいるの？ 社寺を支える建築部材の一つ一つにも、長い歴史の物語が刻まれています。科学の目で人と木の物語を読み解き、人が年を取るように木材も老化する・・・ことについて研究をしています。一緒に木の物語を聴き、木の絵本を読みませんか。



英語教育や異文化理解に関する研究

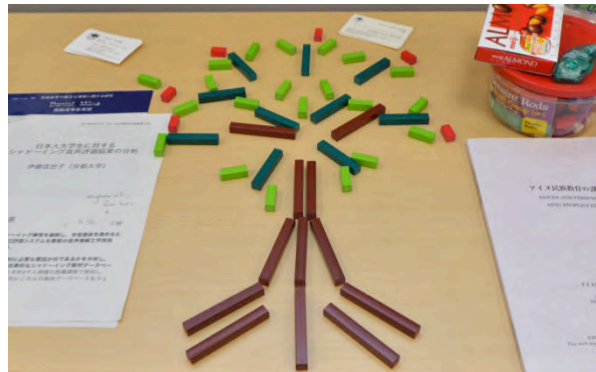
28

Daniel Milne (国際高等教育院) / 伊藤佳世子 (国際高等教育院)
David Lees (国際高等教育院) / Sara Schipper (国際高等教育院)
Jennifer Teeter (国際高等教育院)



お話し面白かったで賞

私達は京都大学の国際高等教育院 (ILAS) に所属し、英語教育ではシャドーイング、主体的学習や動機づけ、学習と時間に関する研究を行い、異文化理解のために、訪日観光研究や少数民族等の言語研究を行っています。ポスター以外にも詳細な資料を準備し説明をします。午前は観光学と少数民族、午後からは英語教育です。



29

めっちゃ折れてん！2017

井上康博 (ウイルス・再生医科学研究所)



着眼点が面白いで賞

完全変態する昆虫は、幼虫期の体内に細胞で出来た袋状の折り畳み構造を作り、この折り畳み構造を膨らませることで蛹となる。細胞がどのように折り畳みを作るのか、どのような形が折り畳み可能なのか、その秘密に迫る。



30

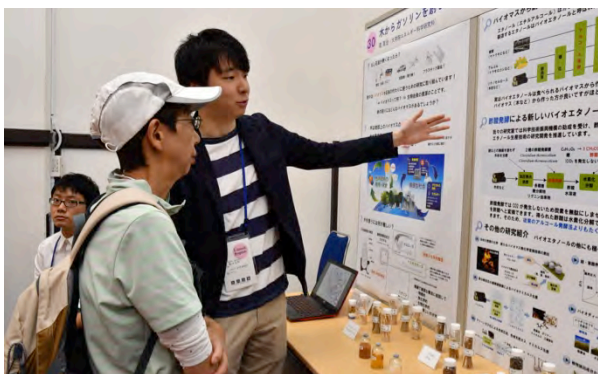
木からガソリンを創る！

南英治 (大学院エネルギー科学研究科)



ぜひ実用化を！賞

木は循環型資源、ガソリンは化石資源。そんなガソリンを木から創ることができれば、CO2を増やさない未来型エネルギーが実現できます。



31

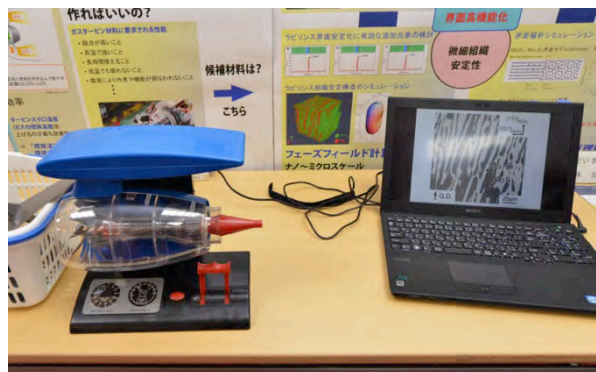
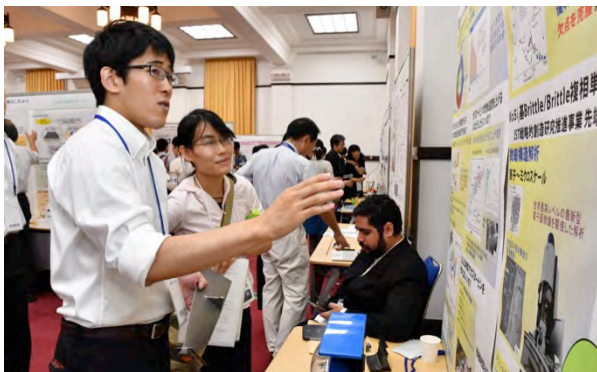
炎を制する一超耐熱構造材料

乾晴行（大学院工学研究科）



地味でも頑張れ賞

高融点、高温強度に優れた MoSi_2 基軸材料と他のシリサイドからなる Brittle/Brittle 複相材料（融点約 2000°C ）中の界面の高機能化により、高温高強度、高靱性を兼ね備えた 1800°C 級ガスタービンで使用可能な超耐熱材料の開発を目指しています。



32

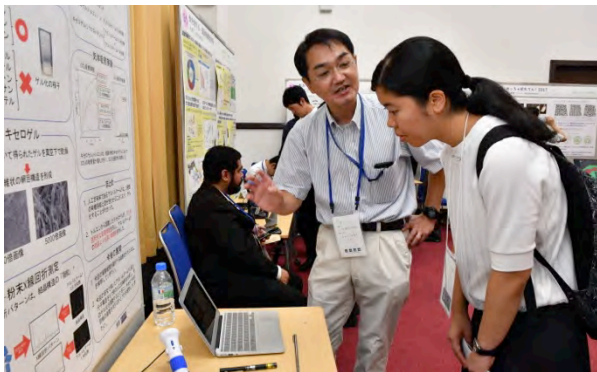
甘いゲルで二酸化炭素をつかまえる

津江広人（大学院人間・環境学研究科）



今後の発展に大きく期待するで賞

本研究では、（1）人工甘味料として知られるアスパルテームがゲル化すること、および（2）そのゲルから調製したキセロゲルが二酸化炭素を選択的に吸着することを見出した。



33

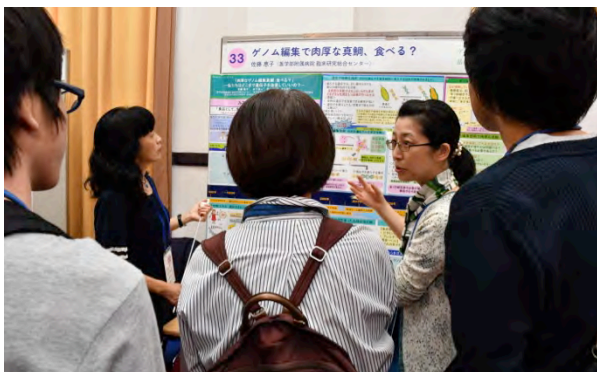
ゲノム編集で肉厚な真鯛、食べる？

佐藤恵子（医学部附属病院 臨床研究総合センター）



たくさん議論できて良かったです賞

ゲノム編集は、遺伝子を正確に効率よく改変する技術で、品種改良への期待が膨らんでいます。安全性や環境への影響等に加え、私たちは食べ物としてどこまで生き物を改変してよいのでしょうか。どんな条件が整えば受入れ可能でしょうか。開発中の「ゲノム編集で肉厚な真鯛」を例に、みなさんとあれこれ考えたいと思います。



34

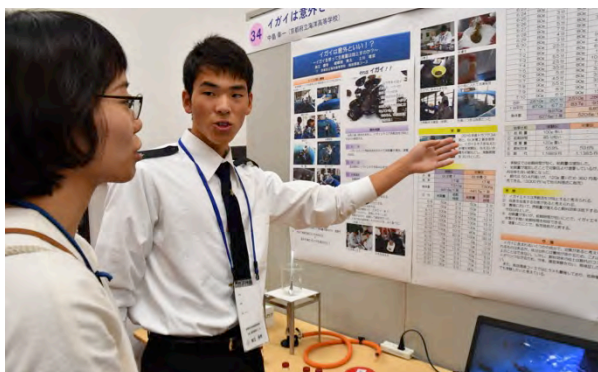
イガイは意外といい！目指せ生産量向上

京都府立海洋高等学校



若い力を大人に見せつけてあげま賞

イガイエキスを餌に染み込ませてトラフグに給餌し、成長比較実験を行った。フグが自然界で摂餌している餌料生物を想定し、給餌することで、摂餌意欲が向上するとともに、給餌量増大につながり、成長すると考えた。費用を抑えて自分たちで調達可能な餌料生物を検討し、本校桟橋に生息するムラサキイガイの利用に注目した。



35

元素戦略プロジェクト

田中庸裕（実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池元

素戦略研究拠点ユニット）

田中功（構造材料元素戦略研究拠点ユニット）



夢を与えてくれたで賞

「元素戦略」耳慣れないことばだと思いますが、今、世界中から注目されているプロジェクトです。京都大学では2つの研究拠点を設置し、産官学が密接に連携して研究を行っています。その取組みについてお話します。



36

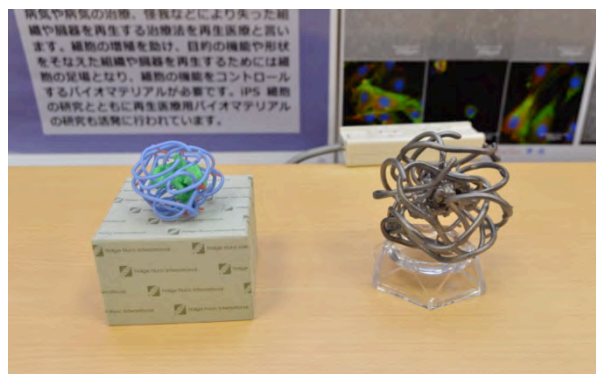
ナノ材料で病気を治す

秋吉一成（大学院工学研究科）



人類のためにがんばってほしい賞

我々は、高分子化学やバイオテクノロジーを駆使して、目に見えないほど小さなナノ材料（バイオナノトランスポーター）を開発しています。このバイオナノトランスポーターをドラッグキャリア（薬剤の運び役）等の医療に応用するために研究を進めています。



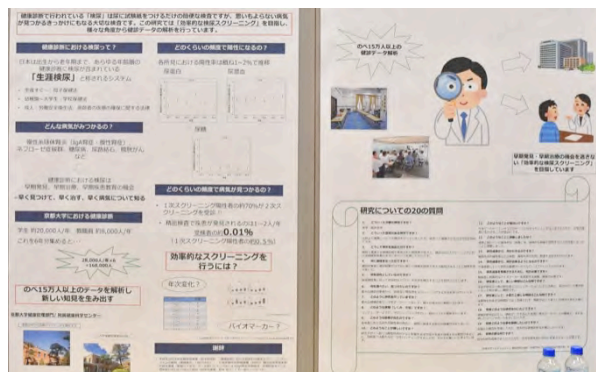
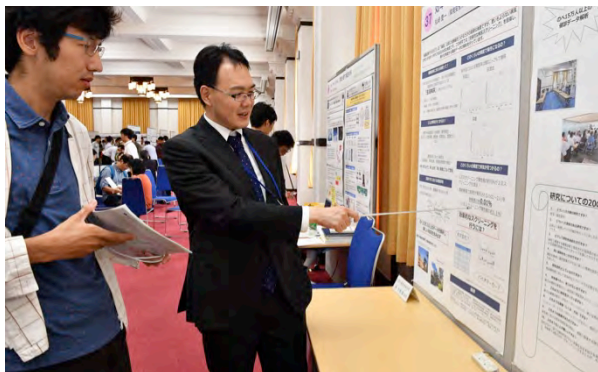
37

効率的な検尿スクリーニングを目指して
松崎慶一（環境安全保健機構附属健康科学センター）



今尿検査に関心があるのでワクワクしたで賞

健康診断で行われている「検尿」は尿に試験紙をつけるだけの簡便な検査ですが、思いもよらない病気が見つかるきっかけにもなる大切な検査です。この研究では「効率的な検尿スクリーニング」を目指し、様々な角度から健診データの解析を行っています。



38

バルクナノメタル：常識を覆す構造材料
辻伸泰（大学院工学研究科）



常識覆したで賞

構造用金属材料は、様々な形で私たちの日々の生活を支えています。「粒界・バウンダリーだらけ」の構造を有し優れた強度と可塑性の両方を兼ね備えた、今までの常識を覆すバルクナノメタルについて紹介します。



39

脳と認知機能のアンチエイジング
積山薫（大学院総合生存学館）



科学研究が開く人類の未来が見えたで賞

世界に先駆けて超高齢社会を迎えた日本。数年後には、認知症患者数が小学生数を上回ると予想されています。個人差がとて大きい高齢期に、脳と認知機能を若々しく保つには……。私たちの研究を紹介します。



40

アフリカから人類の未来の幸せをみる

松田素二（大学院文学研究科）



考えさせられたで賞

現代アフリカ社会が経験している困難と課題を解決する複数の処方箋は、現代の人類社会が直面している困難を解決してくれる処方箋にもなるかもしれません。アフリカ社会が持つ「潜在力」を一緒に考えてみませんか？



41

うつわの正面ど〜れ ―古代人の認知―

富井眞（文化財総合研究センター）



研究姿勢が面白いで賞

古代の土器は野焼きで作られる。たき火で焼くヤキモノと同じ要領なので、火加減の細かい管理がとても難しい。見事な造形美のうつわでも、焼成の時の焼きムラによって、美観が歪められることがある。偶然にできてしまうこの〈ムラ〉を、古代人も気にしていたことが、発掘現場で記録されたデータの検証で明らかに。



42

世界を変える RNA テクノロジー

齊藤博英（iPS 細胞研究所）



わかりやすく説明して下さってうれしかったで賞

私たち生物の体内で重要な働きをしている分子「RNA」を使って、生物の仕組みや機能を自在に操る技術の開発を行っています。iPS 細胞やがん細胞の運命を支配する「RNA テクノロジー」を武器に、未来の医療を開拓します!!



43

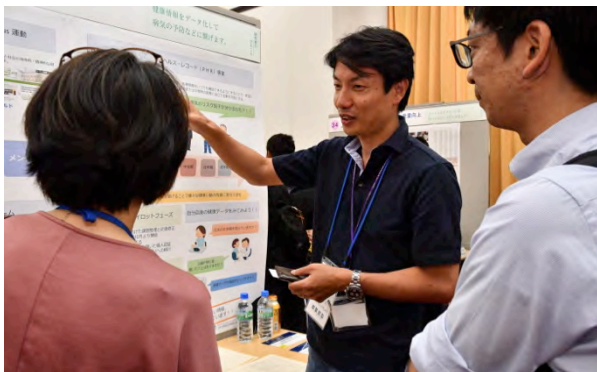
大学生から始める健康情報利活用

石見拓（環境安全保健機構附属健康科学センター）



興味深いで賞

健康診断の結果、食生活や運動といった自分自身の健康に関する情報を、生涯にわたって使いやすい状態で持つことができる仕組みを構築するとともに、健康増進、病気の予防など科学的な効果の検証を進めます。



44

楔形文字の世界と文字認識の実現

山本孟（文学部）



体験楽しかったで賞

古代メソポタミアで使われた楔形文字とはどのような文字なのか？楔形文字を粘土に刻む体験を通じて、文字の特徴やこの文字で記録された言語、古代トルコの王国ヒッタイトの歴史研究についてご紹介します。加えて、楔形文字を判別する OCR エンジンの開発に向けた取り組みについて、最新の動向をご紹介します。



45

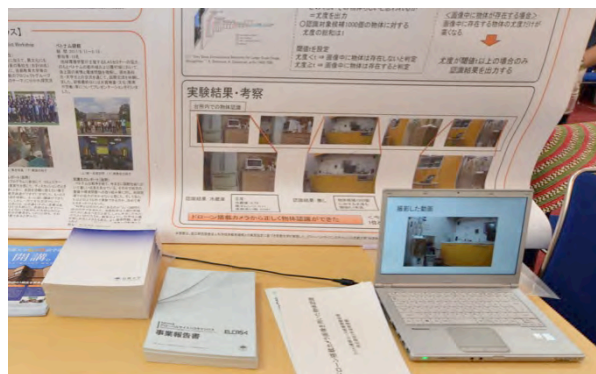
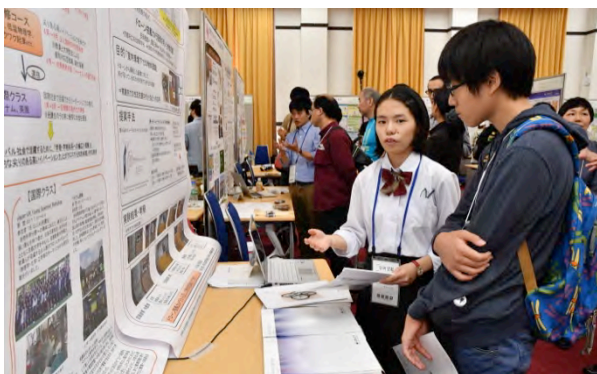
ELCAS＝京都大学×高校生×探究

渡部祐司（高大接続科学教育ユニット）



うちの子にすすめたいで賞

主体的に科学を究めようとする高校生の育成を目的とし、全国から高校生を受け入れ、講義・実習・合宿・成果発表会を実施しています。探究活動の成果は「ELCAS Journal」（受講生が筆頭著者である京大発の査読付き論文集）としても発表しています。ELCAS 修了生は延べ 600 名を超える事業となっています。



47

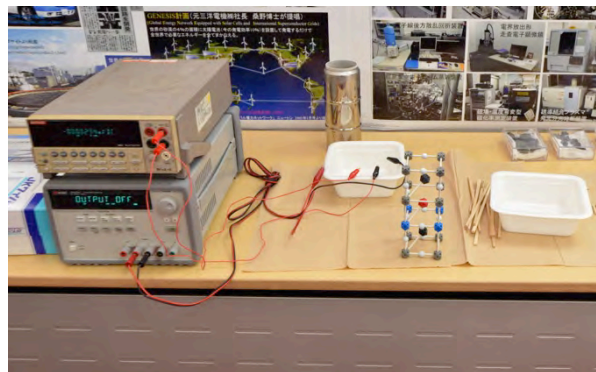
超伝導 電気抵抗ゼロって素晴らしい

土井俊哉（大学院エネルギー科学研究科）



大変有意義な対話になったで賞

超伝導物質を低温まで冷却すると、電気抵抗が0になります。つまり超伝導線には無駄なく大量の電気を流せ、MRI 検査装置やリニア中央新幹線などに欠くことのできないものとなっています。この不思議で有益な超伝導現象を分かりやすく説明するとともに、最新の超伝導技術について紹介します。



48

脳の機能回復に関わる神経回路の変化

伊佐正（大学院医学研究科）



印象に残ったで賞

脳や脊髄に傷害を受けると麻痺などの症状が起こります。一般に治療困難とされていますがリハビリによって機能がある程度回復します。しかし、そこで何が起きているのかはよくわかっていませんでしたが、私たちはその訓練による機能回復のメカニズムを調べています。



49

ナノ空間の世界と化学

北川進（高等研究院）



目指していることを達成してほしい賞

ナノテクノロジーはナノサイズの「物質」を作り、新しい機能を生み出す技術である。では、ナノサイズの「空洞」（ナノ空間）はどうでしょうか？実は、ナノ空間には特定の分子を捕まえたり、溜め込んだりできる。私たちは、そのようなナノ空間をデザインし、環境やエネルギー分野に貢献できる新しい物質開発を行っています。



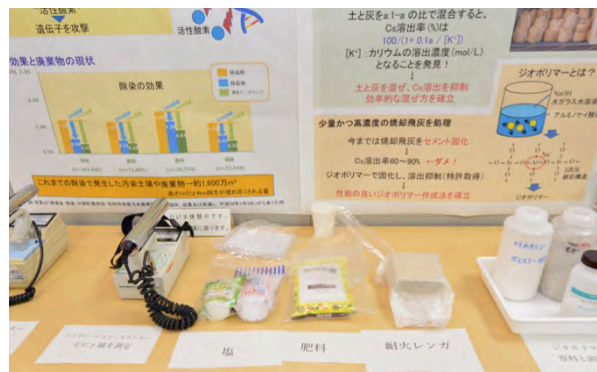
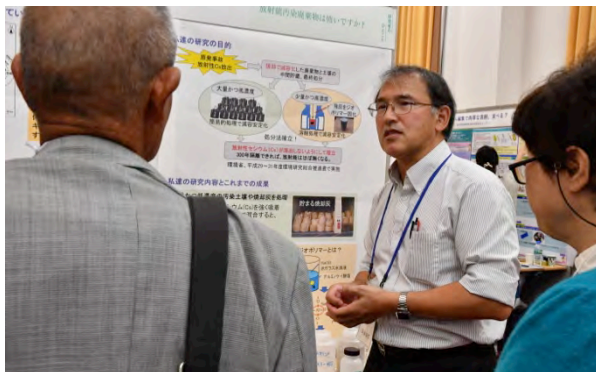
50

放射能汚染廃棄物のこれから 米田 稔 (大学院工学研究科)



これからの研究がんばってほしい賞

福島では放射能で汚染された大量の放射能汚染廃棄物が発生しています。本研究では廃棄物やその焼却灰中での放射性セシウムなどの挙動を明らかにして、今後の中間貯蔵から最終処分を見据えた放射能汚染廃棄物の処分方法を提案します。



51

電子顕微鏡中でのナノの世界の力学実験 澄川貴志 (大学院工学研究科)



見えない世界を楽しませてくれたで賞

材料がナノメートル（100 万分の 1 ミリ）オーダーまで小さくなると、原子の世界が見えてきます。すると、材料はこれまでとは全く違う強さを示すと考えられています。未来の優れたナノデバイスやナノマシンを実現するために、世界最先端の実験と解析を用いて、その解明に挑戦しています。



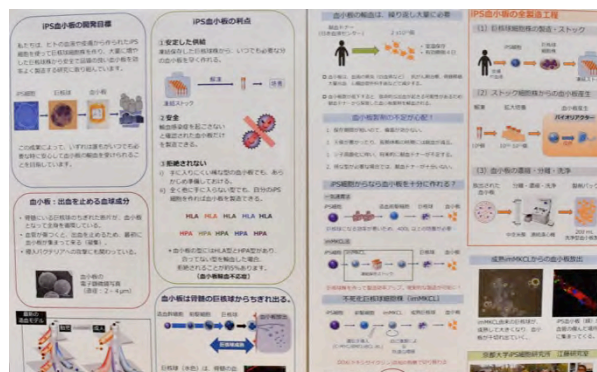
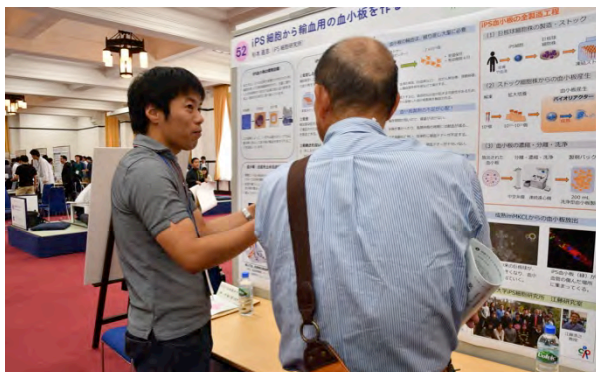
52

iPS 細胞から輸血用の血小板を作る 杉本直志 (iPS 細胞研究所)



これからの研究・発展に期待しています賞

出血を止めてくれる血小板は巨核球細胞から生まれます。しかし輸血用の血小板が将来不足することが懸念されています。そこで私たちは iPS 細胞から無限に増殖する巨核球細胞を作り、輸血に使える安全で高品質な血小板を大量に製造する方法の完成を目指しています。



4-2. ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

53

変幻自在のマイクロミキサー

鈴木基史（大学院工学研究科）



すばらしいで賞

水から溶けている気体を取り除き（脱気）、局所的に加熱することで水蒸気の小さな気泡（マイクロバブル）を発生させ、それを使って非常に急激な攪拌流を発生させることに成功しました。



54

共生進化の実験

等々力政彦（大学院農学研究科）



共に生きる勇気をくれたで賞

異なる生物同士を貧栄養条件で共培養すると、ある種の「対話」が生じ、あたらしい共存関係を構築する場合がある。共生関係が生じる過程を、異民族同士の文化接触変容や言語接触変容などをまじえて紹介する。



55

革新的放射線治療技術の開発と実用化

溝脇尚志（大学院医学研究科）



聞いてみて初めて面白いと思えたで賞

“動体追尾照射”と”Dynamic WaveArc 照射”

体内のがん病巣へ集中して照射し正常組織には最小限の線量で治療する放射線治療の理想を実現する2つの革新的照射技術の開発と実用化への取り組みを紹介します。



56

木の文化を観る

田鶴寿弥子（生存圏研究所）



へえー知らなかった賞

日本人の文化には木材が欠かせません。一緒に木に触れ、日本の木材の見分け方について勉強してみませんか。本出展では、樹種を見分ける方法の現状や課題を紹介するとともに、京大宇治キャンパスに位置する木の博物館的存在「材鑑調査室」についても紹介します。



57

ヒトゲノムの深い理解を目指して

藤本明洋（大学院医学研究科）



プレゼン上手で賞

ヒトゲノムの個人差（多型）、がんゲノムと正常組織のゲノムの違い（変異）の理解は、病気の原因説明のために重要な情報です。しかし、未だに我々の理解は完全ではありません。私たちは、多型や変異の検出とその生物学的意義の研究を行っています。



58

大気汚染物質は何処から来るのだろうか

梶井克純（大学院地球環境学）



予想を超えた賞

大気汚染物質やその発生メカニズムについて、先端的な手法で調べています。特に反応性の高い物質（例えば窒素酸化物や揮発性の有機化合物）について詳しく調べ、それらの物質が太陽の光を受けてどのような化学反応が起こるかを研究しています。オキシダントやPM2.5の発生や制御について研究しています。



59

フロンティア軌道理論；役に立つの？

榊茂好（福井謙一記念研究センター）



学問的に奥深かった賞

福井謙一京大教授（当時）は1981年に日本発のノーベル化学賞を「フロンティア軌道理論」を提案した業績で受賞した。その理論は1952年に提案された。しかし、その理論は現在でも最新の検討課題で重要な役割を果たしていることや基礎の重要性を皆さんに説明する。



60

「これは効く」ってなんだろう？

華井明子（大学院医学研究科）



実機を用いて分かりやすかったで賞

「適度な運動」が健康にいいことはよく知られていますが、何がどう適度なのかは明らかになっていません。「便秘予防には運動が効く」という一見ごく当たり前のようなことを明らかにした研究を紐解きながら、医療の世界で「効く」といわれるまでにはどのようなプロセスがふまれるのか解説します。



※ブース番号3及び46は出展取り止め

4-3. 出展参加者一覧

ブース 番号	代表者 ○	氏名／所属	職名又は学年等
1	○	飯田敦夫／ウイルス・再生医科学研究所	助教
2	○	陰山洋／大学院工学研究科 内本喜晴／大学院人間・環境学研究科 野田泰斗／大学院理学研究科 山本健太郎／大学院人間・環境学研究科 内山智貴／大学院人間・環境学研究科 中本康介／大学院人間・環境学研究科	教授 教授 助教 特定助教 特定研究員 特定研究員
4	○	金光義彦／化学研究所 田原弘量／化学研究所 湯本郷／化学研究所 半田岳人／大学院理学研究科 鎗田直樹／大学院理学研究科	教授 助教 特定研究員 博士課程1年 修士課程2年
5	○	緒方広明／学術情報メディアセンター 莊司慶行／学術情報メディアセンター	教授 特定研究員
6	○	田中功／大学院工学研究科 中出博暁／東京大学 角裕輔／大阪大学 近藤宙世／名古屋大学 香西景太／大学院工学研究科 近藤大介／大学院工学研究科	教授 修士課程1年 修士課程1年 修士課程1年 修士課程1年 修士課程1年
7	○	市川温子／大学院理学研究科 中村和広／大学院理学研究科 中村輝石／神戸大学 田中駿祐／大学院理学研究科 赤塚駿一／大学院理学研究科 森正光／大学院理学研究科 國吉宏一郎／大学院理学研究科 安留健嗣／大学院理学研究科 田島治／大学院理学研究科	准教授 修士課程2年 日本学術振興会特別研究員 PD 博士課程1年 博士課程1年 修士課程2年 修士課程1年 修士課程1年 准教授
8	○	宇高寛子／大学院理学研究科 一方井祐子／滋賀大学 榎戸輝揚／白眉センター（大学院理学研究科） 小野英理／次世代研究創成ユニット	助教 特任講師 特定准教授 リサーチ・アドミニストレーター
9	○	入江一浩／大学院農学研究科 村上一馬／大学院農学研究科 久米利明／大学院薬学研究科	教授 准教授 准教授
10	○	小野輝男／化学研究所 塩田陽一／化学研究所	教授 助教
11	○	藪塚武史／大学院エネルギー科学研究科 屋田智子／大学院エネルギー科学研究科 山本雅也／大学院エネルギー科学研究科 吉岡拓哉／大学院エネルギー科学研究科 渡邊慎／大学院エネルギー科学研究科 隠岐真太郎／工学部	助教 修士課程2年 修士課程2年 修士課程1年 修士課程1年 4年
12	○	内本喜晴／大学院人間・環境学研究科 山本健太郎／大学院人間・環境学研究科 内山智貴／大学院人間・環境学研究科 中本康介／大学院人間・環境学研究科	教授 特定助教 特定研究員 特定研究員

ブース 番号	代表者 ○	氏名／所属	職名又は学年等
13	○	松田道行／大学院生命科学研究科 今城正道／大学院生命科学研究科 寺井健太／大学院生命科学研究科 平島剛志／大学院医学研究科 佐藤慎哉／大学院生命科学研究科 一瀬大志／大学院生命科学研究科 牟田優／大学院医学研究科 日野直也／大学院生命科学研究科 渡部哲也／大学院医学研究科	教授 助教 准教授 講師 CREST 特任助教 研究員 博士課程 4 年 博士課程 1 年 博士課程 1 年
14	○	佐藤文彦／大学院生命科学研究科 浜竜哉／大学院生命科学研究科 西田昇平／大学院生命科学研究科 松井俊樹／大学院生命科学研究科	教授 修士課程 2 年 修士課程 2 年 修士課程 2 年
15	○	村上章／大学院農学研究科 藤澤和謙／大学院農学研究科 岡田紘明／大学院農学研究科 高松亮佑／大学院農学研究科 森田健太郎／大学院農学研究科 古川智大／大学院農学研究科	教授 准教授 修士課程 2 年 修士課程 2 年 修士課程 1 年 修士課程 1 年
16	○	舟川晋也／大学院地球環境学堂 渡邊哲弘／大学院地球環境学堂	教授 助教
17	○	中谷加奈／大学院農学研究科 長谷川祐治／防災研究所 楠田夏子／大学院農学研究科	助教 特任助教 修士課程 2 年
18	○	杉山弘／大学院理学研究科 板東俊和／大学院理学研究科 柏崎玄伍／大学院理学研究科 河本佑介／大学院理学研究科 谷口純一／大学院理学研究科 朝光世煌／大学院理学研究科	教授 准教授 特定研究員 博士課程 3 年 博士課程 3 年 博士課程 2 年
19	○	竹本佳司／大学院薬学研究科 南條毅／大学院薬学研究科 道上健一／大学院薬学研究科	教授 特定研究員 特定研究員
20	○	高井茂臣／大学院エネルギー科学研究科 植松将慶／大学院エネルギー科学研究科 村上正和／大学院エネルギー科学研究科 川端悟史／大学院エネルギー科学研究科 佐野稔文／大学院エネルギー科学研究科 亢健／大学院エネルギー科学研究科 福田光起／大学院エネルギー科学研究科	准教授 修士課程 2 年 修士課程 2 年 修士課程 1 年 修士課程 1 年 修士課程 1 年 修士課程 1 年
21	○	河西瑛里子／人文科学研究所	非常勤研究員
22	○	近藤直／大学院農学研究科 堀内周平／農学部 Dimas Firmanda Al Riza／大学院農学研究科 Nie Sen／大学院農学研究科 Sumon Miah／大学院農学研究科	教授 4 年 博士課程 2 年 博士課程 1 年 修士課程 1 年
23	○	高塚和夫／福井謙一記念研究センター 松岡貴英／福井謙一記念研究センター 山本憲太郎／福井謙一記念研究センター 新崎康樹／福井謙一記念研究センター 松崎黎／福井謙一記念研究センター	リサーチリーダー 研究フェロー 研究フェロー 研究フェロー 日本学術振興会特別研究員 PD

ブース 番号	代表者 ○	氏名／所属	職名又は学年等
24	○	松田直樹／大学院工学研究科 河原康太／大学院工学研究科 山本洋介／大学院工学研究科 野々垣拓／大学院工学研究科	助教 修士課程 2 年 修士課程 2 年 修士課程 1 年
25	○	大本義正／大学院情報学研究科	助教
26	○	中北英一／防災研究所 山口弘誠／防災研究所	教授 准教授
27	○	横山操／大学院農学研究科	研究員
28	○	Daniel Milne／国際高等教育院 伊藤佳世子／国際高等教育院 David Lees／国際高等教育院 Sara Schipper／国際高等教育院 Jennifer Teeter／国際高等教育院	特定講師 准教授 特定講師 特定講師 講師
29	○	井上康博／ウイルス・再生医科学研究所 立尾樹／大学院工学研究科 新田泰大／ウイルス・再生医科学研究所	准教授 修士課程 2 年 オフィスアシスタント
30	○	南英治／大学院エネルギー科学研究科 坂志朗／大学院エネルギー科学研究科 河本晴雄／大学院エネルギー科学研究科 Harifara Rabemanolontsoa／大学院エネルギー科学研究科 高田昌嗣／大学院エネルギー科学研究科	助教 名誉教授・特任教授 准教授 特定助教 研究員
31	○	乾晴行／大学院工学研究科 岸田恭輔／大学院工学研究科 Juan Antonio VEGA FARJE／大学院工学研究科 神原佑季／大学院工学研究科 福山貴義／大学院工学研究科 門田信幸／大学院工学研究科	教授 准教授 博士課程 1 年 修士課程 2 年 修士課程 1 年 修士課程 1 年
32	○	津江広人／大学院人間・環境学研究科 中島瑞貴／大学院人間・環境学研究科	教授 修士課程 1 年
33	○	佐藤恵子／医学部附属病院臨床研究総合センター 鈴木美香／iPS 細胞研究所 木下政人／大学院農学研究科 児玉聡／大学院文学研究科	特任准教授 特定研究員 助教 准教授
34	○	中島幸一／京都府立海洋高等学校 南江優希／京都府立海洋高等学校 上川唯菜／京都府立海洋高等学校 嵯峨根亮太／京都府立海洋高等学校	教諭 3 年 3 年 3 年
35	○ ○	田中庸裕／実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池 元素戦略研究拠点ユニット 田中功／構造材料元素戦略研究拠点ユニット 大石毅一郎／構造材料元素戦略研究拠点ユニット 落合庄治郎／構造材料元素戦略研究拠点ユニット 太田浩二／実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池 元素戦略研究拠点ユニット 細川三郎／実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池 元素戦略研究拠点ユニット 朝倉博行／実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池 元素戦略研究拠点ユニット 吉田寿雄／大学院人間・環境学研究科 山本旭／大学院人間・環境学研究科 大谷裕子／実験と理論計算科学のインタープレイによる触媒・電池	教授 教授 特定准教授 特任教授 特任教授 特定准教授 特定助教 教授 助教 特定研究員

ブース 番号	代表者 ○	氏名／所属	職名又は学年等
		元素戦略研究拠点ユニット	
36	○	秋吉一成／大学院工学研究科 安藤満／ERATO 秋吉バイオナノトランスポータープロジェクト 澤田晋一／ERATO 秋吉バイオナノトランスポータープロジェクト	教授（研究総括） 研究員 助教
37	○	松崎慶一／環境安全保健機構附属健康科学センター	助教
38	○	辻伸泰／大学院工学研究科 BAI YU／大学院工学研究科 HOU FEIFEI／大学院工学研究科 山内聡／大学院工学研究科 岡田和歩／大学院工学研究科 松林領汰／大学院工学研究科 ZHANG YUAN／大学院工学研究科	教授 助教 修士課程 1 年 修士課程 1 年 修士課程 1 年 修士課程 1 年 修士課程 1 年
39	○	積山薫／大学院総合生存学館 鈴木麻希／大学院総合生存学館	教授 特定研究員
40	○	松田素二／大学院文学研究科 市野進一郎／アフリカ地域研究資料センター 松居和子／大学院文学研究科	教授 研究員 教務補佐員
41	○	冨井眞／文化財総合研究センター	助教
42	○	齊藤博英／iPS 細胞研究所 大野博久／iPS 細胞研究所 中西秀之／iPS 細胞研究所 余越萌／iPS 細胞研究所 川崎俊輔／iPS 細胞研究所 弘澤萌／大学院医学研究科 松浦理史／大学院医学研究科 赤峰冴／大学院医学研究科	教授 特定研究員 特定研究員 日本学術振興会特別研究員 PD 特定研究員 博士課程 2 年 博士課程 2 年 修士課程 1 年
43	○	石見拓／環境安全保健機構附属健康科学センター 岸森健文／大学院医学研究科 志田瑤／大学院医学研究科	教授 博士課程 1 年 専門職学位課程 1 年
44	○	山本孟／文学部 森若葉／国士舘大学 山内健二／TIS 株式会社	教務補佐員 研究員 ソフトウェア開発者
45	○	渡部祐司／高大接続科学教育ユニット 橋爪圭／高大接続科学教育ユニット 安岡里都／京都府立洛北高等学校	特定研究員 特定職員 2 年
47	○	土井俊哉／大学院エネルギー科学研究科	教授
48	○	伊佐正／大学院医学研究科 尾上浩隆／大学院医学研究科 山口玲欧奈／大学院医学研究科	教授 特定准教授 特定助教
49	○	北川進／高等研究院 細野暢彦／高等研究院 日下心平／高等研究院 尾本賢一郎／高等研究院	特別教授 特定助教 特定助教 特定研究員
50	○	米田稔／大学院工学研究科	教授
51	○	澄川貴志／大学院工学研究科 上垣慎／大学院工学研究科 金子英一／大学院工学研究科	准教授 修士課程 1 年 修士課程 1 年
52	○	杉本直志／iPS 細胞研究所 中村壮／iPS 細胞研究所 松本拓也／iPS 細胞研究所	特定拠点助教 特命助教 特定研究員

ブース 番号	代表者 ○	氏名／所属	職名又は学年等
		陳思婧／iPS 細胞研究所 鈴木大助／大学院医学研究科	特定研究員 博士課程
53	○	鈴木基史／大学院工学研究科 名村今日子／大学院工学研究科	教授 助教
54	○	等々力政彦／大学院農学研究科	研究員
55	○	溝脇尚志／大学院医学研究科 宮部結城／医学部附属病院 後藤容子／大学院医学研究科 中村清直／大学院医学研究科 平島英明／大学院医学研究科	教授 特定講師 助教 博士課程 4 年 博士課程 3 年
56	○	田鶴寿弥子／生存圏研究所 反町始／生存圏研究所	助教 技術専門職員
57	○	藤本明洋／大学院医学研究科 Wong Jing Hao／大学院医学研究科	特定准教授 特定研究員
58	○	梶井克純／大学院地球環境学堂 坂本陽介／大学院地球環境学堂 河野七瀬／大学院地球環境学堂 中川真秀／大学院地球環境学堂	教授 助教 特定研究員 特定研究員
59	○	神茂好／福井謙一記念研究センター 田中一義／福井謙一記念研究センター	シニアリサーチフェロー（名誉教授） シニアリサーチフェロー（名誉教授）
60	○	華井明子／大学院医学研究科 地家淳史／大学院医学研究科	日本学術振興会特別研究員 DC1 博士課程 3 年

※ブース番号 3 及び 46 は出展取り止め

5. その他

5-1. 出展者向け事前説明会

5-1-1. 概要

2017年9月4日及び7日に学術研究支援棟地下会議室で、京都大学アカデミックデイに参加予定の研究者を対象とした事前説明会を開催しました（参加は任意）。参加研究者の“負担感”を軽減し、事前準備をサポートすることがこの事前説明会の主なねらいでした。

学術研究支援室の白井哲哉 URA より、京都大学アカデミックデイ開催の目的や背景、前回の様子を紹介しました。どのような場で、どのような人たちと対話することになるのかを事前に伝えることで、準備がしやすくなることを狙っています。説明会では学会発表との違いをもとに、専門外の人に自分の研究をわかりやすく伝える方法・対話のコツ・ポスター作りのポイントについてレクチャーしました。



5-2. イベント終了後の学内限定タイム（出展者交流）

5-2-1. 概要

京都大学アカデミックデイ閉幕後、参加研究者同士の交流の場として出展者や出展者の研究室の学生などを対象とした学内限定タイムを設けました。参加研究者同士でポスターを見ながら意見を交わすなど、研究者間の異分野交流の時間となりました。来場者からの投票による「京都大学アカデミックデイ賞」の発表も行われました。



5-3. 広報物

京都大学アカデミックデイのポスターとチラシを作成し、京都市を中心に関西圏の教育関係機関や公共機関等に配布しました。また、京都市バス・地下鉄で広告を掲載しました。

5-3-1. ポスター (A2 サイズ)

研究について、研究者と語り合いませんか？
Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?

Kyoto University
Academic Day 2017

京都大学
アカデミックデイ
2017

開催日時
2017年9月30日(土) 10:00-16:00
※但し、一部プログラムについては17:00まで実施

会場 京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館

参加費 無料(申込み不要)

Date: 10 am - 16 pm, 30 September, Saturday, 2017
Venue: Kyoto University Clock Tower Centennial Hall
No charge/No registration required

PROGRAM

 **研究者と立ち話** Casual Chat with Researchers
10:00-16:00 ※ガイドツアーあり(随時開催)
約200人の多様な京都大学研究者による研究紹介です。ポスターの前にいる研究者に話しかけてください。
Guided tours will be organized between 10am and 15:30pm to explore posters. Please come talk with our researchers standing in front of their posters. They will directly explain what they are studying about.

 **ちゃぶ台囲んで膝詰め対話**
Round-table Conversations with Researchers
10:30-12:00/13:30-15:00
ひとつのテーブルを囲んで研究にまつわるあんな話、こんな話、お茶の間気分で、ほっこりお話ししましょう。
You can sit around a tea table with our researchers and enjoy free conversations to know what is going on behind their research.

 **お茶を片手に座談会**
Tea-time Dialogues with Researchers
13:30-15:30
研究者の本音、メディアの事情、市民の視線 ~科学記事をめぐる3層編纂~
Researcher's True Feeling, Media's Public Standard, and Civilian Gaze
—Three Perspectives toward Science Journalism

 **研究者の本棚** Bookshelves of Researchers
10:00-17:00
京都大学研究者のオススメの本を紹介・展示しています。本以外にも、映像を紹介した研究者ミニトークも予定。本や映像を介して、研究者と対話してみませんか？
What inspired our researchers? Explore their recommended books displayed with their personal reviews and short movies.
11:00-12:00
「Cubic Earth もしも地球が立方体だったら」/ 彦井勉(人間・環境学研究院 教授)
11:00-12:00 「Cubic Earth ~If the Earth was Cubic?」/ Satoshi Sakai, Professor, Graduate School of Human and Environmental Studies

主催 京都大学(学術研究推進課、研究推進部研究推進課、学術・技術対話、ワーキンググループ)
後援 京都大学全学共同研究会、京都府教育委員会、大阪府教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会

Organizers: Research Administration Office, Research Promotion Department, and Working Group for "Dialogue on Science and Technology With the Public" at Kyoto University
Supported by: Kyoto University C-CIP, Kyoto Prefectural Board of Education, Osaka Prefectural Board of Education, Nara Prefectural Board of Education, and Shiga Prefectural Board of Education

一番大事なことは好奇心。
疑問をそのままにしないで、
それを大切にすること。——赤崎勇(京都大学昭和二十七年卒業)

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>



■ 5-3-2. チラシ (A4 サイズ)

● オモテ面 (6 種類)

研究について、研究者と語り合いませんか？
Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?

京都大学
アカデミックデイ
2017

Kyoto University
Academic Day 2017

開催日時
2017年9月30日(土) 10:00-16:00
※但し、一部プログラムについては17:00まで実施

会場 京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館

参加費 無料(申込み不要)

Date: 10 am - 16 pm, 30 September, Saturday, 2017
Venue: Kyoto University Clock Tower Centennial Hall
No charge/No registration required

主催 — 京都大学(学術研究支援室、研究推進部研究推進課、
「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ)
後援 — 京都大学学生生活共同組合、京都府教育委員会、大阪府教育委員会、
奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会

Organizers: Research Administration Office, Research Promotion Department, and
Working Group for "Dialogue on Science and Technology With the Public"
at Kyoto University
Supported by: Kyoto University CO-OP, Kyoto Prefectural Board of Education,
Osaka Prefectural Board of Education, Nara Prefectural Board of Education,
and Shiga Prefectural Board of Education

国民との科学・技術対話
Kyoto University

それぞれのテーマに
日々取り組む
約200人の研究者が
参加します。
About 200 researchers
will join the event
to introduce
different topics
they are working on.

一日生きることは、
一日進むことでありたい。

— 湯川秀樹 (京都帝国大学昭和四年卒業) —

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>





研究について、研究者と語り合いませんか？

Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?

Kyoto University
Academic Day 2017
京都大学
アカデミックデイ
2017

開催日時

2017年9月30日(土) 10:00-16:00

※但し、一部プログラムについては17:00まで実施

会場 京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館

参加費 無料(申込み不要)

Date: 10 am - 16 pm, 30 September, Saturday, 2017

Venue: Kyoto University Clock Tower Centennial Hall

No charge/No registration required

主催 — 京都大学(学術研究支援室、研究推進部研究推進課、
「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ)

後援 — 京都大学学生生活共同組合、京都府教育委員会、大阪府教育委員会、
奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会

Organizers: Research Administration Office, Research Promotion Department, and
Working Group for "Dialogue on Science and Technology With the Public"
at Kyoto University

Supported by: Kyoto University CO-OP, Kyoto Prefectural Board of Education,
Osaka Prefectural Board of Education, Nara Prefectural Board of Education,
and Shiga Prefectural Board of Education



国民との科学・技術対話
Kyoto University

それぞれのテーマに
日々取り組む
約200人の研究者が
参加します。

About 200 researchers
will join the event
to introduce
different topics
they are working on.

一番大事なことは好奇心。
疑問をそのままにしないで、
それを大切にする。こと。——赤崎勇(京都大学昭和二十七年卒業)

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>



研究について、研究者と語り合いませんか？

Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?

Kyoto University Academic Day 2017 京都大学 アカデミックデイ 2017

開催日時

2017年9月30日(土) 10:00-16:00

※但し、一部プログラムについては17:00まで実施

会場 京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館

参加費 無料(申込み不要)

Date: 10 am – 16 pm, 30 September, Saturday, 2017

Venue: Kyoto University Clock Tower Centennial Hall

No charge/No registration required

主催—— 京都大学(学術研究支援室、研究推進部研究推進課、
「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ)

後援—— 京都大学生活共同組合、京都府教育委員会、大阪府教育委員会、
奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会

Organizers: Research Administration Office, Research Promotion Department, and
Working Group for "Dialogue on Science and Technology With the Public"
at Kyoto University

Supported by: Kyoto University CO-OP, Kyoto Prefectural Board of Education,
Osaka Prefectural Board of Education, Nara Prefectural Board of Education,
and Shiga Prefectural Board of Education



国民との科学・技術対話
Kyoto University

それぞれのテーマに
日々取り組む
約200人の研究者が
参加します。

About 200 researchers
will join the event
to introduce
different topics
they are working on.

あるきながら本をよみ、
よみながらかんがえ、
かんがえながらあるく。

—— 梅棹忠夫 (京都帝国大学昭和十八年卒業)



<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

研究について、研究者と語り合いませんか？

Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?

Kyoto University
Academic Day 2017
京都大学
アカデミックデイ
2017

開催日時

2017年9月30日(土) 10:00-16:00

※但し、一部プログラムについては17:00まで実施

会場 京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館

参加費 無料(申込み不要)

Date: 10 am - 16 pm, 30 September, Saturday, 2017

Venue: Kyoto University Clock Tower Centennial Hall

No charge/No registration required

主催 —— 京都大学(学術研究支援室、研究推進部研究推進課、
「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ)

後援 —— 京都大学学生生活共同組合、京都府教育委員会、大阪府教育委員会、
奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会

Organizers: Research Administration Office, Research Promotion Department, and
Working Group for "Dialogue on Science and Technology With the Public"
at Kyoto University

Supported by: Kyoto University CO-OP, Kyoto Prefectural Board of Education,
Osaka Prefectural Board of Education, Nara Prefectural Board of Education,
and Shiga Prefectural Board of Education



国民との科学・技術対話
Kyoto University

それぞれのテーマに
日々取り組む
約200人の研究者が
参加します。

About 200 researchers
will join the event
to introduce
different topics
they are working on.

じっとしていても
ロマンは絶対にやってこない。

—— 益川敏英 (京都大学基礎物理学研究所所長(平成九年・十五年))

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>



研究について、研究者と語り合いませんか？

Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?



国民との科学・技術対話
Kyoto University

それぞれのテーマに
日々取り組む
約200人の研究者が
参加します。

About 200 researchers
will join the event
to introduce
different topics
they are working on.

Kyoto University Academic Day 2017 京都大学 アカデミックデイ 2017

開催日時

2017年9月30日(土) 10:00-16:00

※但し、一部プログラムについては17:00まで実施

会場 京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館

参加費 無料(申込み不要)

Date: 10 am – 16 pm, 30 September, Saturday, 2017

Venue: Kyoto University Clock Tower Centennial Hall

No charge/No registration required

主催 — 京都大学(学術研究支援室、研究推進部研究推進課、

「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ)

後援 — 京大大学生生活共同組合、京都府教育委員会、大阪府教育委員会、
奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会

Organizers: Research Administration Office, Research Promotion Department, and
Working Group for "Dialogue on Science and Technology With the Public"
at Kyoto University

Supported by: Kyoto University CO-OP, Kyoto Prefectural Board of Education,
Osaka Prefectural Board of Education, Nara Prefectural Board of Education,
and Shiga Prefectural Board of Education

自分を本当に
納得させることができれば、
人を納得させることは簡単である。

—— 利根川進 (京都大学昭和三十八年卒業)

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>



研究について、研究者と語り合いませんか？

Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?



国民との科学・技術対話
Kyoto University

それぞれのテーマに
日々取り組む
約200人の研究者が
参加します。

About 200 researchers
will join the event
to introduce
different topics
they are working on.

Kyoto University Academic Day 2017 京都大学 アカデミックデイ 2017

開催日時

2017年9月30日(土) 10:00-16:00

※但し、一部プログラムについては17:00まで実施

会場 京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館

参加費 無料(申込み不要)

Date: 10 am – 16 pm, 30 September, Saturday, 2017

Venue: Kyoto University Clock Tower Centennial Hall

No charge/No registration required

主催 — 京都大学(学術研究支援室、研究推進部研究推進課、
「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ)

後援 — 京都大学生生活共同組合、京都府教育委員会、大阪府教育委員会、
奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会

Organizers: Research Administration Office, Research Promotion Department, and
Working Group for "Dialogue on Science and Technology With the Public"
at Kyoto University

Supported by: Kyoto University CO-OP, Kyoto Prefectural Board of Education,
Osaka Prefectural Board of Education, Nara Prefectural Board of Education,
and Shiga Prefectural Board of Education

数学は必ず
発見の前行き詰まるのです。
行き詰まるから発見するのです。

岡潔 (京都帝国大学大正十四年卒業)



<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

（出展研究者・テーマ詳細公開中）

京都大学アカデミックデイ 2017

PROGRAM



研究者と立ち話 Casual Chat with Researchers

10:00-16:00 ※ガイドツアーあり（随時開催）

50件

約200人の多様な京都大学研究者による研究紹介です。ポスターの前にいる研究者に話しかけてみてください。

Guided tours will be organized between 10am and 15:30pm to explore posters. Please come talk with our researchers standing in front of their posters. They will directly explain what they are studying about.



ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

Round-table Conversations with Researchers

10:30-12:00 | 13:30-15:00

8件

ひとつのテーブルを囲んで研究にまつわるあんな話、こんな話。お茶の間気分で、ほっこりお話ししましょう。

You can sit around a tea table with our researchers and enjoy free conversations to know what is going on behind their research.



お茶を片手に座談会 Tea-time Dialogues with Researchers

13:30-15:30

研究者の本音、メディアの事情、市民の視線 ～科学記事をめぐる三者協議～
Researcher's True Feeling, Media's Public Standard, and Civilian Gaze
—Three Perspectives toward Science Journalism

研究による知が市民に届く過程を、研究者、市民、情報編集者の視点で議論します。研究者が生み出す知が社会に浸透していく上で存在するハードルや3者の立場の違いを明らかにすることで、発信者、受信者、媒介者が知の共有化を推し進めるきっかけを目指します。

Three panelists will discuss the processes in scientific knowledge is delivered to the civil society from scientific, journalistic, and civilian perspectives. What can be done to share scientific knowledge among its producers, disseminators, and consumers? The discussion will focus on difficulties in disseminating scientific knowledge into societies, and identify differences among the three perspectives toward what constitutes scientific knowledge.

登壇者

引野肇（高エネルギー加速器研究機構 広報室長）
詫摩雅子（科学ライター）
松尾浩道（京都新聞社 報道部 科学・大学担当記者）
飯田敦夫（京都大学ウイルス・再生医科学研究所 助教） 他



研究者の本棚 Bookshelves of Researchers

10:00-17:00

京都大学研究者のオススメの本を紹介・展示しています。本の他にも、映像を介した研究者ミニトークも予定。本や映像を介して、研究者と対話してみませんか？
What inspired our researchers? Explore their recommended books displayed with their personal reviews and short movies.

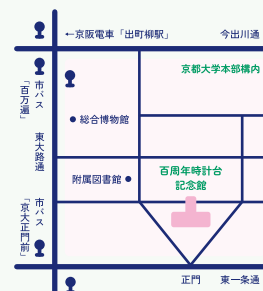
11:00-12:00

「Cubic Earth もしも地球が立方体だったら」酒井敏（人間・環境学研究所 教授）
11:00-12:00 「Cubic Earth ～If the Earth was Cubic?」Satoshi Sakai, Professor,
Graduate School of Human and Environmental Studies



研究について、研究者と語り合いませんか？
Do you want to talk with our researchers and know what they are studying about?

京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館
アクセス：市バス「京大正門前」から
東一条道を東に5分



お問い合わせ先 Contact Information: :
京都大学研究推進部
「国民との科学・技術対話」担当
Research Promotion Department, Kyoto University
Tel: 075-753-5659
E-mail: kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



■ 5-3-3. ウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)

本年度もウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) を利用して「京都大学アカデミックデイ 2017」告知と集客を行いました。

● 学術研究支援室ウェブサイト

研究者と高校生・高専生グループ出展募集のほか、開催案内を「イベント案内」で告知しました。

- 出展研究者募集案内 : <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/92>
- 出展高校生・高専生グループ募集案内 : <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/94>
- 開催案内 : <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/101>

● 京都大学「研究大学強化促進事業（文部科学省）」ウェブサイト (K. U. RESEARCH)

京都大学アカデミックデイ専用ページを設置し、トップにハッシュタグ「#京大アカデイ 2017」がついたコメント等が流れるように設定しました。

● 京都大学アカデミックデイウェブサイト

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/>

また、出展研究についても、個別ページを作成しました。

<http://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/2017/>

SNS は、Twitter の京都大学アカデミックデイ公式アカウントと、Facebook の K. U. RESEARCH アカウントです。開催日前日までは開催情報や出展情報などを告知し、開催日当日は主に Twitter を使って会場の様子を伝えました。

● 京都大学アカデミックデイ公式 (@KyodaiAcaDay) Twitter

<https://twitter.com/KyodaiAcaDay/>

Twitter では、ハッシュタグ「#京大アカデイ 2017」を活用し、様々な情報を発信しました。「研究者と立ち話」や「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、「お茶を片手に座談会」の詳細を、各研究の詳細ページと一緒に紹介しました。

● 京都大学「研究大学強化促進事業（文部科学省）」(K. U. RESEARCH) Facebook

<https://www.facebook.com/k.u.research>

イベントページを設置したほか、ポスターやチラシの PDF 掲載、京都大学アカデミックデイ専用ページの情報等を掲載しました。また、Facebook でもハッシュタグ「#京大アカデイ 2017」を活用しました。

● 京都大学 学術研究支援室 (KURA Office) Facebook

<https://www.facebook.com/kuraoffice/>

学術研究支援室のアカウントでも、説明会開催の様子や開催レポートを掲載しました。

・上記 2 つの Facebook で流した内容ならびにリーチ数は以下の通り

投稿日	内容	リーチ	シェア・クリック等
2017 年 9 月 7 日	アカデミックデイ出展者説明会開催	1073	77
2017 年 9 月 11 日	イベント開催告知	317	38
2017 年 9 月 12 日	チラシを探せ！	3668	118
2017 年 10 月 12 日	開催レポート	840	129

6. 支援体制・準備スケジュール

6-1. 支援体制

京都大学アカデミックデイは、京都大学による「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。支援体制は以下の通りです。

「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ委員

工藤洋	生態学研究センター	教授
楠見孝	大学院教育学研究科	教授
松田道行	大学院生命科学研究科	教授
喜多一	国際高等教育院	教授
藤原辰史	人文科学研究所	准教授
磯部洋明	大学院総合生存学館	准教授
塩瀬隆之	総合博物館	准教授
元木環	情報環境機構／学術情報メディアセンター	助教
野田稔貴	総務部渉外課	課長
廣中理絵	総務部広報課	課長
林史晃	研究推進部研究推進課	課長
佐治英郎	学術研究支援室	室長

URAネットワーク

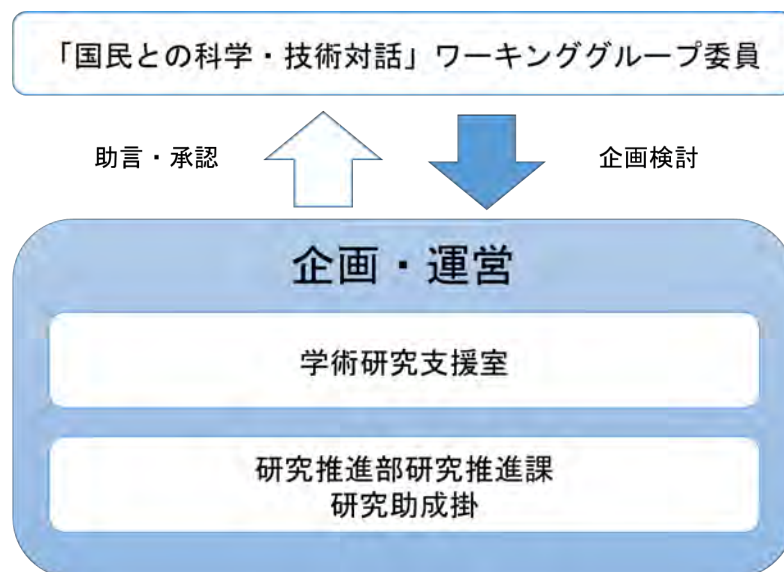
大西将徳	学術研究支援室	URA
笠原のりこ	学術研究支援室	URA
神谷俊郎	学術研究支援室	URA
斎藤万里絵	学術研究支援室	URA
白井哲哉	学術研究支援室	URA
仲野安紗	学術研究支援室	URA

研究推進部研究推進課

山下絵理子	研究助成掛
永井麗子	研究助成掛
巴山涼子	研究助成掛
中村順子	研究助成掛
時武広美	研究助成掛

6-2. スタッフリスト

企画	学術研究支援室 研究推進部研究推進課
デザイン（広報・サイン）	今泉真緒（株式会社ダズ） 仲村健太郎
学生スタッフ	有限会社関西教育考学： 宮垣亮汰（大学院工学研究科 修士課程 2 年） 伊左治俊策（大学院農学研究科 修士課程 1 年） 榎本啄杜（大学院人間・環境学研究科 修士課程 1 年） 由田拓真（大学院文学研究科 修士課程 1 年） 清水亮佑（法学部 4 年） 江谷友梨（教育学部 3 年） 山口雄也（工学部 2 年） 村田政弥（大学院工学研究科 修士課程 1 年） 後藤慶太（理学部 4 年） 岩城帆乃花（教育学部 3 年） 北村一将（経済学部 3 年） 佐橋功一（工学部 3 年） 嶋田侑治（農学部 3 年） 新田莉菜（医学部 2 年） 水野ひなの（農学部 2 年）
写真撮影	大森貴生
監修	「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ



6-3. 準備スケジュール

2016 年	5 月	会場予約（百周年時計台記念館）
2017 年	5 月 中旬	ミーティング（開催趣旨・経緯・業務分担確認）
		ミーティング（ワーキング開催検討・スケジュール確認）
		会場設営・託児業者連絡（日程確保） オープンキャンパス連携打合せ
	下旬	ミーティング（予算・業務分担確認）（ワーキングの日程確認、出展募集・申込スキーム確認）
		ワーキング開催（京都大学アカデミックデイ 2017 の進捗確認・方針決定）
		京都府教育庁訪問（京都府下高校への周知依頼）
	6 月 上旬	ミーティング（座談会内容検討）
		出展者募集チラシ作成
		ウェブサイト・SNS 公募情報アップ 参加研究者募集
	中旬	参加高校生・高専生グループ募集
		チラシ・ポスターデザイナー打合せ、作成開始
		後援依頼（教育委員会）
	下旬	ミーティング（チラシ・ポスタースケジュール確認、座談会内容検討）
	7 月 上旬	ミーティング（チラシ内容検討、座談会進捗確認、出展者応募状況確認）
		生協連携打合せ
	中旬	参加研究者募集締切
		附属図書館連携打合せ
		チラシ・ポスター納品
	下旬	ミーティング（参加研究者決定、参加高校生・高専生グループ募集の進捗確認・ノベルティ検討）
		チラシ・ポスター納品・発送
		参加研究者へ出展申込書送付 参加高校生・高専生グループ募集締切・審査・出展申込書送付
	8 月 上旬	ミーティング（出展申込状況・事前説明会確認、配置・最終案内検討）
		座談会登壇依頼
		参加研究者・参加高校生・高専生グループ出展申込書とりまとめ、ブース番号検討 ブックリスト作成開始 京都大学アカデミックデイ WEB 入力開始
	中旬	学生バイト募集開始
		会場サイン・当日プログラムデザイナー打合せ・作成開始
	下旬	ミーティング（各企画進捗確認）
	9 月 上旬	ミーティング（進捗最終確認）
		出展者事前説明会開催
		ブックリスト完成 京都大学アカデミックデイ WEB 入力完了
	26 日	中吊り広告掲示開始～29 日（地下鉄・市バス）
		ノベルティ納品
	27 日	パンフレット・会場サイン納品
	29 日	前日設営準備
	30 日	京都大学アカデミックデイ 2017

6-4. デザイン・制作物スケジュール

		出展募集チラシ	ノベルティ	開催チラシ ・ ポスター	会場配置案 ・ 会場サイン ・ 当日プログラム	来場者アンケート
2017 年	5 月 下旬	作成 ↓				
	6 月 初旬	納品				
	下旬			作成 ↓		
	7 月 月上旬					
	中旬					
	下旬		検討開始 ↓	入稿・印刷 (外部発注) 納品		
	8 月 月上旬					
	中旬					
	下旬				作成 ↓	
	9 月 月上旬					
	中旬		外部発注 ↓			
	下旬		納品		入稿・印刷 (外部発注) 納品	作成・納品

京都大学アカデミックデイ2017



『研究者の本棚』 ブックリスト



項目説明

ブックリストとは・・・京都大学研究者のオススの本を紹介します。

※一部を除き、紹介した本は「研究者の本棚」で展示しています。

ブース番号 出展者のブース番号

出展区分 「研究者と立ち話(ポスター／展示)」
「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」
「お茶を片手に座談会」

所属・職名・氏名 出展代表者の所属・職名・氏名

出展タイトル 出展研究者の出展タイトル

ジャンル ※今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本
※今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)
※若者にお勧めしたい本
※自分の研究に関連して紹介したい本の4つから選択していただきました。

書名／著者名／出版社名 オススする本の書名／著者名／出版社名

推薦理由、コメント、エピソード等 オススする理由、コメントなど

『書名』の横の★★ 『研究者の本棚』コーナーに展示あり



ブース番号	出展区分	出展代表者	出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
5	研究者と立ち話(ポスター／展示)	学術情報メディアセンター教授 緒方広明	教育・学習支援のためのデータ分析	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『星を継ぐもの』★★ ジェイムズ・P・ホーガン 東京創元社	サイエンス・フィクションの古典的名作に数えられる1冊ですが、個人的には「フィクション・サイエンス」だと思って読んでいます。 人類の起源をめぐる架空の調査をテーマに、研究とは、学問とは何かを掘り下げます。 研究ってなんだろう、大学に進学しようかどうかどうしようか、と進路に迷っている人におすすめです。
				今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)	『働きたくないイタチと言葉がわかるロボット:人工知能から考える「人と言葉」』★★ 川添愛 朝日出版社	猫も杓子もAIブームな昨今ですが、現状のAIに本質的に何ができて何ができないのか、AIにとって理解とは何なのかを正しく説明できる人は多くありません。 この本は寓話形式で、AIの現状や仕組み、代表的なアルゴリズムを紹介しています。 「いつか機械が反乱を起こすに違いない」とAIを極度に恐れている人や「我が社もAIで問題解決だ」と息巻いている人たちに、正しく冷水をぶっかけるために、ぜひ読んでみてください。
				若者にお勧めしたい本	『ゼロからトースターを作ってみた結果』★★ トーマス・トウェイツ 新潮社	いま身近にあるすべての便利な道具たちは、これまでにたくさんの人たちが改良に改良を重ねてきた結果、ようやく存在できているものばかりです。 最も原始的な家電の一つであるトースターすら、仕組みをよく知っていたとしても、ゼロから作ろうと思うとかなり困難です。 全能感とやる気に溢れた若い人、「なろう小説」が好きな人にぜひ読んでもらいたい一冊です。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『AIの遺電子』★★ 山田胡瓜 秋田書店	週刊少年チャンピオンに連載されている漫画作品です。 コンピュータや人工知能が当たり前のように生活に入り込みつつある現代を考えるきっかけとして、是非読んでみてください。 小難しい話は抜きにして、普通に漫画としても面白いのです。
7	研究者と立ち話(ポスター／展示)	大学院理学研究科准教授 市川温子	素粒子ってなんだろう？	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『燃えつきた反宇宙』 広瀬立成 ナツメ社	高校生のときに人生で初めて出会った素粒子の本。 素粒子の不思議な世界に引き込まれ、より深く素粒子のことを知りたいと思うようになった。
				今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)	『古寺巡礼』★★ 和辻哲郎 岩波書店	大正時代に書かれた京都・奈良の古寺に関する印象記。 和辻氏の知識量にはただただ圧倒される。 昨年は週末を使ってこの本に登場するお寺にいくつか訪れた。 平日は実験で人工的に作られた数ナノ秒という時間の信号を扱っているのに対して、週末訪れたお寺には同じく人間によって作られた千年以上前の人工物が鎮座しているということがとても印象的だった。
				若者にお勧めしたい本	『どくとるマンボウ青春記』★★ 北杜夫 新潮社	北杜夫氏の旧制高校時代から大学にかけてを綴ったエッセイ。 大学2年の春休みに読んで、この本からは人生観にかなり強く影響を受けた。 この本は、青年期の悩みに対する一つの答えを与えてくれたように思う。 悩み多きうら若き皆さまにはぜひ。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『解析力学・量子論』★★ 須藤靖 東京大学出版会	物理学の基礎である解析力学と量子力学の参考書。 参考書という形を成しているが、著者の科学に対する思いや姿勢などが随所に記されており面白い。 物理学を学んだことのない人でも、前書きと後書きは為になることが書かれていると思う。
8	研究者と立ち話(ポスター／展示)	大学院理学研究科助教 宇高寛子	ナメクジとあなたで始める新しい科学	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『オープンサイエンス革命』★★ マイケル・ニールセン 紀伊國屋書店	インターネットの登場により、現在の科学が大きな転換点を迎えていることを理解しました。 これからの科学者は大なり小なりこの変化の影響を受けることでしょう。
				若者にお勧めしたい本	『ほしじいたけ ほしばあたけ』★★ 石川基子 講談社	主役はキノコ。 しかも、干しいたけ！ 絵本ですが、子供だけでなくキノコ好き、料理好きの大人が読んで、新しい発想を得た心持になる一冊です。

ブ ス 番 号	出 展 区 分	出展代表者	出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
8	研究者と立ち話(ポスター／展示)	大学院理学研究科 助教 宇高寛子	ナメクジとあなたで始める新しい科学	若者にお勧めしたい本	『フィンチの嘴：ガラパゴスで起きている種の変貌』★★ ジョナサン・ワイナー 早川書房	生きものの進化を研究するとはどういうことなのか。フィンチの嘴を例に、大きな発見が地道な努力の積み重ねであることを教えてください。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『ゾウの時間 ネズミの時間：サイズの生物学』★★ 本川達雄 中央公論新社	シンプルな物理の視点で生物を見直してみた名著。科学の視点で世界を見るとはどういうことなのかの一端を垣間見ることができる。
9	研究者と立ち話(ポスター／展示)	大学院農学研究科 教授 入江一浩	アミロイドβの構造解析と診断への応用	自分の研究に関連して紹介したい本	『認知症：発症前治療のために解明すべき分子病態は何か?』★★ 森啓 編 羊土社	アルツハイマー病の発症前治療のために解明すべき分子病態について、最新の研究成果を交えてわかりやすく解説されている。
11	研究者と立ち話(ポスター／展示)	大学院エネルギー科学研究科 助教 藪塚武史	次世代の医療を支えるアパタイトの科学	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『医学生』★★ 南木佳士 文藝春秋	著者が秋田大学医学部で実際に医学生だったころをモチーフにして書いたとされる名作中の名作。今にして思えば、本書が医学のお手伝いをする「生体材料学」という分野を志すきっかけの一つだったように思います。エリート養成機関が舞台の話にしては実に泥臭く、切ないエピソードが満載です。人の命をあずかる仕事に就くことの大変さが、内臓をえぐられるかのようなリアルな筆致で描かれています。
				今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)	『ユリイカ 2017年7月号 特集=加藤一二三 一棋士という人生』★★ 加藤一二三、羽生善治、森内俊之、佐藤康光、先崎学、糸谷哲郎 青土社	先日現役を引退された加藤一二三九段は「ひふみん」の愛称で親しまれていますが、実はそんな呼び方をするのが畏れ多いほどの物凄い業績を残した大人物です。歴代3位の通算勝数(1324勝)、14歳で四段昇段も離れ業ですが、通算黒星1108敗、18歳でA級八段は、今後もこれを超える記録は出てこないかもしれません。棒銀一筋、うな重一筋の大棋士の足跡を、将棋界のスーパースター達が語り尽くす永久保存版の一冊。
				今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)	『キミは何のために勉強するのか〜試験勉強という名の知的冒険2〜』★★ 富田一彦 大和書房	群馬県出身の私は、高校卒業後、今はなき代々木ゼミナール高崎校に通っていました。当時はサテラインという衛星中継で代々木本校の授業をリアルタイムで受けておりましたが、そのときに富田先生の英語の授業も受講しておりました(が、あまりついていけてなかった)。著者の前作「試験勉強という名の知的冒険」も面白いです。
				今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)	『この世界を知るための人類と科学の400万年史』★★ レナード・ムロディナウ 河出書房新社	私たちの日常生活は、偉大な先人たちが築きあげた諸々の科学法則を土台として成り立っています。しかし、それらはどうやらほんの一部の天才が超人的なひらめきで魔法のように探り当てたものばかりではないようです(我々から見ればほとんどそう映るのも事実ですが)。科学法則の発見の裏には、人間ドラマや当時の社会情勢が大きく影響していることを本書は気付かせてくれます。
				若者にお勧めしたい本	『完全図解周期表：周期表と全118元素を徹底解説：日本初の命名!新元素「ニホニウム」』★★ ニュートンプレス	近年話題の新元素「ニホニウム」も掲載されている、おそらくこの手の本では現在最新の書。本書は化学の基本からそれぞれの元素の特徴、化学物質と日常生活とのかかわりについて、膨大な数のイラストを用いてわかりやすく答えてくれます。本書に限らず、写真入りの化学書は実に楽しく、社会人の方や受験生だけでなく、小中学生の皆さんにもおすすめです。
				若者にお勧めしたい本	『介護士からプロ棋士へ：大器じゃないけど、晩成しました』★★ 今泉健司 講談社	社会人出身の棋士・今泉健司四段の自叙伝。生き馬の目を抜く奨励会で二度も挫折を味わい、職を転々とし、41歳でついに花を咲かせた今泉四段の半生を綴ったこの本に、私は元気をもらっています。その後、今泉四段は規程の成績を挙げ、今期より順位戦(名人戦の予選)の舞台で活躍しています。ちなみに今泉四段の現在の師匠は、株主優待で有名なあの桐谷広人七段です。

ブ ー ス 番 号	出 展 区 分	出展代表者	出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
11	研究者 と立ち 話(ポス ター／ 展示)	大学院エネルギー 科学研究科 助教 藪塚武史	次世代の医 療を支えるア パタイトの科 学	自分の研究 に関連して 紹介したい 本	『新版 ヴィジュアルでわかるバイオ マテリアル』★★ 古菌勉、岡田正弘 学研メディカル秀潤社	著者の古園勉先生(近畿大)と岡田正弘先生(岡山大) は、両氏ともセラミックスが専門ですが、本書の内容は多 岐にわたり、プラスチック系生体材料、セラミックス系生体 材料、金属系生体材料のほぼすべてがカバーされていま す。 実際の医療現場で使用されている生体材料が写真入りで 数多く紹介されています。 お医者さんがどのような道具を使って我々の身体を治し てくれているのかを知ることができます。
					『人類を変えた素晴らしい10の材料： その内なる宇宙を探検する』★★ マーク・ミーオドヴニク インターシフト	医療、情報、電気、食生活、交通、…私たちは普段何の 疑問もなく最新の科学技術を楽しみながら日常生活を 送っていますが、それらを根幹で支えてくれているのが 「材料」の技術です。 本書では鋼鉄、ガラス、紙、プラスチックなど、陰ながら私 たちの生活を支えている10の材料にまつわるエピソードが まとめられています。 なお第10章では、高齢者の生活を支援するインプラントに ついて語られています。
					『新素材を生み出す「機能性化学」が わかる』★★ 齋藤勝裕 ベレ出版	化学を身の回りにある「素材」という視点から説き、近年ど のような新物質が目ざされているのか、われわれの生活 にどのように活かされようとしているのか、分かりやすく 解説されています。 第3章では生体材料についての紹介もされています。 文章も分かりやすいのでおすすめです。
13	研究者 と立ち 話(ポス ター／ 展示)	大学院生命科学研 究科 教授 松田道行	光で探る生 命の原理	若者にお勧 めしたい本	『おもしろくても理科』★★ 清水義範、西原理恵子 講談社	特に理科が苦手だという人におすすめな本。 難解な表現を使わず、絶妙なイラストを楽しみながら読み 進めるうちに、理科嫌いが治ってしまうという一冊。
				自分の研究 に関連して 紹介したい 本	『光るクラゲがノーベル賞をとった理 由：蛍光タンパク質GFPの発見物語』 生化学若手研究者の会 編 日本評論社	光るタンパク質、GFPの発見から、生命科学研究への応 用までが、やさしく解説されている。 最新の科学研究により、生命現象がどのようにして“見え る”ようになったのかの分かる良書。
17	研究者 と立ち 話(ポス ター／ 展示)	大学院農学研究科 助教 中谷加奈	土石流が発 生した時に 危険な場所 は？	若者にお勧 めしたい本	『わかりやすい砂防技術』 水山高久 全国治水砂防協会	砂防分野における現状と課題をわかりやすく考察した本 です。 土砂災害や砂防の研究者や実務者を対象にした本です が、普段当たり前のよう報道されている砂防ダムの効果 や機能、森林による土砂災害防止効果などの実態を砂 防に携わってきた研究者の視点から記しています。 土砂災害や防災を深く考えるための一冊として若い方に 読んで頂ければと思います。
				自分の研究 に関連して 紹介したい 本	『土砂災害と防災教育：命を守る判 断・行動・備え』★★ 檜垣大助 他 編 朝倉書店	土砂災害や防災教育について、図や写真を多く用いて専 門家が多様な視点から紹介しています。 実験による現象の理解やシミュレーションを用いた影響範 囲の把握、効果的な地域防災活動のための日ごろからの 備えや取り組み(地域住民が作成するハザードマップ)な ど幅広い内容が記載されており、防災を考えるきっかけに なる一冊かと思います。
18	研究者 と立ち 話(ポス ター／ 展示)	大学院理学研究科 教授 杉山弘	人工遺伝子 スイッチでがんを治す	若者にお勧 めしたい本	『有機化学要論：生命科学を理解す るための基礎概念』★★ 入江一浩、津江広人 編著 学術図書出版社	高校生から大学生向けの本である。 有機化学に馴染みのない学生に対して、有機化学を初心 者向けに幅広く書かれた教科書的な入門書として推薦し たい。
				自分の研究 に関連して 紹介したい 本	『基礎ケミカルバイオロジー』 杉山 弘、板東俊和 化学同人	「化学を基盤とした生物学」をコンセプトに、ケミカルバイ オロジーの基礎をまとめた入門書である。有機化学と細胞 生物学をつなぐための化学的知識を解説している。
19	研究者 と立ち 話(ポス ター／ 展示)	大学院薬学研究科 教授 竹本佳司	くすりを組み 立てる分子 “触媒”の研 究	若者にお勧 めしたい本	『くすりをつくる研究者の仕事：薬のタ ネ探しから私たちに届くまで』★★ 京都大学大学院薬学研究科 編 化学同人	我々が日ごろお世話になっているクスリが、どのようなプ ロセスを経て発見され開発されてゆくのかを知ることがで きる書籍です。 特に医薬品の種を発見するアカデミア研究の醍醐味や苦 労話などを紹介しています。 この一冊で薬の世界がざっくりわかります。

ブ ー ス 番 号	出 展 区 分	出展代表者	出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
19	研究者と立ち話(ポスター／展示)	大学院薬学研究科教授 竹本佳司	くすりを組み立てる分子“触媒”の研究	自分の研究に関連して紹介したい本	『有機分子触媒の化学：モノづくりのパラダイムシフト』★★ 日本化学会 編 化学同人	危険毒物を使用しない、廃棄物を出さない、を目指した環境に優しいモノづくりの技術の開発は喫緊の課題である。高性能な合成触媒を創り出せれば、モノづくり手法が革新する可能性を秘めている。 本書では、日本の“有機分子触媒”研究の最前線で活躍している研究者が自らの研究を分かりやすく解説している。
21	研究者と立ち話(ポスター／展示)	人文科学研究所非常勤研究員 河西瑛里子	21世紀によみがえる魔女たち	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『聖魔女術：大いなる女神宗教の復活』 スターホーク 国書刊行会	修士課程入学後すぐ、指導教官の講義で現代に魔女術をよみがえらせている人々のDVDをみました。 その中に、現代の魔女界のスターとして知られるスターホークが登場していて、手に取ったのが本書です。 原著の初版は1979年になりますが、現代の魔女術について、当事者の視点から丁寧に説明され、エクササイズも豊富です。 今でも魔女たちに大人気の一冊です。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『女神：聖と性の人類学』 田中雅一 編 平凡社	魔女術に影響を受けたフェミニストが始めた信仰に、女神運動があります。 本書には、その実践者が率いる女神の聖地ツアーへの参加をもとに執筆された論文が所収されています。 それ以外の論文も、様々な視点から女神について志向を巡らせており、女性の神的存在とは何か、考えさせられます。
					『鏡リュウジの魔女と魔法学』★★ 鏡リュウジ 説話社	学術書ではありませんが、現代の魔女術について、手軽に読める一冊です。 本書の筆者は、占星術師として知られていますが、若かりし頃、ロンドンで魔女たちと交流しており、その体験をもとに、現代の状況も付け加えて、書かれています。 学術書も含めた参考文献も豊富です。
					『グラストンベリーの女神たち』★★ 河西瑛里子 法蔵館	発表者はイギリスのグラストンベリーという町において、魔女術や女神運動をはじめとした、様々な信仰に携わる人々を調査してきました。 その博士論文をもとにした書籍です。
22	研究者と立ち話(ポスター／展示)	大学院農学研究科教授 近藤直	蛍光物質が救う90億人の食料	自分の研究に関連して紹介したい本	『生物センシング工学：光と音による生物計測』★★ 近藤直、小川雄一、鈴木哲仁 編著： 西津貴久、椎木友朗 共著 コロナ社	本研究のことを掲載していること、大学の3回生の授業で利用している。
23	研究者と立ち話(ポスター／展示)	福井謙一記念研究センターリサーチリーダー 高塚和夫	分子科学の超高速実験と動的電子描像	自分の研究に関連して紹介したい本	『Chemical theory beyond the Born-Oppenheimer paradigm : nonadiabatic electronic and nuclear dynamics in chemical reactions』 K. Takatsuka, T. Yonehara, K. Hanasaki, Y. Arasaki World Scientific Publishing Co	動的な分子描像を展開した研究書です。 理論化学の基礎的な事項から出発して、最先端まで書かれています。 新しい時代の分子科学を目指す学部生・大学院生に読んでいただきたい。
24	研究者と立ち話(ポスター／展示)	大学院工学研究科助教 松田直樹	音で見る 超音波による非破壊検査	今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)	『カラスの教科書』★★ 松原始 雷鳥社	カラスの行動を易しく解説した本ですが、フィールドワーク研究者の生態についての本でもあります。 読み終わる頃には、外で見るカラスから目が離せなくなるでしょう。
					『カラスの補習授業』★★ 松原始 雷鳥社	カラスの行動を易しく解説した本ですが、フィールドワーク研究者の生態についての本でもあります。 読み終わる頃には、外で見るカラスから目が離せなくなるでしょう。
					『CPUの創りかた：IC10個のお手軽CPU設計超入門：初歩のデジタル回路動作の基本原理と製作』★★ 渡波郁 マイナビ出版	身近な機器で動く電子の頭脳、CPUの初歩の初歩についての解説本であると同時に、工作の指南書でもあります。 表紙の軽さとは裏腹にブラックボックスを少しでも明かそうというアカデミックな理念に支えられた名著です。

ブ ス 番 号	出 展 区 分	出展代表者	出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
25	研究者と立ち話(ポスター／展示)	大学院情報学研究科 助教 大本義正	人の間に浮かぶ「意思」	自分の研究に関連して紹介したい本	『正直シグナル：非言語コミュニケーションの科学』 アレックス・ベントランド みすず書房	非言語情報に基づいた、人間同士の記号的ではない情報のやりとりを紹介している。 言葉ではない情報を共有することの奥深さを感じてほしい。
26	研究者と立ち話(ポスター／展示)	防災研究所 教授 中北英一	豪雨の謎に挑む	今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)	『東京大洪水』★★ 高嶋哲夫 集英社	災害サスペンスとして未曾有の巨大台風が首都圏を直撃するストーリー。 気象防災について考えさせられる。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『一般気象学：第2版補訂版』★★ 小倉義光 東京大学出版会	気象学の入門書。
27	研究者と立ち話(ポスター／展示)	大学院農学研究科 研究員 横山操	木の物語を聴く、木のお話を読む	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『法隆寺を支えた木』 西岡常一、小原二郎 NHK出版	身近であるが故に、知っているような気になって見過ごしてしまう物事は色々あります。 樹木や木材も、そんな存在かもしれません。 けれども、木材は何万年も前から私たちの暮らしに無くてはならない大切な材料で、そのことは今も変わらないこと、そして、これからも変えてはならないことを、考えるきっかけとなった一冊です。
					『ロボ木と森』★★ やましたあきのり、よこやまみさお、たかみねみきこ 海青社	自身が母親になり、あらためて、これからの私たちの暮らしや、樹木のこと、木材のこと、環境のことについて思いを深くするようになりました。 そんな時、小さな子どもとその保護者の方々に向けての絵本製作プロジェクトに参画することになりました。 “もくいく(木育)”は、まだ耳慣れない言葉かもしれませんが、私たちの毎日の小さな気付きが、これからの子どもたちが生きる世界を守ることにつながる、と信じて作った多言語版の絵本です。
				今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)	『ロボ木と木』★★ やましたあきのり、よこやまみさお、たかみねみきこ 海青社	自身が母親になり、あらためて、これからの私たちの暮らしや、樹木のこと、木材のこと、環境のことについて思いを深くするようになりました。 そんな時、小さな子どもとその保護者の方々に向けての絵本製作プロジェクトに参画することになりました。 “もくいく(木育)”は、まだ耳慣れない言葉かもしれませんが、私たちの毎日の小さな気付きが、これからの子どもたちが生きる世界を守ることにつながる、と信じて作った多言語版の絵本です。
					『ロボ木と地球』★★ やましたあきのり、よこやまみさお、たかみねみきこ 海青社	自身が母親になり、あらためて、これからの私たちの暮らしや、樹木のこと、木材のこと、環境のことについて思いを深くするようになりました。 そんな時、小さな子どもとその保護者の方々に向けての絵本製作プロジェクトに参画することになりました。 “もくいく(木育)”は、まだ耳慣れない言葉かもしれませんが、私たちの毎日の小さな気付きが、これからの子どもたちが生きる世界を守ることにつながる、と信じて作った多言語版の絵本です。
				若者にお勧めしたい本	『日本の木と伝統木工芸』★★ メヒティル・メルツ 海青社	私の長年の友人Mechtild Mertz氏が著した本です。 Wood and Traditional Woodworking in Japan の日本語版です。 昨年の国際シンポジウムWood Science and Craftsmanship 2016 でも事務局推奨の書籍として関係者に紹介され、日本の伝統木工芸の概説として好評を得ています。 是非、若い世代の方々に手に取って頂きたいと思います。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『木の文化と科学』★★ 伊東隆夫 編 海青社	木材の材料物性について博士論文を提出した後、伝統文化の中での木材が果たす役割に興味を持ち、“木材の老化—木材を大切に使い続けるとどうなるか、どれだけ長く使い続けられるのか、どこにどのような樹種が使われているのか—”をテーマに研究をはじめました。 そのような研究の中で出版に関わった、思い入れのある一冊です。

ブ ス 番 号	出 展 区 分	出展代表者		推薦図書		
		所属・職名・氏名	出展タイトル	ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
28	研究者と立ち話(ポスター／展示)	国際高等教育院講師 Daniel Milne	英語教育や異文化理解に関する研究	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『Presence : bringing your boldest self to your biggest challenges』 Amy Joy Cuddy Little, Brown and Company	Amy Cuddy is a social psychologist who studies body language and how it affects the chemistry in our brains, particularly our confidence and anxiety levels. Using techniques she presents in her book, we can create a learning environment more conducive to active participation, and empower our students for the challenges of tasks such as group discussions and presentations.
					『Orientalism』 Edward Said Vintage	This was the beginning of my interest in research about intercultural communication and how we think about people from other cultures.
				自分の研究に関連して紹介したい本	『The play writing of Eugene O'Neill : Its process and technique』 伊藤佳世子 BOOK EAST	
29	研究者と立ち話(ポスター／展示)	ウイルス・再生医科学研究所准教授 井上康博	めっちゃ折れてん！2017	自分の研究に関連して紹介したい本	『ツノゼミ：ありえない虫』★★ 丸山宗利 幻冬舎	きつと、宇宙から飛来したに違いない。何より、カメムシみたいな虫がこんなにもバリエーションのある形を見せているというのが、数理的には、カメムシのおなら以上にブンブンに魅力的な芳香を放っているのだ。なぜなら、たった1つの形を説明する方程式よりも、2つの形を説明する方程式のほうが偉く、あらゆる形を説明する方程式は、超絶！宇宙の法則そのものだ！この虫は、広大な解空間を見せつけて、人類の知性を試している！
31	研究者と立ち話(ポスター／展示)	大学院工学研究科教授 乾晴行	炎を制する一超耐熱構造材料	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『耐熱合金のおはなし』★★ 田中良平 日本規格協会	高温耐熱材料がいかにCO2削減、省エネルギーに寄与しているか、どのようにして材料設計が行われているのかなどについて初心者にもわかりやすく書かれた本で、非常に感銘を受けた。
				今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)	『元素戦略：科学と産業に革命を起こす現代の錬金術』★★ 中山智弘 ダイヤモンド社	「材料を制する者が世界を制する。」元素を原子スケールでマニピュレートすることで、これまでにない素晴らしい材料をいかに作り上げるかを考えさせられる。
				若者にお勧めしたい本	『航空の世紀』★★ 中山智弘 技報堂出版	航空機における耐熱材料の重要性を系統的に理解するのに最適の書。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『金属間化合物入門』★★ 山口正治、乾晴行、伊藤和博 内田老鶴園	耐熱材料の中のエース、金属間化合物について平易に述べられている。
33	研究者と立ち話(ポスター／展示)	医学部附属病院臨床研究総合センター特任准教授 佐藤恵子	ゲノム編集で肉厚な真鯛、食べる？	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『現代倫理学入門』★★ 加藤尚武 講談社	学部生のときに読んで倫理学を学ぶことにしました。現代の社会的問題を考える上で哲学が重要であることを教えてくれる本です。
				今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)	『137億年の物語：宇宙が始まってから今日までの全歴史』★★ クリストファー・ロイド 文藝春秋	地球が誕生して、生物が生まれ、人間が出現して、文明も争いも起り・・・という物語が「続き物」として語られています。ページを開くだけで時空を超え、好きな時と場所に旅ができる、とても素敵な本です。
				若者にお勧めしたい本	『マンガで学ぶ生命倫理：わたしたちに課せられた「いのち」の宿題』★★ 児玉聡文、なつたか 漫画化学同人	再生医療やら脳死臓器移植やら、「夢の医療」などと報道されるけど、そんなにバラ色なの？ そもそも、脳死ってなんだっけ？ 生き死にの問題は、身近なことであり自分で考えなくてはならないのですが、難しいし辛気くさいし、ハードルが高いですね。 この本は、女子高生の日常を軸にして、脳死や生殖医療、クローン技術など、生命倫理の問題を学びつつ、考えられるように工夫されています。 是非手にとってみてください。

ブ ス 番 号	出 展 区 分	出展代表者	出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
33	研究者と立ち話(ポスター／展示)	医学部附属病院 臨床研究総合センター 特任准教授 佐藤恵子	ゲノム編集で肉厚な真鯛、食べる？	自分の研究に関連して紹介したい本	『ゲノム編集の衝撃：「神の領域」に迫るテクノロジー』 NHK「ゲノム編集」取材班 NHK出版	ゲノム編集の技術の解説、品種改良や医療への応用、研究の現状、技術の問題点などがわかりやすく説明されています。
35	研究者と立ち話(ポスター／展示)	学際融合教育研究 推進センター 教授／教授 田中庸裕／田中功	元素戦略プロジェクト	自分の研究に関連して紹介したい本	『元素戦略：科学と産業に革命を起こす現代の錬金術』★★ 中山智弘 ダイヤモンド社	元素戦略プロジェクトのプログラムオフィサーが著した本で、「元素戦略」のねらいがわかるように書かれている。
37	研究者と立ち話(ポスター／展示)	環境安全保健機構 附属健康科学センター 助教 松崎慶一	効率的な検尿スクリーニングを目指して	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『川の見える病院から：がんたたかう子どもたちと』 細谷亮太 岩崎書店	高校1年生の時に著者の講演を聞いて、医師になろうと決断しました。 思い出に残る一冊です。
				今ハマっている本(誰かとこの本について話したい)	『ねじまき鳥クロニクル』★★ 細谷亮太 新潮社	高校生の頃に初めて読んでから、数年毎に読みたくなって読み直しています。 自分が年を重ねると共に読後感も変わってくる、不思議な小説。 まさにクロニクル(年代記)。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『臨床研究の教科書：研究デザインとデータ処理のポイント』★★ 川村孝 医学書院	臨床研究を行う上で、重要なエッセンスが詰まっています。 自分も修士課程・博士課程の学生と共に研究する際に、タイトル通り「教科書」として用いています。
40	研究者と立ち話(ポスター／展示)	大学院文学研究科 教授 松田素二	アフリカから人類の未来の幸せをみる	若者にお勧めしたい本	『新書アフリカ史』★★ 宮本正興、松田素二 編 講談社	人類誕生から混沌の現代へ、壮大なスケールで描く民族と文明の興亡。 新たなアフリカ像を提示し、世界史の読み直しを迫る必読の歴史書！
				自分の研究に関連して紹介したい本	『アフリカ社会を学ぶ人のために』★ ★ 松田素二 編 世界思想社	多様な民族・言語・生態環境をもつアフリカが体系的にわかる入門書。 アフリカの経験してきた過去・困難・絶望のなかから、アフリカの潜在力を描きだし、人類社会の希望と可能性を展望する。 21世紀のアフリカを理解するための必携書。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『紛争をおさめる文化：不完全性とブリコラージュの実践』★★ 松田素二、平野(野元)美佐 編 京都大学学術出版会	誰もが不完全であることを認める。 これこそが、アフリカ文化に内在した世界観である。 自らの「完全」性を信じ、それ以外のものへの不寛容や攻撃を「遅れたものを救済する」正義として正当化してきた西洋的近代の誤謬を糾す可能性がそこにはある。 緻密な民族誌から、アフリカの日常的実践の持つ、紛争を回避し和解を進める力を析出する。
41	研究者と立ち話(ポスター／展示)	文化財総合研究センター 助教 富井真	うつわの正面ど～れ～古代人の認知ー	自分の研究に関連して紹介したい本	『考古学を考える：方法論的展望と課題』 藤本強 雄山閣	大学の学部生時代に読んだ時には、よくわからない本でした。 でも、専門の研究を進める中で読み返した時、これは凄い本だな、と思いました。 考古学によって復元された歴史像について書いている本は多々ありますが、歴史像の復元のためにどういった着眼点や考え方、調査方法や論理を用意しておくべきか考えさせてくれる本は、いまだにあまり多くありません。 この本は、その手がかりをたくさん与えてくれます。
43	研究者と立ち話(ポスター／展示)	環境安全保健機構 附属健康科学センター 教授 石見拓	大学生から始める健康情報活用	若者にお勧めしたい本	『サピエンス全史：文明の構造と人類の幸福』★★ ユヴァル・ノア・ハラリ 河出書房新社	
				自分の研究に関連して紹介したい本	『臨床研究の教科書：研究デザインとデータ処理のポイント』★★ 川村孝 医学書院	疫学や医療統計学を一から学びたいという方、初めての臨床研究に取り組む方にお勧めの一冊です。

ブ ス 番 号	出 展 区 分	出展代表者	出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
44	研究者と立ち話(ポスター／展示)	文学部 教務補佐員 山本 孟	楔形文字の世界と文字認識の実現	自分の研究に関連して紹介したい本	『楔形文字を読む』★★ ブリジット・リオン、セシル・ミシェル編 山川出版社	楔形文字とはどのような文字なのか、丁寧に解説されています。 また、楔形文字で記された諸言語がどのように解读され、それを書き残した書記がどのように育成されたのかもわかりやすく説明されています。
48	研究者と立ち話(ポスター／展示)	大学院医学研究科 教授 伊佐 正	脳の機能回復に関わる神経回路の変化	自分の研究に関連して紹介したい本	『意識はいつ生まれるのか：脳の謎に挑む統合情報理論』★★ マルチェット・マッスィーニ、ジュリオ・トノーニ 垂紀書房	「意識」の実体を理解することは脳科学の究極の目標。 その現時点での到達段階をわかりやすくまとめた好書。
49	研究者と立ち話(ポスター／展示)	高等研究院 特別教授 北川 進	ナノ空間の世界と化学	若者にお勧めしたい本	『化学物質はなぜ嫌われるのか：「化学物質」のニュースを読み解く』★★ 佐藤健太郎 技術評論社	科学には負の側面が付き物ではあるが、時として根拠のない偏見により強調されがちである。 科学技術の恩恵とリスクに対してどのように向き合っていくべきか、本書ではそうした負の側面の代表格と言える「化学物質」に焦点を当てて分かりやすく解説している。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『集積型金属錯体：クリスタルエンジニアリングからフロンティアオービタルエンジニアリングへ』 北川進 講談社	ナノ空間は単なる小さな空間ではなく、設計により特異な構造と機能を発現させることが出来る。 ナノ空間を創生するための代表的手法である集積型金属錯体を設計・構築するための基礎理論・実例を解説した研究者向けのバイブルです。
					『革新的な多孔質材料：空間をもつ機能性物質の創成』★★ 日本化学会 講談社	ナノ空間の化学の研究トレンドを基礎から先端研究まで広く紹介しています。 この分野の入門として最適な一冊です。
52	研究者と立ち話(ポスター／展示)	iPS細胞研究所 特定拠点助教 杉本直志	iPS細胞から輸血用の血小板を作る	今の仕事(研究、進路)を選ぶきっかけになった本	『優雅な留学が最高の復讐である：若者に留学を勧める大人に知ってほしい大切なこと』★★ 島岡要 医歯薬出版	留学を題材にして、人生設計の考え方を示してくれる良本でした。
				若者にお勧めしたい本	『天才!成功する人々の法則』★★ マルコム・グラッドウェル 講談社	原題はOutliersといい、並外れた人たちが生まれた環境背景がこれでもかと例示されます。 環境要素は見逃されがちですが、読むまで気づかなかった環境要素の様々な例は、子育てでのヒントになると感じます。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『再生医療叢書(幹細胞)』★★ 日本再生医療学会 監修 朝倉書店	iPS細胞を含め、幹細胞の生物学から、再生医療まで網羅された充実した書籍です。
54	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話	大学院農学研究科 博士研究員 等々力政彦	共生進化の実験	若者にお勧めしたい本	『ご冗談でしょう、ファインマンさん』★ ★ リチャード・P・ファインマン 岩波書店	一般には、物理学者ファインマン先生の愉快ないたずらのお話と紹介される本。 しかし、研究とパーソナリティはどのように繋がるかができるのか、研究生活の中で自身の自由をどのように実現するのかについて、深く考えさせられ、自信を与えてくれる本である。 京都も登場する。
				自分の研究に関連して紹介したい本	『文明の誕生』 コリン・レンフルー 岩波書店	考古学資料から、ある地域に特徴的な文化がおこったと考えられる場合、それが外部からの影響なのか、独立に発明されたのかが問われることが多い。 しかし、ある独創的なアイデアが、外部から到達しなかったと言い切ることが難しい以上、そのような考察上の対立はあまり意味がない。 それよりもそのアイデアがその社会においてどのように受容されたかを考えるべきである、ということについて具体例を示している本。

ブ ス 番 号	出 展 区 分	出展代表者	出展タイトル	推薦図書		
		所属・職名・氏名		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
54	ちゃぶ 台 囲 ん で 膝 詰 め 対 話	大学院農学研究科 博士研究員 等々力政彦	共生進化の 実験	自分の研究 に関連して 紹介したい 本	『言語の興亡』 ロバート・M・W・ディクソン 岩波書店	地球上の言語は、古生物が断続平衡的に進化するよう に、言語変化の少ない長い平衡期と急速に分裂、変化す る短い中断期が繰り返されたとする新しい説の紹介。 オーストラリア先住民の言語研究から導き出された具 体的な例などから、異文化接触によって言語が変容してゆく 過程を考察する。 生物進化との対比が興味深く、また少数者が生き延びる ためのヒントも与えてくれる。
					『「進化論」を書き換える』 池田清彦 新潮社	構造主義の立場から、進化を再考察している。 遺伝子還元主義的な研究が多い中、形質変化がはたし て遺伝子の突然変異だけで語られるのかについて、具 体的な例とともに問題点を示し、今後の新しい実験に示 唆を与えてくれる本。
57	ちゃぶ 台 囲 ん で 膝 詰 め 対 話	大学院医学研究科 特定准教授 藤本明洋	ヒトゲノムの 深い理解を 目指して	今の仕事 (研究、進 路)を選ぶ きっかけに なった本	『分子進化学への招待：DNAに秘め られた生物の歴史』 宮田隆 講談社	分子進化学の面白さ、基礎がとてわかりやすく説明して あります。 この本を読んで分子進化学へ進んだ方は何人ものと思 います。
				若者にお勧 めしたい本	『がん遺伝子の発見—がん解明の同 時代史』★★ 黒木登志夫 中央公論新社	「がん解明の同時代史」とあるように、遺伝学的发展とと もに歩んできた著者が、個人的なエピソードも交えつつ、 がん遺伝子の発見の歴史を魅力的に書いています。
				自分の研究 に関連して 紹介したい 本	『ヒトの変異：人体の遺伝的多様性に ついて』★★ アルマン・マリー・ルロワ みすず書房	ヒトの変異について、生物学的視点から紹介されていま す。 豊富なエピソードと写真も多く、読みやすいです。 「私たちはみなミュータントなのだ。ただその程度が、人に よって違うだけなのだ」
59	ちゃぶ 台 囲 ん で 膝 詰 め 対 話	福井謙一記念研究 センター シニアリサーチフェ ロー 榊茂好	フロンティア 軌道理論：役 に立つの？	若者にお勧 めしたい本	『学問の創造』 福井謙一 朝日新聞出版	福井謙一博士の幼少期から京大教授時代、その後にお ける、自然科学に対するお考えなどが、興味深くつづら れている。
60	ちゃぶ 台 囲 ん で 膝 詰 め 対 話	大学院医学研究科 日本学術振興会特 別研究員DC1 華井明子	「これは効 く」ってなん だろう？	今の仕事 (研究、進 路)を選ぶ きっかけに なった本	『Rosalind Franklin : The Dark Lady of DNA』 Brenda Maddox HarperCollins	二重らせん構造発見に関わるスキャンダラスな人間模様 のなかで強い意志を貫き、人生を楽しみながら真剣に研 究を行い続けたフランクリンに憧れ、研究を志したいと思 いました。
				自分の研究 に関連して 紹介したい 本	『患者学のすすめ：“人間らしく生きる 権利”を回復する新しいリハビリテー ション』★★ 上田敏、鶴見和子 藤原書店	医学のなかで、病気だけでなくその人が生きてきた生活を 支援していく「リハビリ」の専門家が、患者となった社会 学者と考える「患者のあり方」について書いた一冊です。 病院で「お医者さんが言うとおりにします」とは言えなくな ります。



生協ショップルネ書籍コーナーにて「研究者の本棚」関連コーナーを設置しています！
是非お立ち寄りください！

（場所：京都大学西部生協会館ルネ1階）

編集者 白井哲哉（学術研究支援室）
仲野安紗（学術研究支援室）
神谷俊郎（学術研究支援室）
大西将徳（学術研究支援室）
斎藤万里絵（学術研究支援室）
山下絵理子（研究推進部研究推進課研究助成掛）
永井麗子（研究推進部研究推進課研究助成掛）
デザイン 永田奈緒美（情報環境機構）
写真 大森貴生

発行日 2017 年 12 月 22 日
発行 学術研究支援室
研究推進部研究推進課
「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ

問合せ 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学 学術研究支援室
Tel : 075-753-5113
E-mail : kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※職名・組織名等は開催当時の名称です。